Endeavor

NA801

ユーザーズマニュアル

ご使用の前に
1 設置・準備
2 基本操作
3 装置の増設
4 BIOS設定
5 再インストール
6 困ったときに
付録

Windows Vista

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

	警告
	交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグを触らないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。
	電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
	破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート･サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
	本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。

警告	
	バッテリパックの金属端子を水、コーヒー、ジュースなどの液体でぬらさないでください。 感電・火災・火傷の原因となります。
	水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
	本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。
	メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。 感電や火傷の原因となります。
	バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。 発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
	本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。 破裂などで火傷の原因となります。
	バッテリパックの金属端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。
	付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。 また､本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
	小さなお子様の手の届く所にバッテリパックを保管しないでください。 なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。
	バッテリパックには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

⚠ 警告	
	バッテリ駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリパックと交換してください。 駆動時間が短くなったバッテリパックは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリパックをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。
	航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか、Bluetooth機能および無線LAN機能の電波を停止してください。 電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。 また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
	医療機関の屋内でBluetooth機能および無線LAN機能を使用するときは、次のことを守ってください。 ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。 ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。 ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
	植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能および無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。 電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。 満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
	Bluetooth機能および無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

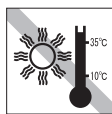
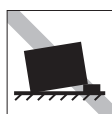
⚠ 注 意	
	小さなお子様の手の届く所に設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	湿気やホコリの多い所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
	起動状態で本機の通風孔をふさがないでください。 起動状態で通風孔をふさぐと、内部に熱がこもって本機が熱くなり、火傷や火災の原因となります。次の点を守ってください。 ・じゅうたんや布団の上にのせない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。 ・キャリングケースやバッグなどに入れない。
	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
	FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。 ・構内交換機（PBX） ・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど） ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック
	ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
	パームレストやキーボードに長時間手を置かないでください。 パームレストやキーボードが熱くなることがあり、低温火傷のおそれがあります。
	ひざの上で長時間使用しないでください。 本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
	付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。

⚠ 注 意

	破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。 万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリパックが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。 そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
	ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。
	ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。 低温火傷の原因となります。
	メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。 作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
	液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入ったりした場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。
	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
	長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
	本機を移動する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。
	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。 液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。

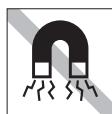
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。
特に指定のない限り、注意事項は、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃〜35℃です。

不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

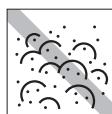
LCD画面の表面を先の尖ったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

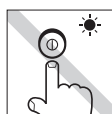
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

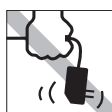
本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。

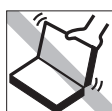
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機に装着したままにしないでください。
液漏れを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因となります。

本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けたりしないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

ほかの機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

本機を落としたり、ぶつけたりして、衝撃を与えないでください。持ち運ぶときは、電源を切り、バッグに入れるなどして衝撃から守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。

本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

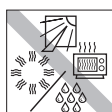
キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

▶記録メディア

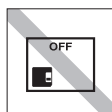
記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

＜記録メディアの種類＞

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。

クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
摩耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD

シールを貼らないでください。

CD

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

無線LAN使用時における
セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

目　次

製品保護上の注意 8
使用・保管時の注意 8
記録メディア 9
無線LAN使用時における
セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）... 11

はじめに

マニュアル中の表記 18
本製品の仕様とカスタマイズ 22

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 24
コンピュータを使い始めるまでの手順 ... 24
ご使用前の確認事項 25
添付されているソフトウェア 26
本機でできること 29
各部の名称と働き 30
正面・左側面 30
右側面・背面 33
底面 34
コンピュータの設置 35
電源の入れ方とWindowsのセットアップ 41
Windowsが使用できるようになるまでの作業 ... 41
電源を入れる前に 41
電源の入れ方とWindowsの起動 43
Windowsのセットアップ 44
初期設定ツール 46
セットアップ完了後の作業 48
Windows使用時の確認事項 49
Windows Vistaの使用方法 49
音量の調節 50
インフォメーションメニューを使う 50
Windowsの修復 52
復元ポイントを作成する 52
セキュリティ対策を行う 52
画面表示が消えたときは（省電力機能）... 53
コントロールパネルの表示 53
フォルダメニューの表示 54
ユーザーアカウントを作る 54
ユーザーアカウント制御画面 55
本機の終了方法 56
通常の終了（スリープ） 57
電源を切る（シャットダウン） 58
再起動 59
ハングアップしたときは 60

コンピュータの基本操作

ACアダプタ/バッテリパックを使う 62
使用時の注意 63
バッテリの使用可能時間 65
バッテリの充電 65
バッテリ残量の確認 66
バッテリ残量が少なくなったら 66
バッテリの交換 68
バッテリの寿命を延ばすには 70
バッテリ保管上の注意 70
使用済みバッテリの取り扱い 71
タッチパッドを使う 72
タッチパッドの操作 72
タッチパッド機能をOFFにする 74
タッチパッドユーティリティを使う 75
USBマウス（オプション）の接続 76
キーボードを使う 77
キーの種類と役割 77
文字を入力するには 78
日本語を入力するには 78
数値やアルファベットの入力 79
Fnキーと組み合わせて使うキー 80
入力キーの機能の入れ替え 81
タッチセンサー 82
HDDを使う 83
データのバックアップ 83
購入時のHDD領域 83
HDDを分割して使用する 84
HDDの暗号化 85
光ディスクドライブを使う 86
ドライブの機能と使える光ディスクメディア ... 86
光ディスクメディアのセットと取り出し ... 87
CDメディアの読み込み・再生 89
DVDメディアの読み込み・再生 89
光ディスクメディアへの書き込み 90
Nero 7 Essentialsの使い方 91
USB機器を使う 93
USB機器の接続と取り外し 93
メモリカードを使う 95
本機で使用できるメモリカード 95
メモリカードのセットと取り外し 96
Expressカードを使う 100
Expressカードのセットと取り外し 100

Bluetooth機能を使う 104
Bluetooth機能をお使いの前に 105
Bluetooth機能のON/OFF方法 108
Bluetooth対応の周辺機器を使用する ... 109
コンピュータ同士でBluetooth通信する ... 110
セキュリティを設定する 112
画面表示をする 113
LCDユニットの仕様 113
LCDユニットの調整 114
表示できる解像度と表示色 115
画面サイズを切り替える 117
外付けディスプレイに表示する 118
ディスプレイの接続 118
画面表示の種類 120
画面表示を切り替えるには 121
外付けディスプレイで
表示できる解像度と表示色 123
サウンド機能を使う 124
マイクなどの接続 125
音量の調節 126
音声の再生・録音 127
サウンドユーティリティを使う 128
指紋認証機能を使う 130
指紋認証機能でできること 130
指紋センサー 131
指紋認証機能を
使用できるようになるまでの流れ 132
指紋認証ユーティリティのインストール ... 132
指紋の登録 132
指紋認証機能を使用する 135
ネットワーク（有線LAN）を使う 136
ネットワークの構築 136
インターネットへの接続 136
Wakeup On LAN 137
リモートブート 138
ネットワーク切替えツールを使う 138
無線LANを使う（オプション） 141
対応規格 141
無線LANの概要 141
無線LAN使用時の注意 143
無線LAN機能のON/OFF方法 145
無線LAN接続の設定をする 146
無線LANを使う 150
インターネット接続の設定 150
強固なセキュリティ設定をする 150
複数の無線LAN環境を登録する 153
インターネットに接続するには 154
接続するまでの流れ 154
接続方法の選択とプロバイダとの契約 ... 154
インターネットに接続する 155
インターネットを使う上での注意 156
インターネットや電子メールを利用する ... 156
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ... 159
Windows Update 159
セキュリティソフトウェア 161
ファイアウォール 162
Windows Defender 163
フィッシング詐欺検出機能 164
Webフィルタリングソフトウェア 165
FAXモデムを使う 168
お使いになる前に 168
ダイヤル情報の設定 170
手動でダイヤルアップ接続の設定をする ... 171
接続に関する詳細設定 173
電源設定を行う（省電力機能を使う） 174
電源プランの設定 174
本機を省電力状態にする 175
省電力状態に移行する方法 177
そのほかの機能 180
SpeedStep（スピードステップ）機能 ... 180
インテル・ターボ・メモリ（オプション）... 180
セキュリティロックスロット 180

システムの拡張

拡張できる装置 182
メモリの装着 183
メモリの仕様 183
メモリ装着の組み合わせ 183
作業時の注意 184
メモリの増設・交換 185
メモリの増設・交換後の作業 189
外付け可能な周辺機器 190

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に 192
BIOS Setupユーティリティの操作 193
BIOS Setupユーティリティの起動 193
BIOS Setupユーティリティの操作 194
BIOS Setupユーティリティの終了 197
設定値を元に戻す 198

パスワードを設定する 199
HDDアクセス制限 202
起動（Boot）デバイスの順番を変更する ... 203
BIOS Setupユーティリティの設定項目 205
Mainメニュー画面 205
Advancedメニュー画面 206
Securityメニュー画面 207
Bootメニュー画面 209
Exitメニュー画面 209
BIOS Setupユーティリティの設定値 ... 210

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ... 212
再インストールが必要な場合 212
重要事項 212
ソフトウェアの再インストールを行う 214
必要なメディア 214
再インストールの概要 214
インストールの順番 215
インストール作業における確認事項 216
Windowsのインストール 218
Windows Vistaをインストールする ... 219
リカバリツールのインストール 222
本体ドライバのインストール 223
Bluetoothドライバのインストール 225
Adobe Readerのインストール 226
セキュリティソフトウェアのインストール ... 227
Webフィルタリングソフトウェアのインストール 227
マニュアルびゅーわのインストール 228
Nero 7 Essentialsのインストール 229
WinDVDのインストール 229
JWord Pluginのインストール 230
gooスティックのインストール 230
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール 231
そのほかのインストール 232
再インストール後の作業 233

こんなときは

トラブルが発生したら 236
困ったときに 237
コンピュータ本体の不具合（起動時）... 238
コンピュータ本体の不具合 244
メモリの不具合 247
記憶装置の不具合 247
入力装置の不具合 252
表示装置の不具合 254
サウンドの不具合 255
ソフトウェアの不具合 256
FAXモデムの不具合 259
ネットワーク、インターネットの不具合 ... 261
システム診断ツールを使う 262
システム診断を実行する 262
トラブル時に役立つ機能 263
セーフモードでの起動 263
システムの復元 263
Windows回復環境（Windows RE）を使う ... 265
警告メッセージ/警告音 268

付録

お手入れ 270
本機のお手入れ 270
データのバックアップ 271
バックアップ方法 271
バックアップCDの作成 272
バックアップCDの作成方法 272
バックアップCDからインストールを行うには ... 273
電子マニュアルのダウンロード 274
ダウンロードできるそのほかのデータ ... 274
セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化 ... 275
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成 276
HDD領域を分割して使用する（概要）... 276
Cドライブを分割・変更する 277
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ... 280
Cドライブ以外のドライブを削除する ... 283
リチウム電池の交換 284
ATコマンドの使用 285
コンピュータを廃棄するときは 286
HDDのデータを消去する 286
機能仕様一覧 288
索引 290

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」 18
「本製品の仕様とカスタマイズ」 22

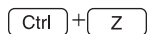
マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

記号	説明
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

記号	説明
	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	**本書とは別のマニュアルを示します。** 例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。
	参照先を示します。
1 2	**操作手順です。** ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
[Ctrl]	**[　] で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。** [↵] はEnterキーを表します。また、[N] は [N み] のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
[Ctrl]+[Z]	**＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。** この例では、[Ctrl] を押したまま [Z] を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows Vista	Windows Vista® Ultimate Windows Vista® Business Windows Vista® Home Premium Windows Vista® Home Basic

HDD容量の記述

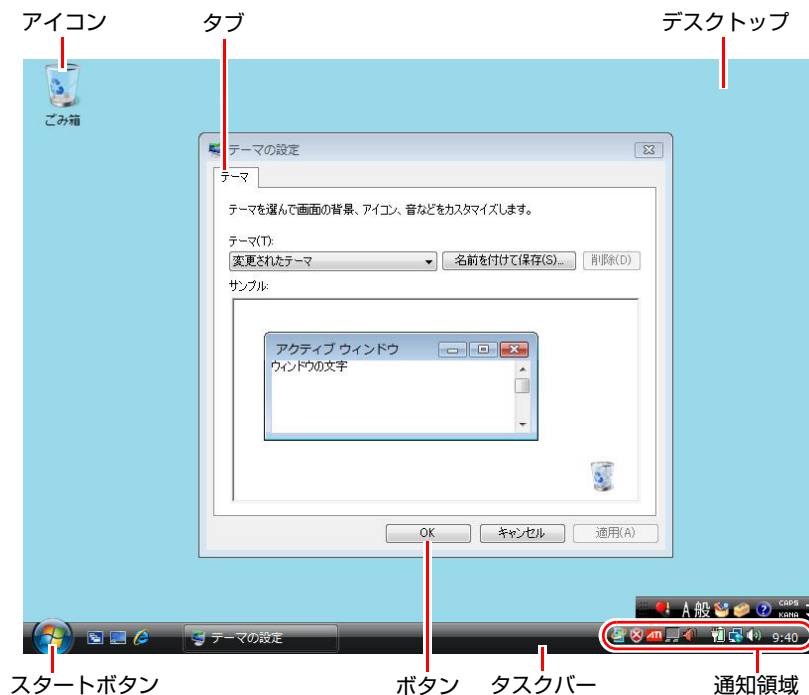
本書では、HDD容量を1GB（ギガバイト）＝1000MBとして記載しています。

メモリ容量の記述

本書では、メモリ容量を1GB（ギガバイト）＝1024MBとして記載しています。

Windows Vistaの画面表示に関する記載方法

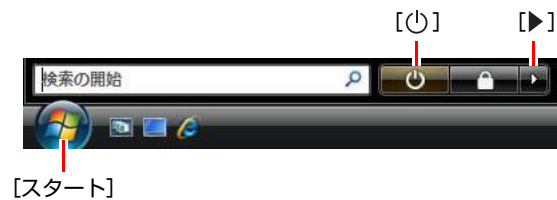
デスクトップ画面

本書では、Windows Vistaの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタン

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例） OK ：［OK］

スタートメニュー

［スタート］を押すと表示されるスタートメニューのボタン類は、次のように記載します。

画面操作

本書では、Windows Vistaの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

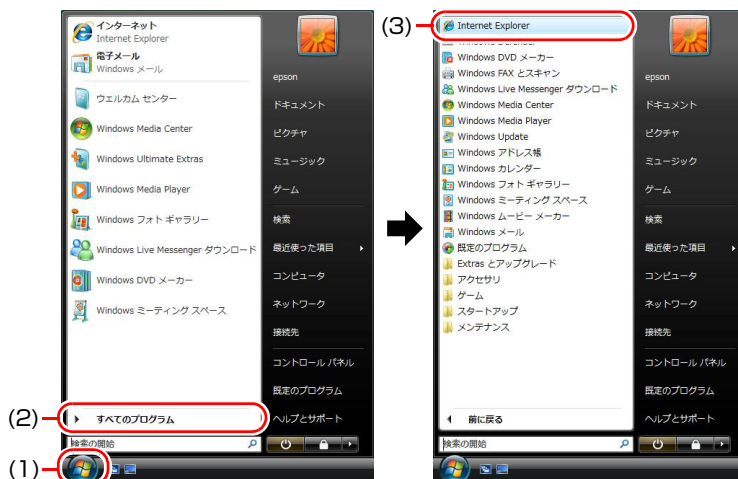
- 記載例

  [スタート] –「すべてのプログラム」–「Internet Explorer」をクリックします。

- 実際の操作

  (1) [スタート] をクリックします。

  (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

  (3) 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されている場合があります。
お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章
使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用の前に」 24
「添付されているソフトウェア」 26
「本機でできること」 29
「各部の名称と働き」 30
「コンピュータの設置」 35
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」 41
「Windows使用時の確認事項」 49
「本機の終了方法」 56

ご使用の前に

▶コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品に不足や不良がないかを確認する

『梱包品の確認』（別冊）

本機を使用する前に必要な情報を確認する

p.2 「安全にお使いいただくために」
p.8 「製品保護上の注意」
p.18 「マニュアル中の表記」
p.22 「本製品の仕様とカスタマイズ」
p.24 「ご使用の前に」
p.26 「添付されているソフトウェア」
p.29 「本機でできること」
p.30 「各部の名称と働き」

コンピュータを設置し、各機器の接続を行う

p.35 「コンピュータの設置」

電源を入れ、Windowsをセットアップする

p.41 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

使用開始！

▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

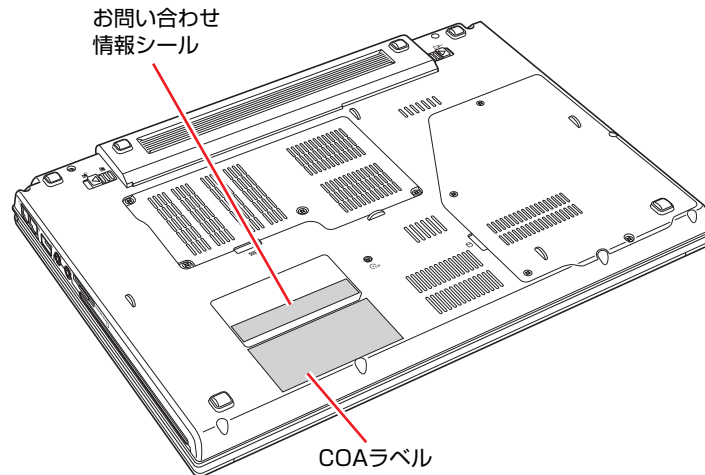
● お問い合わせ情報シール

お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

● COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

1

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方

	ソフトウェアは添付のDVDまたはCDに収録されています。
	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。 p.84 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Windows Vista 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	Windows VistaリカバリDVD
● リカバリツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	リカバリツールCD
● チップセットドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	消去禁止領域
● Intel Matrix Storage Manager Windows 上でHDDの状態を確認するためのユーティリティです。	
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。	
● ネットワーク切替えツール V2 ネットワークの設定を切り替えるためのユーティリティです。	
● 無線LANドライバ（無線LAN搭載時のみ） 無線LANを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	
● インスタントキードライバ Fn と組み合わせて使用する機能キーや、タッチセンサーを使用するためのドライバです。	

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● インスタントキーユーティリティ タッチセンサーを使用するためのユーティリティです。	消去禁止領域
● インテル・ターボ・メモリドライバ（ターボ・メモリ選択時のみ） ターボ・メモリを使用するためのドライバです。	
● 指紋認証ドライバ 指紋認証機能を使用するためのドライバです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	
● Nero 7 Essentials 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。	
● WinDVD DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。	

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

p.46 「初期設定ツール」
p.48 「セットアップ完了後の作業」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Bluetoothドライバ Bluetooth機能を使用するためのドライバです。	消去禁止領域
● 指紋認証ユーティリティ 指紋認証機能の設定を行うためのユーティリティです。	
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	
● i－フィルター 4　30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。	
● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。	

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。	消去禁止領域
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ（TPM）の設定を行うためのユーティリティです。	

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

p.262 「システム診断ツールを使う」

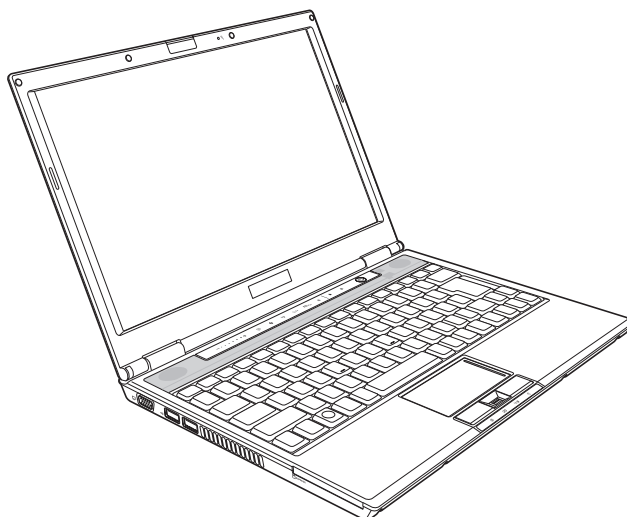
そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	リカバリツールCD

消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

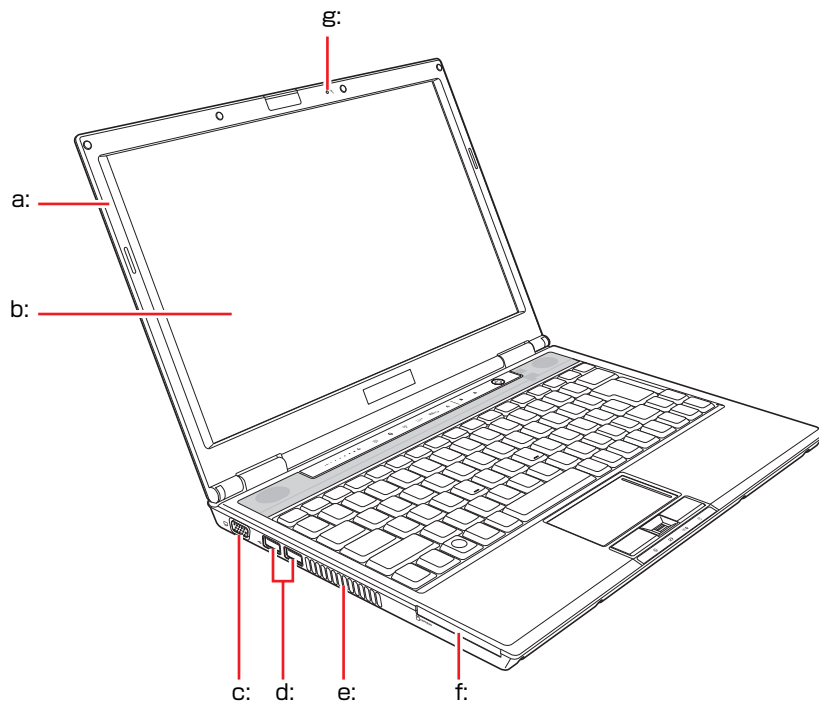
書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDDの「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

p.272 「バックアップCDの作成方法」

本機でできること

本機は高いグラフィック性能を持つ、ノート型コンピュータです。本機は13.3型ワイド液晶ディスプレイを搭載しています。
本機では、主に次のようなことができます。

- インターネットやメールを利用する p.156
- 光ディスクを再生する
  光ディスクにデータを保存する p.86
- ネットワークに接続する p.136
- 無線LANを使う（オプション） p.141
- FAXモデムで通信する p.168
- USB機器を接続して使う p.93
- Bluetooth対応機器を使う
  Bluetoothでデータを送受信する p.104
- メモリカード（メモリースティックなど）やExpressカードを使う p.95 p.100
- 音声の入力・出力をする p.124
- 画面表示を調節する p.113
- 外付けディスプレイに表示する p.118
- 指紋認証機能を使う p.130
- 省電力機能を使う p.174
- メモリを増設・交換する p.183

各部の名称と働き

▶正面・左側面

a: LCDユニット
LCD画面を含めたカバー部分です。

b: LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

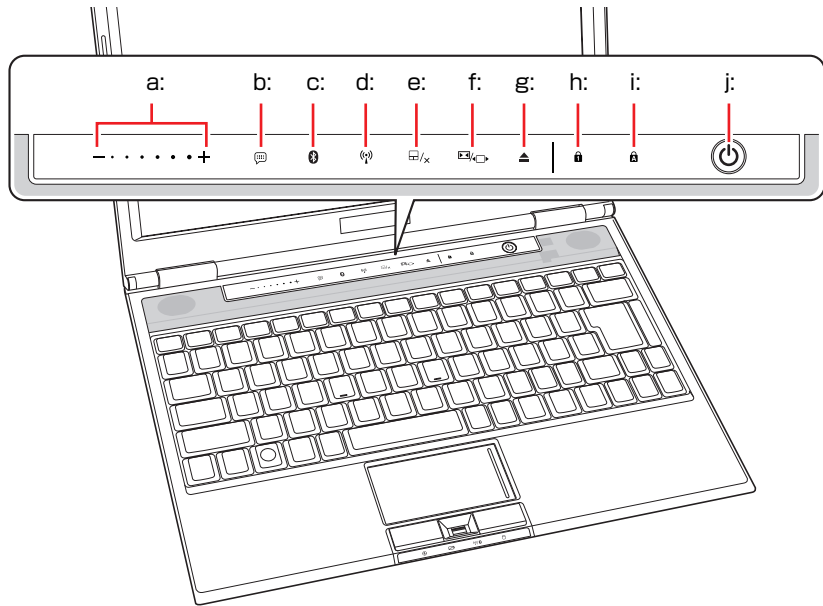
c: VGAコネクタ
外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

d: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

e: 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

f: Expressカードスロット EXPRESS
Expressカードをセットします。

g: 内蔵マイク
音声をコンピュータに取り込みます。

電源スイッチ／ステータス表示ランプ／タッチセンサー

a: ボリュームコントロール
音量を調節します。

b: インフォメーションキー
インフォメーションメニューを起動します。

c: Bluetoothキー
本機のBluetooth機能のON/OFFを切り替えます。

d: 無線LANキー
<無線LAN搭載時のみ機能>
本機の無線LANのON/OFFを切り替えます。

e: タッチパッドキー
タッチパッドのON/OFFを切り替えます。

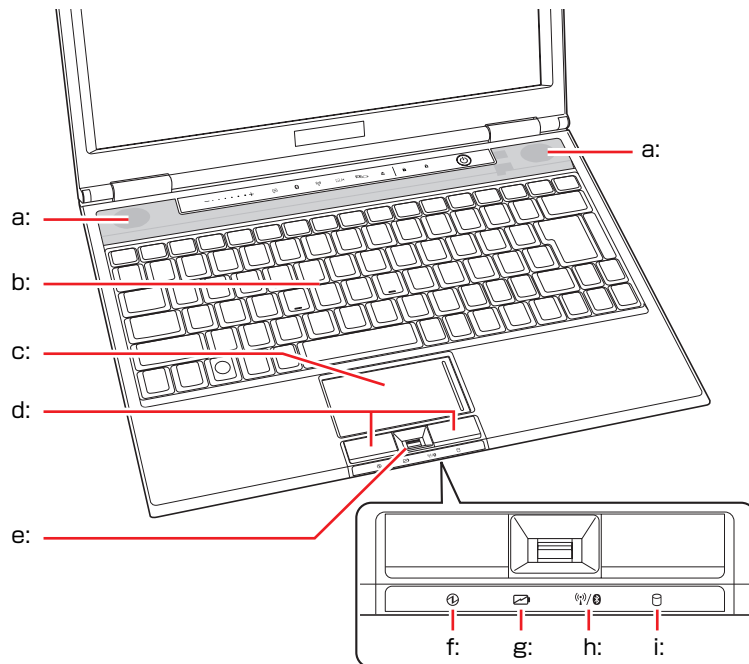
f: 画面サイズ切り替えキー
キーを押すたびに、画面のサイズを切り替えます。

g: 光ディスクドライブイジェクトキー
光ディスクメディアを取り出します。

h: NumLockランプ
NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

i: Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、アルファベットの大文字を入力することができます。

j: 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用します。

スピーカ／タッチパッド／キーボード／ステータス表示ランプ

a: 内蔵ステレオスピーカ
警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

b: キーボード
文字の入力やソフトウェアの操作などを行います。

c: タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

d: クリックボタン
マウスの左右ボタンに相当します。

e: 指紋センサー
指紋認証機能使用時に、指紋を読み取ります。

f: 電源ランプ
電源状態を示します。
青点灯：通常
青点滅：スリープ状態
消　灯：電源切断時または休止状態

g: バッテリ充電ランプ
バッテリの充電状態を示します。
オレンジ色点灯：充電中
消　灯：満充電

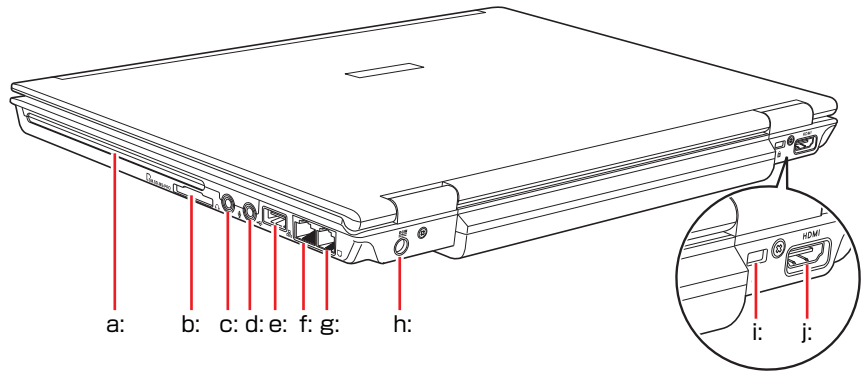
h: 無線LAN/Bluetooth状態ランプ
無線LANまたはBluetoothのON/OFF状態を示します(無線LAN状態ランプは無線LAN搭載時のみ機能します)。

p.145 「無線LAN機能のON/OFF方法」

p.108 「Bluetooth機能のON/OFF方法」

i: アクセスランプ
HDDアクセス中に青色に点灯します。

アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶右側面・背面

a: 光ディスクドライブ
光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います。

b: メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO
メモリカードの読み込みや書き込みなどを行います。

c: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
スピーカ、ヘッドフォンや光デジタルオーディオ機器（MDデッキなど）などを接続します。

d: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

e: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

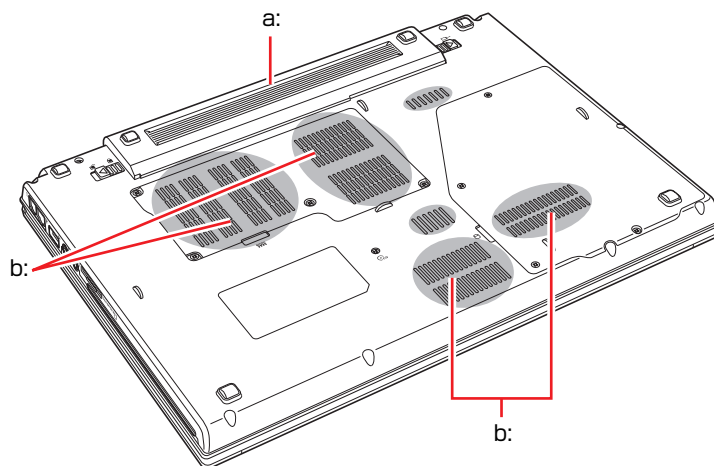
f: LANコネクタ
ネットワークと接続します。

g: モデムコネクタ
電話回線と接続します。

h: ACアダプタコネクタ DCIN
付属のACアダプタを接続します。

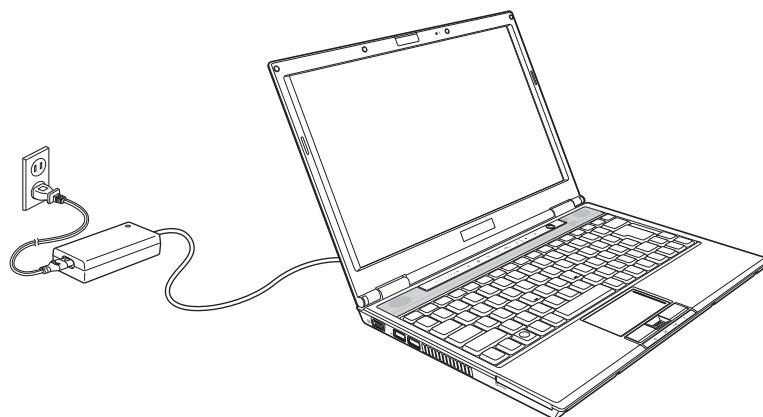
i: セキュリティロックスロット
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

j: HDMIコネクタ HDMI
外付けディスプレイ（HDMI対応、デジタルタイプ）を接続します。

▶底面

a: バッテリパック
着脱可能な充電式の電池です。

b: 通風孔
コンピュータ内部に外気を取り入れます。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。
プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。

設置における注意

注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 起動状態で本機の通風孔をふさがないでください。
  起動状態で通風孔をふさぐと、内部に熱がこもって本機が熱くなり、火傷や火災の原因となります。次の点を守ってください。
  ・じゅうたんや布団の上にのせない。
  ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
  ・キャリングケースやバッグなどに入れない。
- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

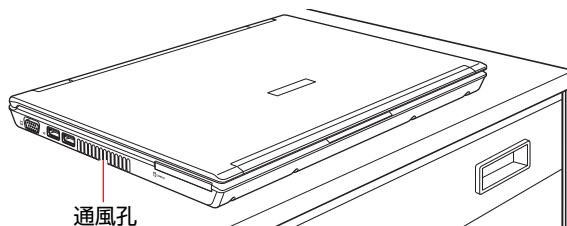
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

注意

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

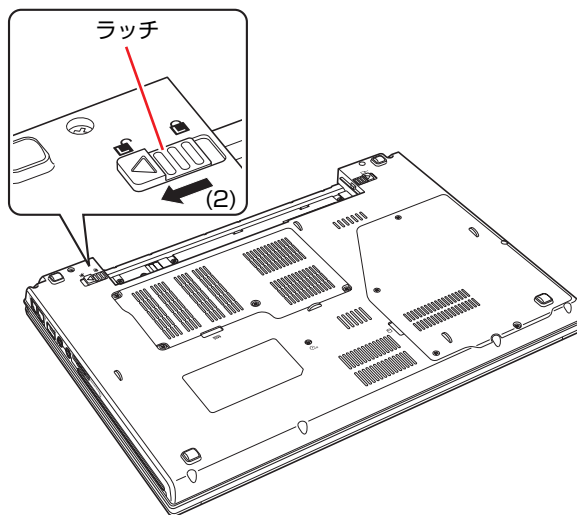
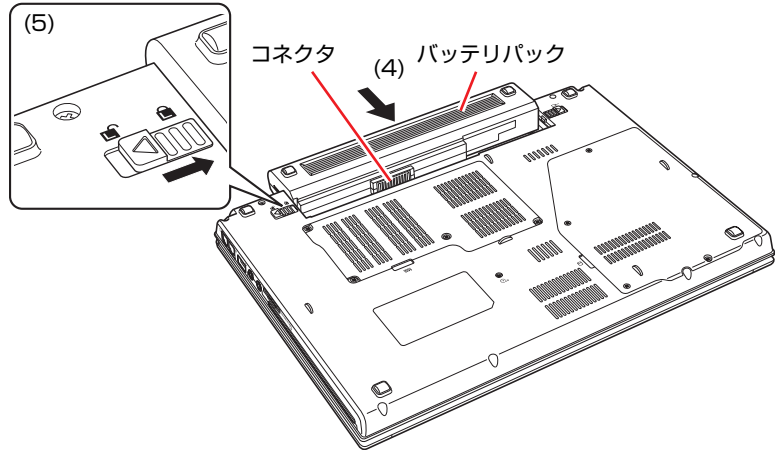
1 **本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。**

左側面の通風孔をふさがないようにしてください。

バッテリパックを取り付ける

ここでは、標準バッテリを装着する手順を説明します。軽量バッテリの場合、形状は異なりますが、手順は同様です。

2 **バッテリパックを取り付けます。**

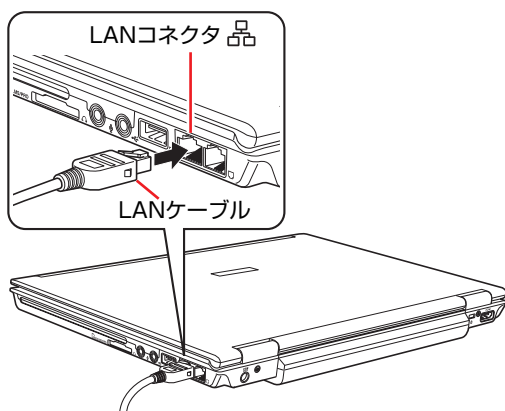
(1) 本機の底面部を上にして置きます。

(2) 左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。

(3) 下図のとおりバッテリパックを本機にあわせます。
(4) バッテリパックを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。
(5) 左側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。

出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.62 「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

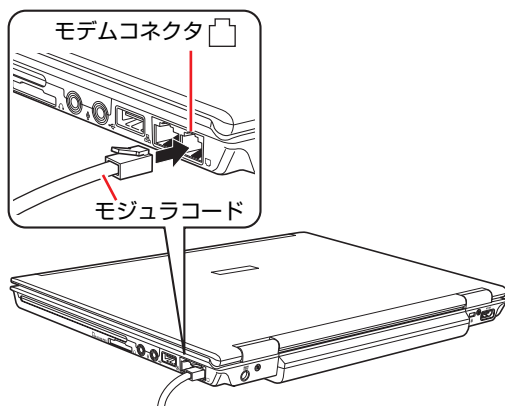
ネットワークへ接続する

3 ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルを本機右側面のLANコネクタ（ 品 ）に接続します。

LANケーブルが抜けないように、しっかり差し込んでください。
インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。

電話回線に接続する

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。
- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

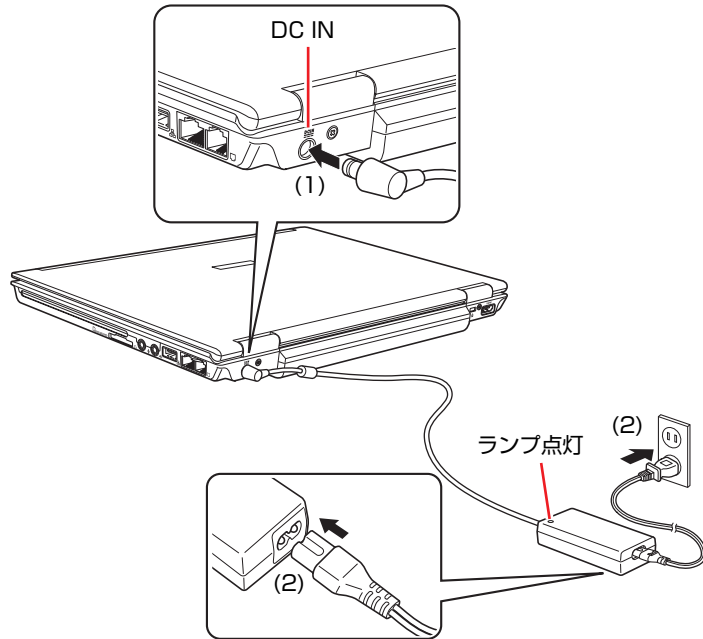
4 FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線に接続します。

(1) 市販のモジュラコードを本機右側面のモデムコネクタ（ ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
(2) モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

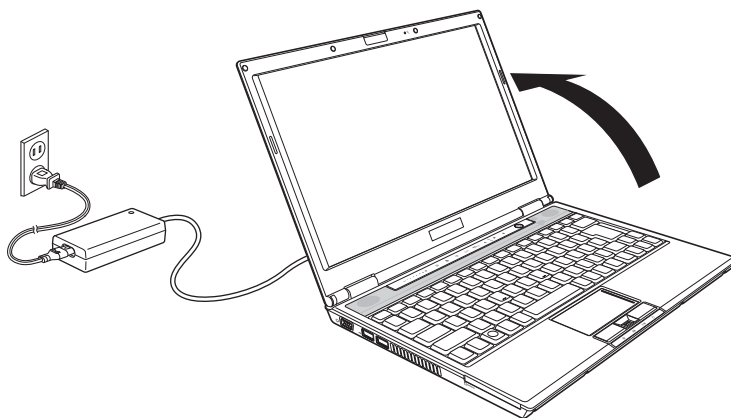
5 **ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。**

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。
プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

AC アダプタを接続して使用するときも、バッテリパックは必ず装着してください。

LCDユニットを開ける

6　LCDユニットを持ち上げて開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。

これでコンピュータの設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機を購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。 p.41「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。

本機の電源を入れる

↓

Windowsのセットアップ作業を行う

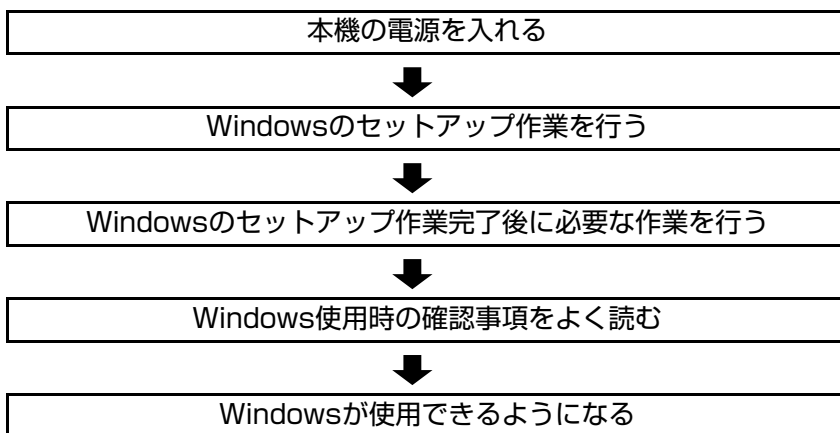
↓

Windowsのセットアップ作業完了後に必要な作業を行う

↓

Windows使用時の確認事項をよく読む

↓

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● ポインタを動かす

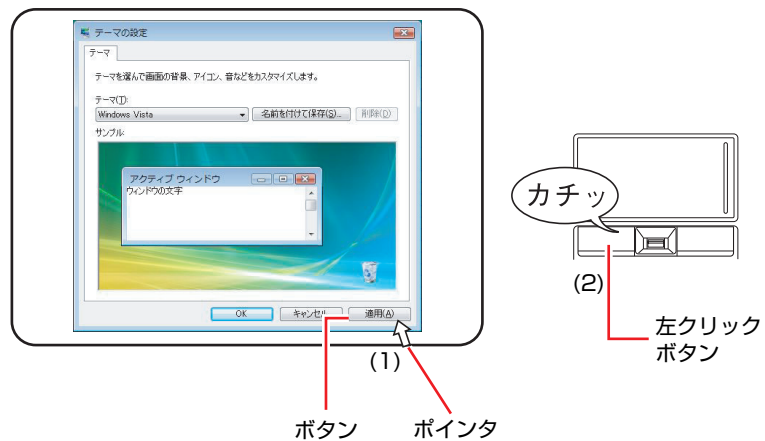
人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● ボタンをクリックする

(1) 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

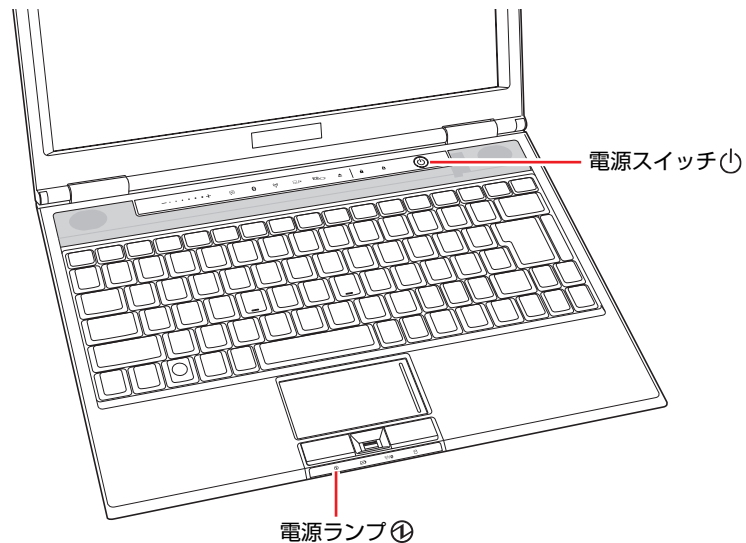
(2) 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1　電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ（⏻）が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。

2　黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

画面の角度や明るさを調節して画面を見やすくします。

- **角度**
  LCDユニットの角度を調節します。
- **画面の明るさ**
  Fn + F5（☀）：暗くなります。
  Fn + F6（☼）：明るくなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

☞ p.44 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

電源を入れたあと、しばらくすると自動的に「Windows Vistaセットアップ」が実行されます。画面の指示に従ってセットアップを行ってください。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。

Windowsのセットアップ

次のように表示されていることを確認し、［次へ］をクリックします。
国または地域：日本
時刻と通貨の形式：日本語（日本）
キーボードレイアウト：Microsoft IME

ライセンス条項をお読みになってください

画面に表示された条項を確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

ユーザー名と画像の選択

ユーザー名、パスワードを入力し、画像を選択したら、［次へ］をクリックします。
※「パスワード」は必要に応じて入力してください。
パスワードを設定すると、設定したユーザー名（アカウント）でログオン時にパスワードの入力が要求されます。パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください

コンピュータ名を入力し、背景を選択したら、［次へ］をクリックします。
※「コンピュータ名」は、本機をネットワーク（家庭内LANや社内LAN）に接続して使用する場合などに必要です。
- ネットワークに接続しない場合は、セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。
- ネットワークに接続する場合は、ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更してください。

Windowsを自動的に保護するよう設定してください

保護の設定をクリックして選択します。
「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。
※「推奨設定を使用します」を選択すると、Windows Updateが自動で行われるようになります。

 p.159 「Windows Update」

時刻と日付の設定の確認

「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定して、［次へ］をクリックします。

お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください

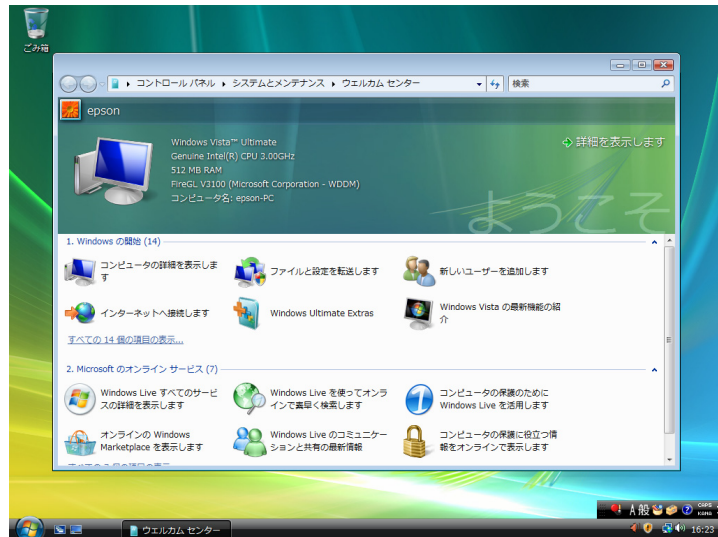
ネットワークに接続している場合、表示されます。
使用する場所を選択します。

ありがとうございます

［開始］をクリックします。デスクトップ画面が表示されるまで、約5分かかります。

デスクトップ画面の表示

Windows Vistaのデスクトップ画面が表示されます。

※パスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力すると、デスクトップ画面が表示されます。

＜壁紙は予告なく変更する場合があります＞

これでWindows Vistaのセットアップは完了です。
続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

 p.46「初期設定ツール」

参考

ライセンス認証

購入時に本機にインストールされているWindows Vistaや、「Windows Vistaリカバリ DVD」から再インストールを行ったWindows Vistaは、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。

<イメージ>

「有害サイト対策」画面

「有害サイト対策」画面では、本機に標準添付の「i－フィルター 30日版」をインストールします。「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。次回Windowsを起動したときに「i－フィルター・・・」画面が表示されたら、セットアップを行ってください。

☞ p.228 「i－フィルター 30日版のセットアップ」

i－フィルター 30日版の使用方法は、☞ p.165「i－フィルター 30日版を使う」をご覧ください。

本機購入時に、Webフィルタリングソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

「セキュリティ設定」画面

「セキュリティ設定」画面では、次のソフトウェアをインストールします。

● Norton Internet Security 90日版

本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。Norton Internet Security 90日版の使用方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

本機購入時に、セキュリティソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

本機に標準添付の「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をインストールします。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、インストール完了後にユーザー登録を行う必要があります。

p.231 「ユーザー登録」

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」の使用方法は、p.158 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

「お薦めソフトウェア」画面

「お薦めソフトウェア」画面では、必要に応じて次のソフトウェアをインストールします。

● JWord

本機に標準添付の「JWord」をインストールします。JWordの使用方法は p.158 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

● gooスティック

本機に標準添付の「gooスティック」をインストールします。gooスティックの使用方法は p.158「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。

初期設定ツールの起動方法

初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「初期設定ツール」

セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールの作業が完了したら、次の作業を行います。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）や、無線LAN機能（オプション）を使用する場合は、ネットワーク接続に関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

p.136 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.141 「無線LANを使う（オプション）」

FAXモデムの設定

FAXモデムを使用してインターネットへ接続する場合は設定を行います。

p.154 「インターネットに接続するには」
p.168 「FAXモデムを使う」

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能を使用すると、指紋を登録してパスワードの代わりに使用できます。購入時には指紋認証ユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.232 「指紋認証ユーティリティのインストール」

Bluetoothドライバのインストール

Bluetooth機能を使用すると無線通信を行うことができます。購入時にはBluetoothドライバはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.225 「Bluetoothドライバのインストール」

Windows使用時の確認事項

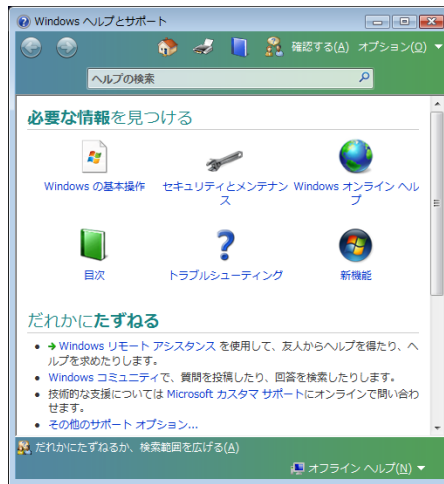
「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

Windows Vistaの使用方法

Windows Vistaの使用方法は、次をご覧ください。

● ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート]（）－「ヘルプとサポート」

● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

p.50「インフォメーションメニューを使う」

▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が大きすぎたり小さすぎたりする場合には、音量を調節します。

p.126 「音量の調節」

▶インフォメーションメニューを使う

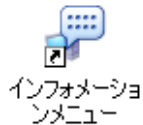
本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」の起動方法は次のとおりです。

- インフォメーションキー（💬）を押す

  p.82 「タッチセンサー」

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする

- スタートメニューから起動する

インフォメーションメニューが起動すると、次の画面が表示されます。

マニュアルびゅーわをご使用の前に

はじめて「マニュアルびゅーわ」からPDFマニュアルを起動する場合に、「使用許諾契約書」画面が表示されたときは「Adobe Reader」のセットアップを行ってください。

p.226 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」手順2～

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

- **マニュアルびゅーわ**

  本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、このコンピュータにアクセスする可能性のあるスクリプトやActiveXコントロールを実行しないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

- **PCお役立ち情報**

  コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

- **とらぶる解決ナビ**

  技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

  p.236 「トラブルが発生したら」

● ユーザーサポート
技術的な情報、トラブルの解決方法や保証サービスのご案内などを掲載しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。
p.274 「電子マニュアルのダウンロード」
「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● サポート情報検索
「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。
「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● トラブルが解決しなかったら
技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

▶Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、Windowsが起動できないなどの不具合を修復する機能です。
Windowsが起動できないときなどは実行してみてください。
p.265 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。
通常、復元ポイントはソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。
p.264 「復元ポイントを手動で作成する」

▶セキュリティ対策を行う

本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。
インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。
p.159 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スリープ状態になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すか、キーボードを操作すると元に戻ります。

p.179「省電力状態からの復帰方法」

コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

● カテゴリの表示（コントロールパネルホーム）

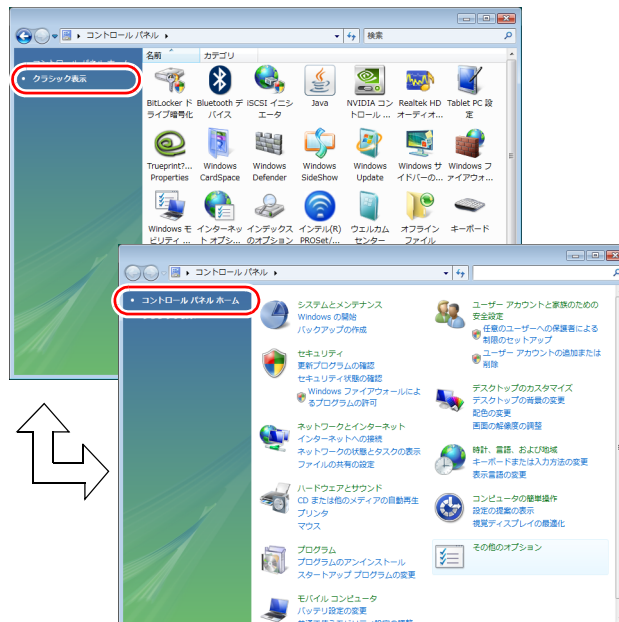
項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。

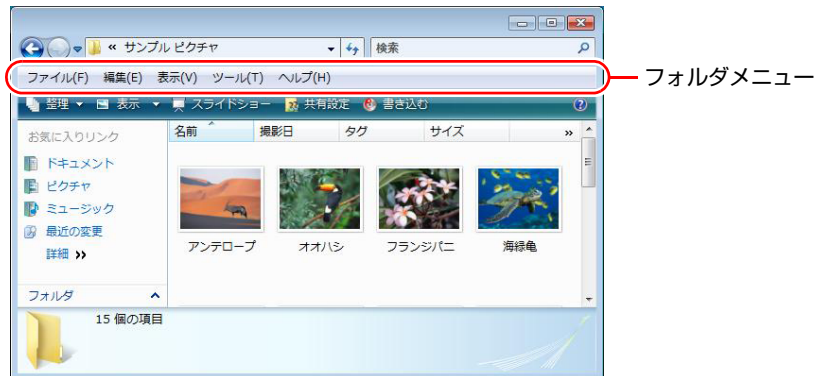
● クラシック表示

項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示」、「コントロールパネルホーム」をクリックして行います。
本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞

＜カテゴリの表示＞

フォルダメニューの表示

Windows Vistaでは、「ファイル」や「ツール」などのフォルダメニューが標準では表示されません。
フォルダメニューを表示したい場合は、Alt を押します。もう一度 Alt を押すと、フォルダメニューは表示されなくなります。

常にフォルダメニューを表示する

常にフォルダメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

1 **[スタート] ―「コントロールパネル」―「デスクトップのカスタマイズ」―「フォルダオプション」―「表示」タブ―「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] ―「コントロールパネル」―「ユーザーアカウント（と家族のための安全設定）」―「ユーザーアカウント」―「別のアカウントの管理」―「新しいアカウントの作成」

ユーザーアカウントの種類（権限）は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2種類あります。

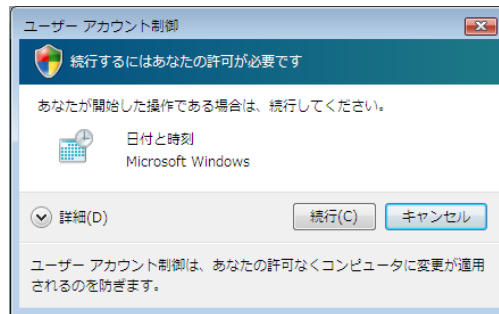
● **管理者**

すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバ、ソフトウェアのインストールをすることができます。
購入時やリカバリ時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

● **標準ユーザー**

一部のシステム項目の変更や、ドライバ、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどでが表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようとすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。

表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでWindowsにログオンした状態を前提に記載しています。

本機の終了方法

ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。
本機の終了方法には次の2つがあります。

● 通常の終了（スリープ）

通常は、本機を「スリープ状態」にして終了します。

p.57「通常の終了（スリープ）」

スリープ状態にすると、作業内容がメモリに保存され、画面表示が消えて本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープ状態についての詳しい説明は、p.176「省電力状態の種類」をご覧ください。

本機を使用するときは、必ずバッテリパックを装着してください。スリープ時、落雷などで電源が切れると、保存されていないデータは失われます。

● 電源を切る（シャットダウン）

次のような場合は、本機の電源を切って終了します。

p.58「電源を切る（シャットダウン）」

- 完全に電源を切りたいとき
- 数日使用しないとき
- 周辺機器、バッテリなどの取り付け、取り外しをするとき
- バッテリ残量が少なくなったとき

Windowsをロックする

一時的に席を外す場合は、［スタート］－［🔒］をクリックしてWindowsをロックしておくと、コンピュータを他人に操作されるのを防ぐことができます。
ロックをするには、事前にパスワードの設定が必要です。
ロックについての詳しい説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「コンピュータの基本操作」

▶通常の終了（スリープ）

本機をスリープ状態にして終了する方法とスリープ状態から復帰させる方法について説明します。

1

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

1 [スタート]（ ）－[⏻]をクリックします。

本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプが点滅します。

ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- [スタート] － [▶] －「スリープ」をクリックする
- 電源スイッチ（⏻）を押す
- Fn + F1（☾ᶻᶻ）を押す
- LCDユニットを閉じる

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。

復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

1 電源スイッチ（⏻）を押します。

本機が通常状態に復帰します。
キーボードを操作しても復帰できます。

▶電源を切る（シャットダウン）

本機の電源の切り方と入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

- 電源を切って、もう一度電源を入れる場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

1 [スタート] ー [▶] ー「シャットダウン」をクリックします。

Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。

2 接続している周辺機器の電源を切ります。

[⏻] をクリックしたときシャットダウンするように設定する

［スタート］ー［⏻］をクリックしたときシャットダウンするようにボタンの機能を変更することができます。

設定は次の場所で行います。

[スタート] ー「コントロールパネル」ー「システムとメンテナンス」ー「電源オプション」ー「プラン設定の変更」ー「詳細な電源設定の変更」ー「電源ボタンとLID」ー「[スタート] メニューの電源ボタンの操作」

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。
  電源を入れるタイミングがコンピュータより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.203 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1　電源スイッチ（⏻）を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1　［スタート］－［▶］－「再起動」をクリックします。

次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 **Ctrl＋Alt＋Deleteを押します。**

2 **表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。**
「Windowsタスクマネージャ」が起動します。

3 **「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

4 **「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

強制的に電源を切る

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源スイッチ（⏻）を5秒以上押し続けます。**
本機の電源が切れます。

第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

「ACアダプタ/バッテリパックを使う」…… 62
「タッチパッドを使う」…… 72
「キーボードを使う」…… 77
「HDDを使う」…… 83
「光ディスクドライブを使う」…… 86
「USB機器を使う」…… 93
「メモリカードを使う」…… 95
「Expressカードを使う」…… 100
「Bluetooth機能を使う」…… 104
「画面表示をする」…… 113
「外付けディスプレイに表示する」…… 118
「サウンド機能を使う」…… 124
「指紋認証機能を使う」…… 130
「ネットワーク（有線LAN）を使う」…… 136
「無線LANを使う（オプション）」…… 141
「インターネットに接続するには」…… 154
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」…… 159
「FAXモデムを使う」…… 168
「電源設定を行う（省電力機能を使う）」…… 174
「そのほかの機能」…… 180

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックで使用することができます。
ACアダプタの接続方法は、p.39 「ACアダプタを接続する」をご覧ください。
バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリをセットすれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。

バッテリの種類

本機で使用できるバッテリは、次のとおりです。

- 標準バッテリ（BT3202-G）
- 軽量バッテリ（BT4101-G）

交換用のバッテリを購入される場合は、当社ホームページの「オプション」から本機のバッテリを選択してください。
当社ホームページのアドレスは、次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

バッテリの交換方法は、p.68 「バッテリの交換」をご覧ください。

▶使用時の注意

- バッテリを、指定以外の方法で充電しないでください。
  発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリなどを火中に入れたり、火気に近づけたり、加熱したり、高温状態で放置したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリの金属端子をショートさせたり、水・コーヒー・ジュースなどの液体でぬらさないでください。感電・火災・火傷の原因となります。
- 付属のACアダプタやバッテリを、分解・改造しないでください。
  また､本機には、指定以外のACアダプタやバッテリを使用しないでください。
  感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプタやバッテリ、または分解・改造したACアダプタやバッテリ（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く所にバッテリを保管しないでください。
  なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリには、落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるなど、強い衝撃を与えないでください。
  破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリ駆動時間が極端に短くなった場合は、当社指定の新しいバッテリと交換してください。
  駆動時間が短くなったバッテリは、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリをそのまま使用し続けると、発熱・発火・破裂の原因となります。

- 付属のACアダプタやバッテリは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリを使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
  万一、本機の落下などで強い振動や衝撃が加わり、バッテリが破損したり、変形したりした場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリを取り外してください。
  そのまま使用を続けると、発熱・発火・破裂のおそれがあります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- ACアダプタの温度の高い部分に、長時間触れないでください。低温火傷の原因となります。

ACアダプタやバッテリを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

● ACアダプタを使用するとき

- ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリを装着してください。スリープ時、落雷などで電源が切れると、保存されていないデータは失われます。

  p.176 「省電力状態の種類」

- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- ACアダプタは頻繁に抜き差ししないでください。

● バッテリを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気を付けてください。省電力状態でも電力が消費されています。

  p.174 「電源設定を行う（省電力機能を使う)」

- バッテリだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.177 「時間経過で移行させない」

● バッテリを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。

  p.70 「バッテリ保管上の注意」

低温環境でのバッテリ性能

低温の環境では、バッテリの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

▶バッテリの使用可能時間

バッテリだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

バッテリの種類	使用可能時間*（満充電の場合）
標準バッテリ	連続約4.2時間
軽量バッテリ	連続約2.0時間

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

本機をバッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと使用可能時間を延ばすことができます。

p.174「電源設定を行う（省電力機能を使う）」

軽量バッテリだけを装着して本機を使用するときは、CPU クロックの上限は 1200MHz となります。

▶バッテリの充電

バッテリの充電は、ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に行われます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（　）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	点滅（オレンジ色）
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

バッテリの種類	バッテリの充電時間*
標準バッテリ	約2.5時間
軽量バッテリ	約1.5時間

*電源が入っている状態では、コンピュータの使用状況により差があります。

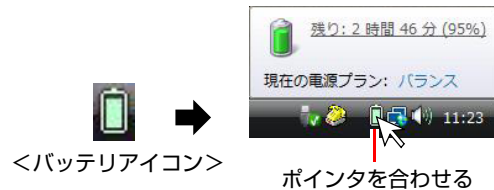
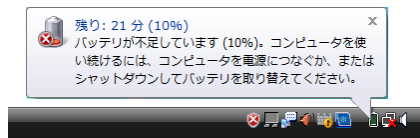
温度条件について

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

▶バッテリ残量の確認

通知領域の「バッテリ」アイコンの上にポインタをあわせると、バッテリ残量を確認することができます。

▶バッテリ残量が少なくなったら

バッテリ低下の通知

バッテリ残量が少なくなり、「バッテリ低下」の状態になると、本機は次のように通知（警告）します。

対処方法

バッテリ残量低下が通知されたら、すぐに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

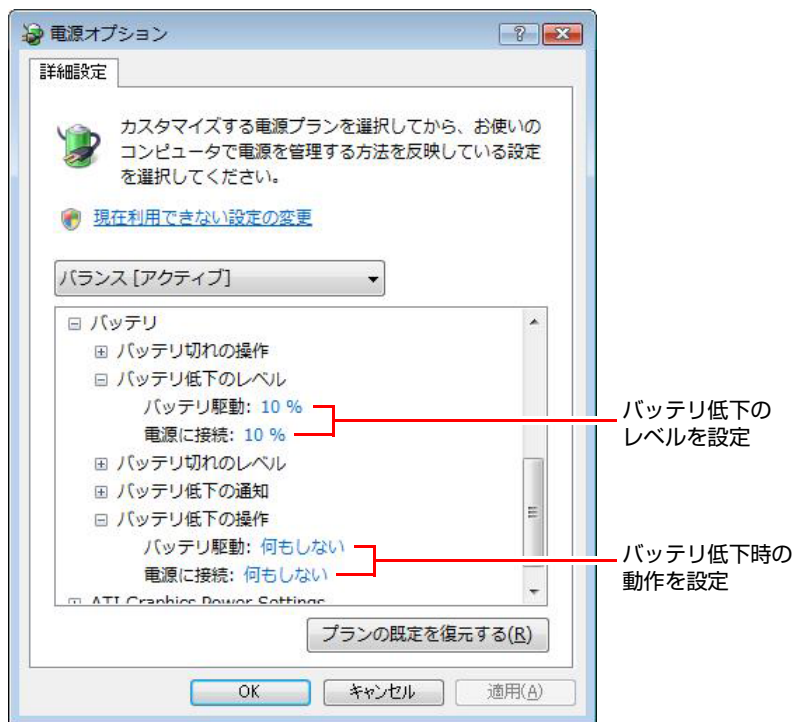
● **ACアダプタを接続する**
電源を入れたままACアダプタを接続します。

● **電源を切る**
作業中のデータをHDDなどに保存して､実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリ低下時の設定変更

バッテリ低下のレベルやバッテリ低下時の本機の動作は、変更することができます。変更は次の場所で行います。

通知領域の「バッテリ」アイコンを右クリック－「電源オプション」－選択している電源プランの「プラン設定の変更」－「詳細な電源設定の変更」－「バッテリ」

バッテリ低下のレベル設定

バッテリ残量が何%になったら「バッテリ低下」の通知をするかは、「バッテリ低下のレベル」で設定できます。初期値は10%に設定されています。

バッテリ低下時の動作設定

「バッテリ低下」になったときの本機の動作は、「バッテリ低下の操作」で設定できます。初期値は「何もしない」に設定されています。

バッテリの容量がすぐに低下するときは

バッテリは、消耗品です。満充電にしても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。また、バッテリの駆動時間が極端に短くなった場合は、内部に使用されている電池の消耗度合いにばらつきが発生している可能性があります。電池の消耗度合いにばらつきがあるバッテリをそのまま使用し続けると、発熱、発火、破裂の原因となります。本機専用の新しいバッテリに交換してください。

バッテリの交換

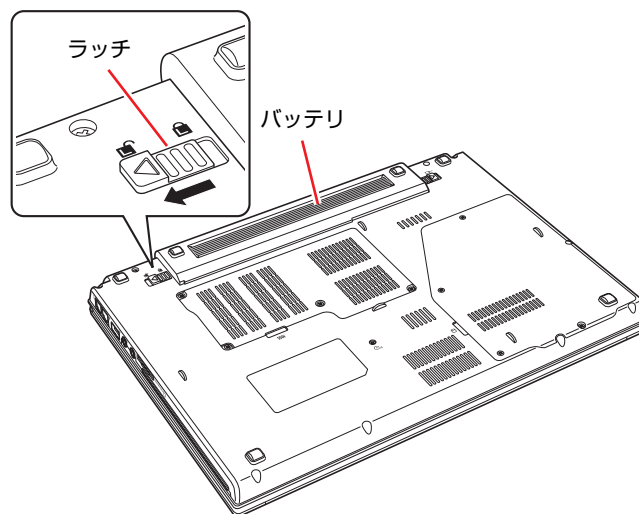
複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用のバッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
http://shop.epson.jp/

バッテリの交換方法

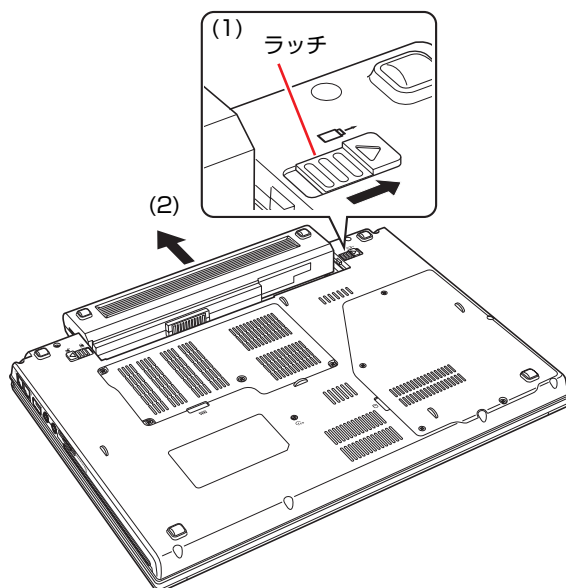
バッテリの交換方法は次のとおりです。

1 **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

2 **本機の底面部を上にして置きます。**

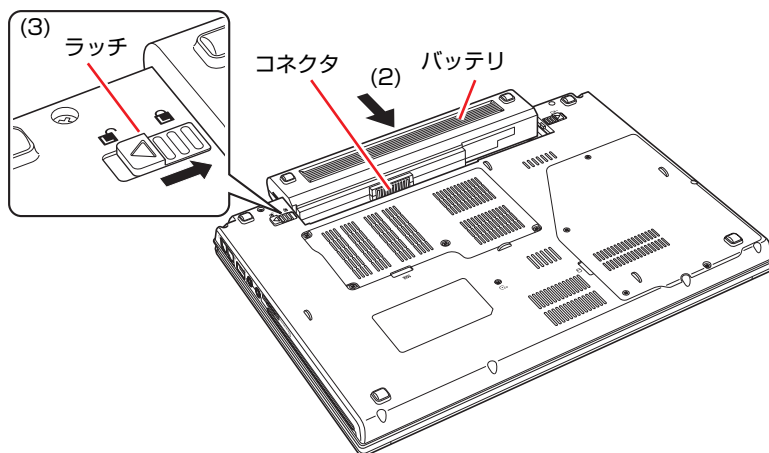
3 **左側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。**

4 **バッテリを取り外します。**

(1) 右側のラッチをロック解除位置（▭→）までスライドさせ、指で押さえてロック解除位置で固定します。

(2) バッテリを矢印の方向に押し出して取り外します。

5 **新しいバッテリを本機に取り付けます。**

(1) 下図のとおりバッテリを本機にあわせます。

(2) バッテリを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

(3) 左側のラッチをロック位置（🔒）までスライドさせます。

バッテリの寿命を延ばすには

バッテリは消耗品です。バッテリの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
バッテリの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすため、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリの劣化が早まります。本機やバッテリを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時ACアダプタを接続していると、バッテリの劣化が早まります。1ヶ月に1回程度は本機からACアダプタを外して、バッテリの残量が10%程度になるまで使用することをおすすめします。
- 1ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリを取り外して保管してください。
  p.70 「バッテリ保管上の注意」

バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、次の事項を守ってください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピュータ本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリ残量は50%程度にして保管してください。
- バッテリは、使用していなくても、自己放電により蓄えられた電気は徐々になくなります。バッテリの残量がなくなり過放電状態になると、コンピュータに装着しても充電できなくなることがあります。
  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に1回程度）にバッテリ残量を50%程度まで充電することをおすすめします。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

バッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

▶タッチパッドの操作

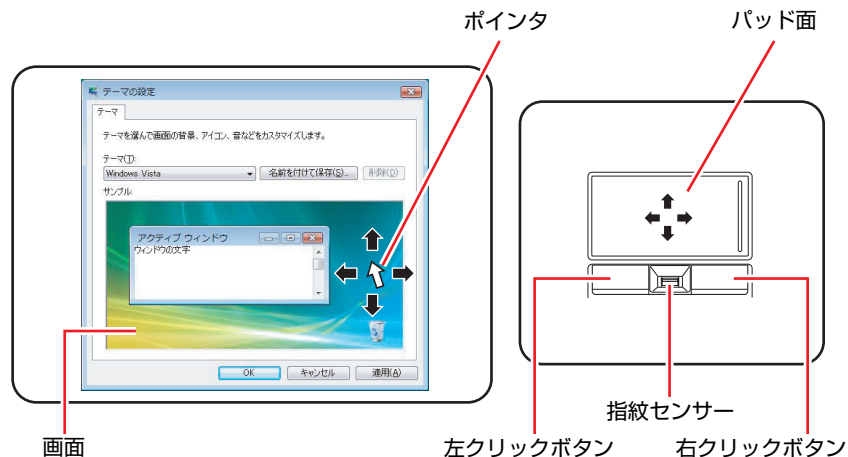
タッチパッド使用時の注意

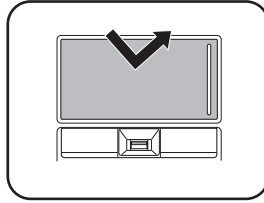
タッチパッドを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

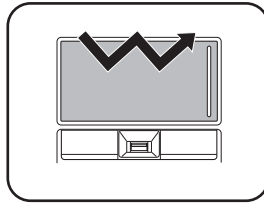
- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1 本の指で操作してください。一度に 2 本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

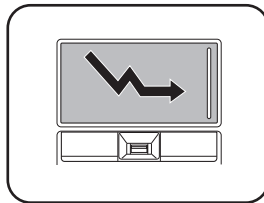
ポインタの移動

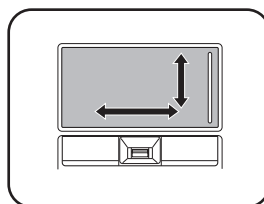
タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

指紋センサーの使用方法は、 p.130 「指紋認証機能を使う」をご覧ください。

クリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

▶タッチパッド機能をOFFにする

本機では、タッチパッドの機能をOFFにすることができます。
タッチパッド機能をOFFにするには、次の2とおりの方法があります。

● 一時的にタッチパッド機能をOFFにする

キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、一時的にタッチパッド機能をOFFにすると便利です。
タッチパッド機能の切り替えは、タッチパッドキー（ ）で行います。
p.82 「タッチセンサー」

● USBマウス接続時にタッチパッド機能をOFFにする

USBマウスを接続したときに、自動的にタッチパッド機能がOFFになるように設定することができます。設定方法は、p.76 「USBマウス接続時にタッチパッド機能をOFFにする」をご覧ください。

タッチパッドユーティリティを使う

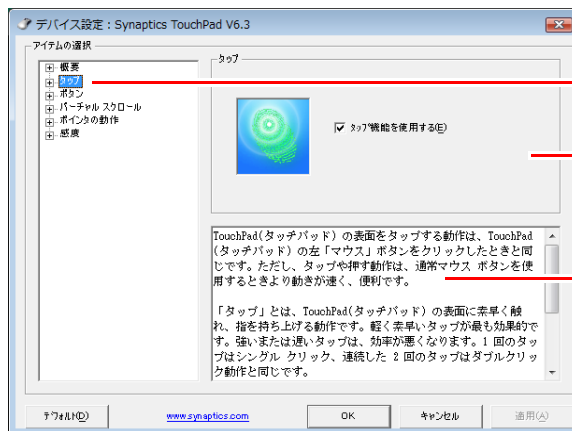
タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティ画面の表示方法は次のとおりです。

1 **通知領域の「ポインティングデバイス」アイコンをクリックして、「ポインティングデバイスのプロパティ」を選択します。**

＜ポインティングデバイスアイコン＞

2 **「マウスのプロパティ」画面が表示されたら、「デバイス設定」タブー［設定］をクリックします。**

3 **「デバイス設定：Synaptics　TouchPad…」画面が表示されたら、各種設定を行います。**

「アイテムの選択」から設定したい項目を選択して、各種設定を行います。

▶USBマウス（オプション）の接続

本機右側面または背面のUSBコネクタ（ ）に、オプションのUSBマウスを接続して使うことができます。USBマウスの使用方法は、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

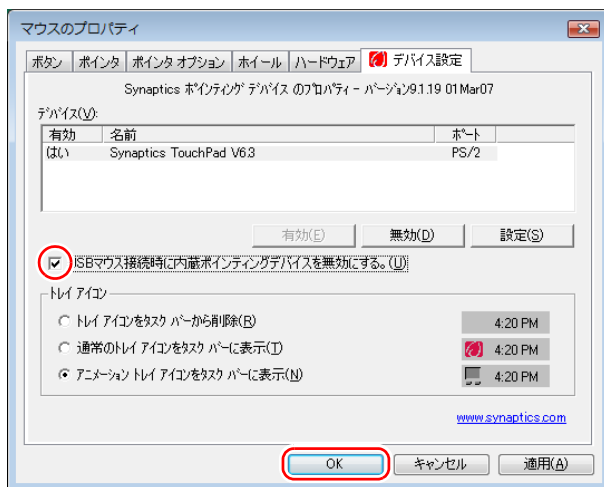
USBマウス接続時にタッチパッド機能をOFFにする

USBマウス接続時に、自動的にタッチパッド機能がOFFになるように設定することができます。設定方法は次のとおりです。

1 **通知領域の「ポインティングデバイス」アイコンをクリックして、「ポインティングデバイスのプロパティ」を選択します。**

<ポインティングデバイスアイコン>

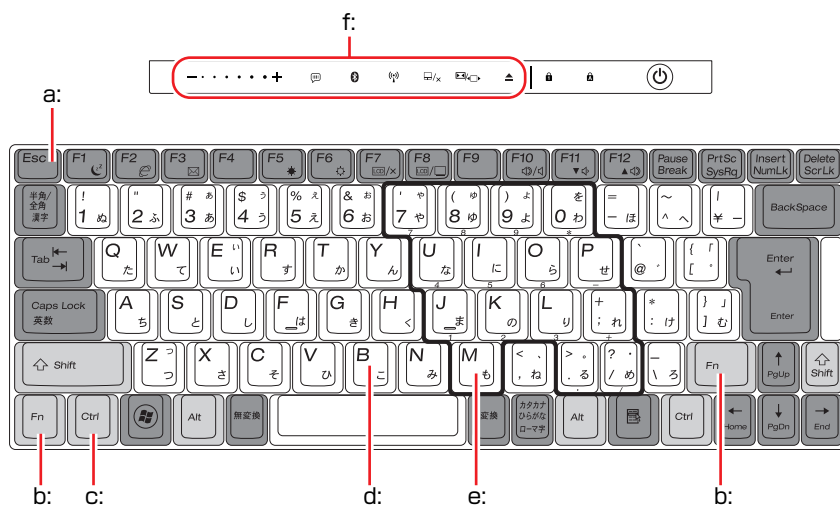
2 **「マウスのプロパティ」画面が表示されたら、「デバイス設定」タブで「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」にチェックを付けて、[OK] をクリックします。**

これで設定は完了です。

「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」にチェックを付けると、USB キーボードなどの USB デバイスを接続時にも、タッチパッド機能が OFF になることがあります。

キーボードを使う

本機には、日本語対応88キーボードとタッチセンサーが搭載されています。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: Fnキー

制御キーの1つです。

キートップ（キーの上面）に青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.80「Fnキーと組み合わせて使うキー」

c: 制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー

文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字、演算子などを入力します。Fn ＋ NumLk を押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

f: タッチセンサー

各センサーに割り当てられた機能を実行します。

p.82 「タッチセンサー」

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　MS-IMEの詳細な説明を見ることができます。

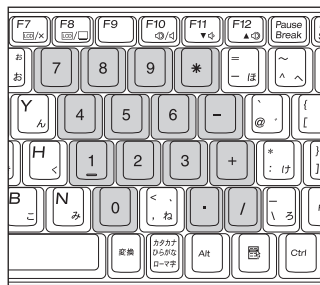
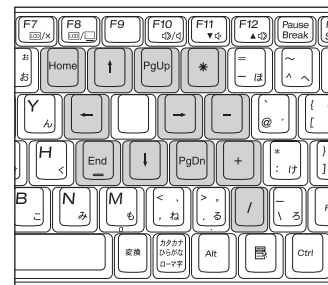
c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態　：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

Fn ＋ NumLk を押すと、NumLock ランプ（🔒）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード

Shift を押したとき

アルファベット入力モード

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

Shift ＋ Caps Lock

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、Shift を押した状態でもう一度 Caps Lock を押します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは［Fn］と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
［Fn］＋［F1］	省電力状態に移行します。（初期値：スリープ状態） p.175「本機を省電力状態にする」
［Fn］＋［F2］	Internet Explorerを起動します。
［Fn］＋［F3］	Windowsメール（またはOutlook）を起動します。
［Fn］＋［F5］	LCD画面を暗くします。 p.114「LCDユニットの調整」
［Fn］＋［F6］	LCD画面を明るくします。 p.114「LCDユニットの調整」
［Fn］＋［F7］ LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.114「バックライトの消灯」
［Fn］＋［F8］ LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、画面表示を切り替えます。 p.120「画面表示の種類」
［Fn］＋［F10］	スピーカのミュート（消音）の入/切を切り替えます。 p.126「音量の調節」
［Fn］＋［F11］ ▼	スピーカの音量を小さくします。 p.126「音量の調節」
［Fn］＋［F12］ ▲	スピーカの音量を大きくします。 p.126「音量の調節」
［Fn］＋［NumLk］	数値キー入力モードに切り替えます。 p.79「数値キー入力モード」
［Fn］＋［ScrLk］	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
［Fn］＋［Home］	行の最初に移動します。*
［Fn］＋［End］	行の最後に移動します。*
［Fn］＋［PgUp］	前のページに移動します。*
［Fn］＋［PgDn］	次のページに移動します。*

*ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能の入れ替え

次の入力キーの機能を入れ替えることができます。

(1) キーボード左下にある Fn とその隣の Ctrl
(2) キーボード右下にある Alt とその隣の ▤ (アプリケーションキー)
(3) キーボード右下にある Fn と Shift

キーの機能を入れ替える場合は「BIOS Setupユーティリティ」の「Advanced」メニュー画面で次の項目を変更してください。

- 「Exchange L-Fn & L-Ctrl key」(左下の Fn と Ctrl の入れ替え)
- 「Exchange R-Alt & Win App key」(右下の Alt と ▤ の入れ替え)
- 「Exchange R-Fn & R-Shift key」(右下の Fn と Shift の入れ替え)

キーの機能の入れ替え	BIOSの設定値
機能を入れ替える場合	Enabled(有効)
機能を入れ替えない場合	Disabled(無効)

購入時は、どちらも「Disabled」に設定されています。

☞ p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」
☞ p.206 「Advancedメニュー画面」

2

タッチセンサー

本機には、タッチセンサーが搭載されています。タッチセンサーを押すと、各センサーに割り当てられた機能を実行します。

タッチセンサー使用時の注意

タッチセンサーに傷が付いたり、正常に動作しなくなるおそれがありますので、次の注意事項を必ず守ってください。

- タッチセンサーの表面を、硬いものや先の尖ったもの、爪などで引っかかないでください。
- 汚れた指やぬれた指でタッチセンサーを触らないでください。
- ボリュームコントロールで音量を調節するときは、タッチセンサーをしっかりと押さえて、反応を見ながら、ゆっくり指を動かしてください。

各タッチセンサーの機能は、次のとおりです。

タッチセンサー	機　能
ボリュームコントロール −・・・・・・＋	音量を調節します。 p.126 「音量の調節」
インフォメーションキー	インフォメーションメニューを起動します。 p.50 「インフォメーションメニューを使う」
Bluetoothキー	Bluetooth機能のON/OFFを切り替えます。 p.108 「Bluetooth機能のON/OFF方法」
無線LANキー	無線LAN機能のON/OFFを切り替えます。 (無線LAN搭載時のみ機能します) p.145 「無線LAN機能のON/OFF方法」
タッチパッドキー	タッチパッドのON/OFFを切り替えます。 p.74 「タッチパッド機能をOFFにする」
画面サイズ切り替えキー	画面サイズを切り替えます。キーを押すたびに、画面サイズをワイド表示とノーマル表示に切り替えます。 p.117 「画面サイズを切り替える」
光ディスクドライブイジェクトキー⏏	光ディスクメディアを取り出します。 p.88 「取り出し方法」

HDDを使う

本機にはシリアルATA仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えるとHDDが故障するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは、電源を切った状態で専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

2

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、p.271 「データのバックアップ」をご覧ください。

購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

＜通常＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	残り

＜HDD設定変更サービスを選択された場合＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	購入時に選択された容量
Dドライブ	残り

*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアのインストール用データや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。
この領域は、絶対に削除しないでください。
削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。
「消去禁止領域」内の本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

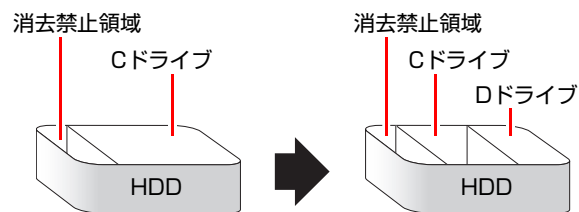
p.272 「バックアップCDの作成」

Windows REの詳細は、p.265 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

＜1台のHDDを分割する＞

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。

Cドライブを分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。詳しくは、p.277 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

HDDの暗号化

< Windows Vista Ultimate 使用時>

Windows Vista Ultimate では、HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用することができます。

本機で BitLocker を使用するには、事前に専用ツールでの HDD 設定変更が必要です。専用ツールの入手方法など、詳しくは当社ユーザーサポートページのサポート情報をご覧ください。

サポート情報は､次の場所にコンテンツ ID を入力し､検索すると表示されます。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポート」－「サポート情報検索」の「コンテンツID検索」

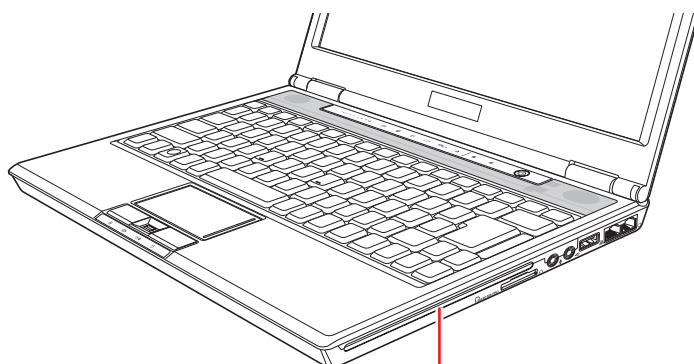
BitLocker 情報のコンテンツ ID : TN100014545

BitLocker とは

BitLockerは､HDD内のドライブを暗号化するツールです｡Windows Vista UltimateとWindows Vista Enterpriseのみに搭載されています。

ドライブを暗号化することで、第三者がWindowsを不正に起動したり、HDD内のデータが漏洩したりすることを抑止することができます。

光ディスクドライブを使う

本機右側面には光ディスクドライブが搭載されています。
光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

- 本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証はしていません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。
- 光ディスクドライブスロットに光ディスクメディア以外のものを差し込まないでください。故障の原因となります。

ドライブの機能と使える光ディスクメディア

光ディスクドライブの機能と使用できるメディアの種類は、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

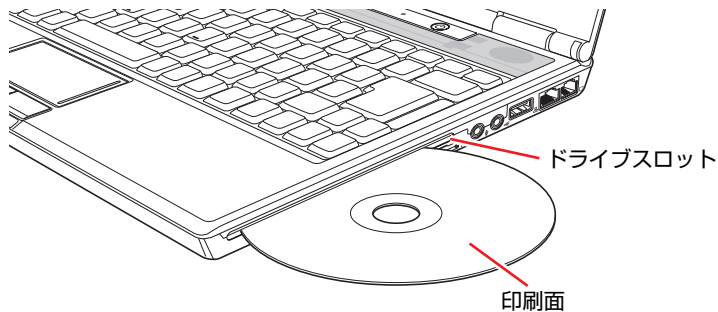
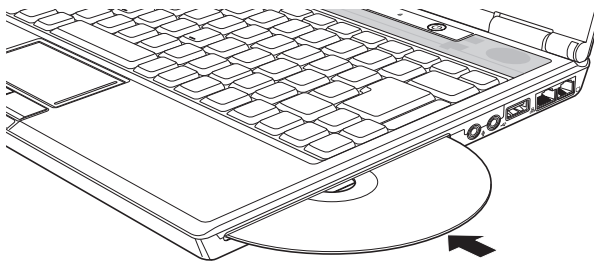
「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

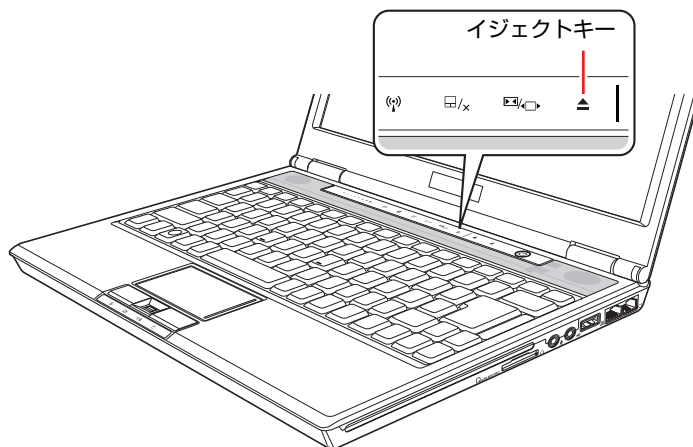
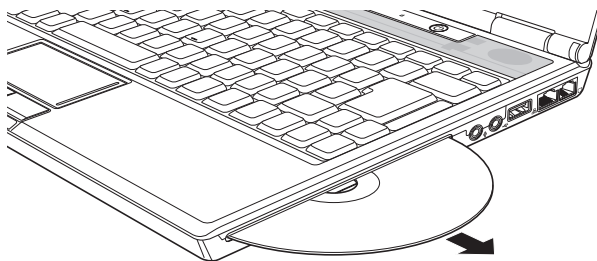
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、再起動したりしないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、8cm のメディアは使用できません。また、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。
- メディアをセットした状態で、光ディスクドライブのある本機右側面だけを持ち上げないでください。メディアにキズがつくおそれがあります。

セット方法

1 光ディスクメディアの印刷面（文字などが印刷されている面）を上側に向け、ドライブスロットにセットします。

2 光ディスクメディアをドライブスロットに押し込みます。

光ディスクメディアをセットする際に動作音がしますが、不具合ではありません。

取り出し方法

1　光ディスクメディアにアクセスしていないことを確認して、イジェクトキーを押します。

光ディスクメディアが出ます。

2　光ディスクメディアを取り出します。

イジェクトキーを押してもメディアが取り出せない場合

- イジェクトキーを押しても、メディアが取り出せない場合は、[スタート]－「コンピュータ」－「DVD RWドライブ」アイコンを右クリック－「取り出し」をクリックして、メディアを取り出してください。
- ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

本機の光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。DVD VIDEOの再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には「WinDVD」を使用します。
WinDVDは、次の場所から起動します。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「InterVideo WinDVD」－「InterVideo WinDVD for EPSON」

WinDVDの詳しい使用方法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生することがあります。

- 解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を調節してみてください。
p.116 「解像度や表示色の変更方法」

- 外付けディスプレイを接続して、「クローンモード」で表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、「シングルモード」に切り替えてください。
p.121 「画面表示を切り替えるには」

光ディスクメディアへの書き込み

本機の光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。
光ディスクドライブで書き込み可能なメディアは、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」

作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

p.91 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

  メディアへの書き込み時にWindowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。
  書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.177 「時間経過で移行させない」

  省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- **速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ**

  書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
  光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

  「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」

Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

Nero 7 Essentials と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 7 Essentialsを起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。

＜Neroアイコン＞

Nero 7 Essentialsの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

- 「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「CD/DVD/BDを使う」
- 「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
InCDの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「InCDユーザーマニュアル」

- InCDで使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- InCDでフォーマットしたメディアは Nero 7 Essentials で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレードについて

本機にインストールされているNero 7 Essentialsは、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に1個、左側面に2個、合計3個搭載されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。3個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.203 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

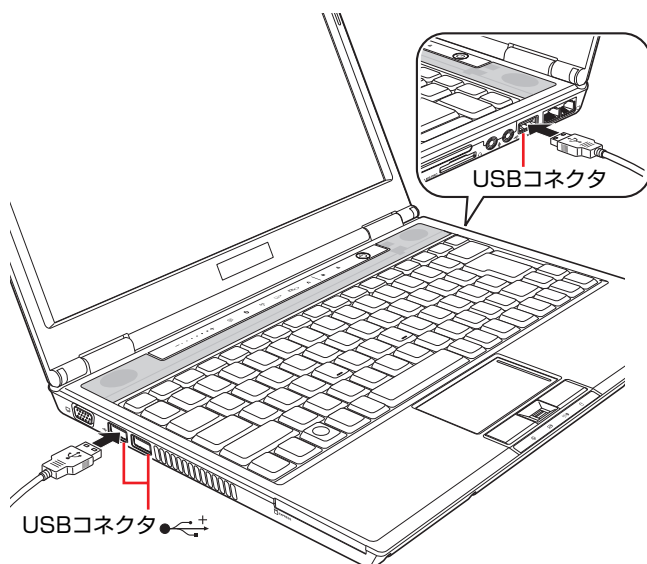
USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は次のとおりです。

1 **USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（ ）に接続します。**

2

2　USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

<取り外しアイコン>

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- **そのまま取り外す**

  「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。
- **USB機器の終了処理をして取り外す**

  「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1　通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

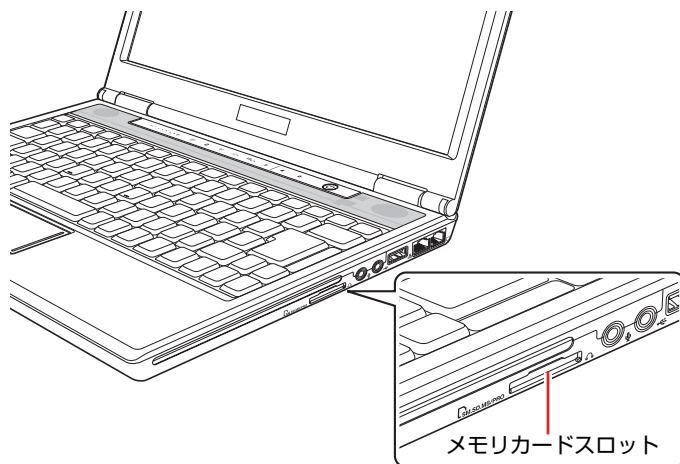
2　表示されたメニューから「（取り外したいUSB機器）ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (F:) を安全に取り外します

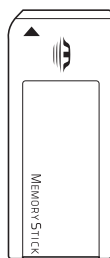
3　「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、［OK］をクリックし、USB機器を本機から取り外します。

メモリカードを使う

本機右側面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。

▶本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード（SDHC対応）の3種類です。イラストは、各メモリカード表面のイメージです。

<メモリースティック>　<マルチメディアカード>

<SDメモリーカード>

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリカードにアクセス中は、本機の電源を切ったり、メモリカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.177 「時間経過で移行させない」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

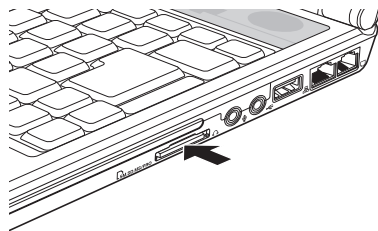
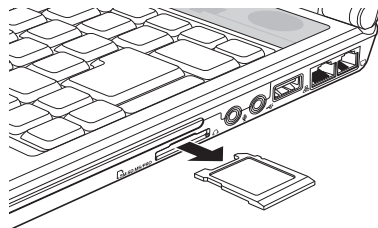
メモリカードのセットと取り外し

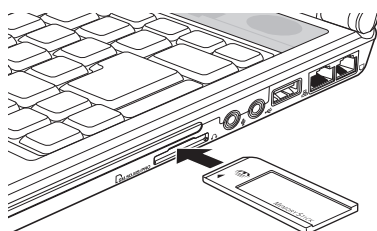
メモリカードを使用する前に、必ずp.96「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

メモリカードのセット

メモリカードのセット方法は、次のとおりです。

1 メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

(1) ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押します。

(2) 少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜きます。
ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 メモリカードの表面を上にしてメモリカードスロットに挿入します。

奥までしっかりと押し込みます。
メモリカードの表面は、p.95「本機で使用できるメモリカード」で確認してください。

3 認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、「コンピュータ」の「Combo Socket」アイコンが、「(お使いの）メモリカード」アイコンに変更されます。

＜Combo Socketアイコン＞　＜（お使いの）メモリカードアイコン＞

メモリカードの取り外し

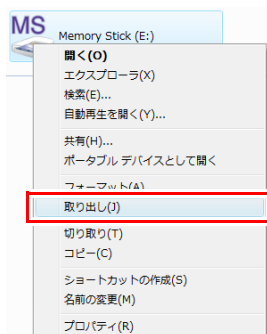
メモリカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1 メモリカードの終了処理を行います。

本機の電源を切ってある場合は、終了処理は不要です。手順2に進みます。

(1) 開いているファイルを閉じます。

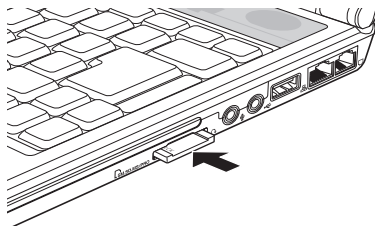
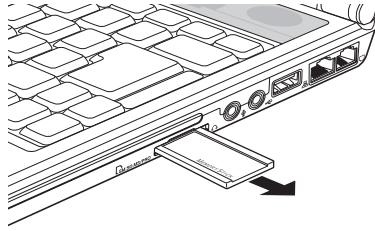
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

(2) [スタート] －「コンピュータ」－「(お使いの) メモリカード」アイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックします。

「コンピュータ」の「(お使いの) メモリカード」アイコンが、「Combo Socket」アイコンに変更されたら、メモリカードの終了処理は完了です。

＜(お使いの) メモリカードアイコン＞　＜Combo Socketアイコン＞

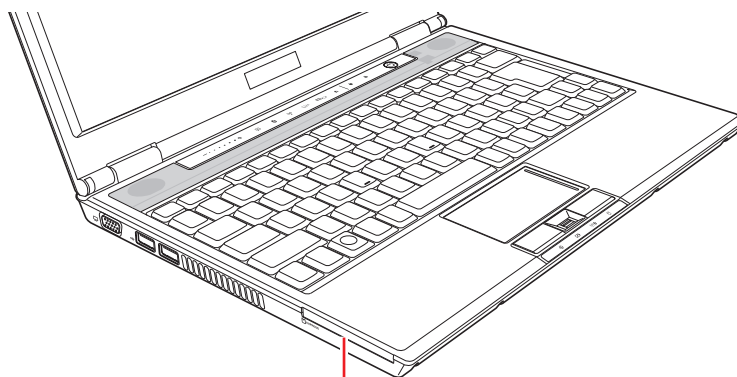
2 メモリカードを取り外します。

(1) メモリカードを「カチッ」と音がするまで押します。

強く押すと、メモリカードが飛び出すことがあるので注意してください。

(2) 少し出てきたメモリカードをまっすぐに引き抜きます。

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

Expressカードを使う

本機左側面にはExpressカードスロットが搭載されています。Expressカードは、高速転送に対応しています。
本機では、次の2種類のExpressカードを装着することができます。

・ExpressCard/34
・ExpressCard/54

Express カードを使用中に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。Express カードを使用する前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

p.177 「時間経過で移行させない」

▶Expressカードのセットと取り外し

- Express カードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。Expressカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- Expressカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力状態でExpressカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

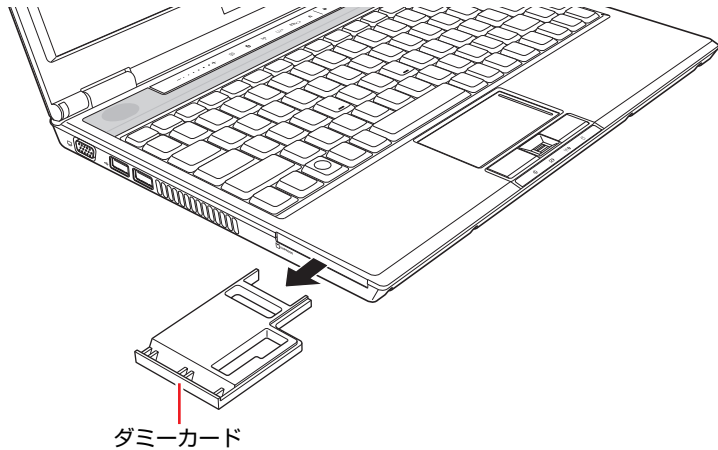
Expressカードのセット

Expressカードのセット方法は次のとおりです。

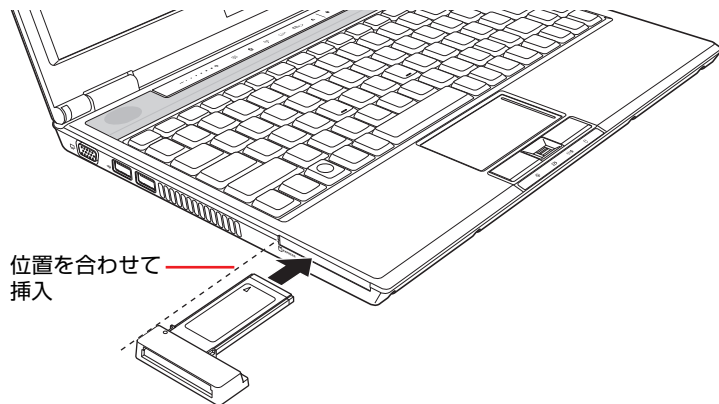
1　Expressカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

(1) ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押します。

(2) 少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜きます。

ダミーカードはExpressカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2　ExpressカードをExpressカードスロットに挿入します。

Expressカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

Express Card/34をお使いの場合は、Expressカードスロットの通風孔側に、Express カードの左側を合わせて挿入してください。

3 **認識されると、Expressカードが使用できます。**

正しくExpressカードがセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

＜取り外しアイコン＞

Expressカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、Expressカードに添付のマニュアルをご覧ください。

Expressカードの取り外し

Expressカードの取り外し方法は、次のとおりです。

本機にセットされていた Express カードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 **Expressカードの終了処理を行います。**

本機の電源が切ってある場合は、終了処理は不要です。手順2に進みます。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

(2) 表示されたメニューから「(取り外したいExpressカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。

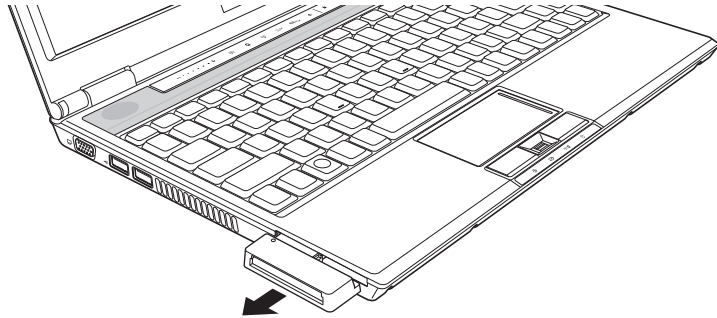
USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (F:) を安全に取り外します

(3) 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

これでExpressカードの終了処理は完了です。

2 **Expressカードを「カチッ」と音がするまで押すと、Expressカードが少し出ます。**

強く押すと、Expressカードが飛び出すことがあるので注意してください。

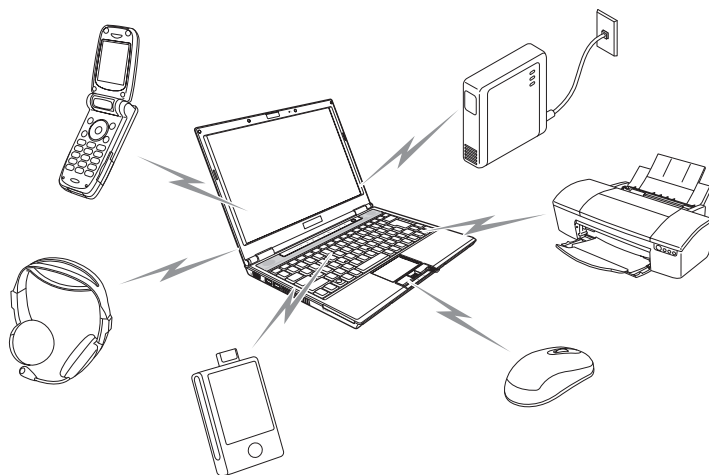
3　**Expressカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り出したExpressカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。Expressカードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

Bluetooth機能を使う

本機には、Bluetooth機能が搭載されています。
Bluetoothとは、無線の通信方式の1つです。ここでは、Bluetooth機能の使い方について説明します。

Bluetooth機能でできること

本機では、Bluetooth機能を使用して、次のようなことができます。

- **Bluetooth対応の周辺機器を使用できます。**
  マウス、プリンタ、カメラ、ステレオヘッドフォン、ヘッドセット、携帯電話、ワイヤレスモデムステーション、アクセスポイントなど
- **Bluetooth機能が搭載されているコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。**

仕様

本機に搭載されているBluetooth機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth標準規格 Ver 2.0 + EDR	2.4GHz

Bluetoothドライバのインストール

購入時にはBluetoothドライバはインストールされていません。Bluetooth機能を使用するには、Bluetoothドライバをインストールします。

p.225 「Bluetoothドライバのインストール」

Bluetooth機能の使い方

ここでは、Bluetooth機能の基本的な使用方法を説明します。Bluetooth機能の詳しい使用方法は、次をご覧ください。

[スタート] ー「すべてのプログラム」ー「Bluetooth」ー「ユーザーズガイド」

Bluetooth機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - 手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - 病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- Bluetooth機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

2

電波に関する注意

Bluetooth機能を使用する際は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機のBluetooth機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機のBluetooth機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

- 本機のBluetooth機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解・改造すると法律で罰せられることがあります。

- 2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機のBluetooth機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1 構内無線局（免許を要する無線局）
    2 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機のBluetooth機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth機能、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合もありますが、故障ではありません。

通信可能な距離

Bluetoothで通信可能な距離は、10m以内です。Bluetooth通信を行うときは、本機と通信を行う機器を10m以内に設置してください。
推奨される通信距離は3m以内です。

通信可能距離は 10m 以内ですが、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

Bluetooth機能を使用して通信する際は、次の事項を確認してください。

- 使用する機器がBluetoothに対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数のBluetooth機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。
- 大容量データを送受信する場合は、途中で通信が途切れることがあります。その場合は、再度送受信してください。

- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態に復帰できない場合があります。
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、Bluetooth 機能を使用できません。Windowsを再起動してログオンしなおしてください。

プロファイル

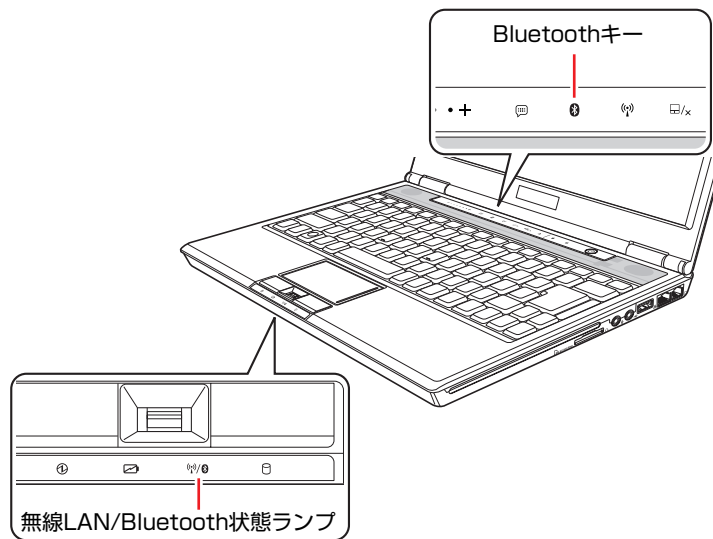
Bluetooth通信を行う場合は、本機と通信する周辺機器が共通のプロファイルに対応している必要があります。
プロファイルとは、機器によって提供される機能のことで、Bluetooth通信を行うための規格です。製品ごとの特長や使用目的に応じて複数のプロファイルが制定されています。
本機が対応しているプロファイルの種類については、次をご覧ください。

［スタート］ ‒「すべてのプログラム」‒「Bluetooth」‒「ユーザーズガイド」‒「はじめに」‒「使用できるBluetooth ワイヤレステクノロジー機器の種類」

Bluetooth機能のON/OFF方法

Bluetooth機能のON/OFF方法について説明します。

Bluetooth機能のON/OFF切り替え

Bluetooth機能のON/OFFは、Bluetoothキー（）で行います。
購入時、Bluetooth機能はOFFになっています。

Bluetooth機能のON/OFFは、Bluetoothキーと無線LAN/Bluetooth状態ランプで確認できます。

Bluetooth機能	Bluetoothキー	無線LAN/Bluetooth状態ランプ
ON	点灯：輝度最大（青色）	点灯（青色）
OFF	点灯：輝度50%（青色）	消　灯

※ 無線LAN/Bluetooth状態ランプは、無線LAN機能がONの場合も青色に点灯します。Bluetoothと無線LANを同時に使用した場合、接続に支障があるときは、いずれかの使用を中止してください。

▶Bluetooth対応の周辺機器を使用する

マウスやキーボードなど、Bluetooth対応の周辺機器を使用する方法を説明します。

周辺機器の検出・登録

新規で周辺機器を使用する場合、周辺機器を検出して登録をする必要があります。

Bluetoothパスキー（PINコード）
周辺機器によっては、設定中に、Bluetoothパスキー（PINコード）の入力を促す画面が表示される場合があります。この場合は、周辺機器に添付の取扱説明書を参照の上、パスキーを入力してください。

周辺機器の登録方法は次のとおりです。

1　本機と周辺機器を10m以内に設置します。

p.107「通信可能な距離」

2　本機と周辺機器のBluetooth機能を「ON」にします。

p.108「Bluetooth機能のON/OFF方法」

周辺機器のBluetooth機能をONにする方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

3　周辺機器を検索します。

(1) 通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリックして、「Bluetooth設定」を選択します。

<Bluetoothアイコン>

<新規で周辺機器を検索する場合>

「新しい接続の追加ウィザード」が表示されます。

<すでに本機に登録された周辺機器がある場合>

「Bluetooth設定」画面が表示されたら、[新しい接続]をクリックして、「新しい接続の追加ウィザード」を表示します。

(2)「新しい接続の追加ウィザード」画面で「エクスプレスモード」にチェックが付いていることを確認して、[次へ]をクリックします。

「カスタムモード」は、周辺機器が複数の機能（サービス）をサポートしている場合に、使用したい機能を選択することができます。

以降は画面の指示に従って登録を行います。

周辺機器を使用する

登録が完了すると、「Bluetoothデバイス」の一覧に周辺機器が表示され、使用できるようになります。
一度登録を行うと、次回以降は自動的に周辺機器に接続します。

自動的に接続できない場合

「Bluetooth設定」画面で接続したい周辺機器のアイコンを右クリックし、「接続」を選択します。

▶コンピュータ同士でBluetooth通信する

本機では、Bluetooth機能を搭載したコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。

データの送信

ここでは、Bluetooth機能を搭載したコンピュータに、本機からデータを送信する方法を説明します。

1　本機と送信先のコンピュータを10m以内に設置します。

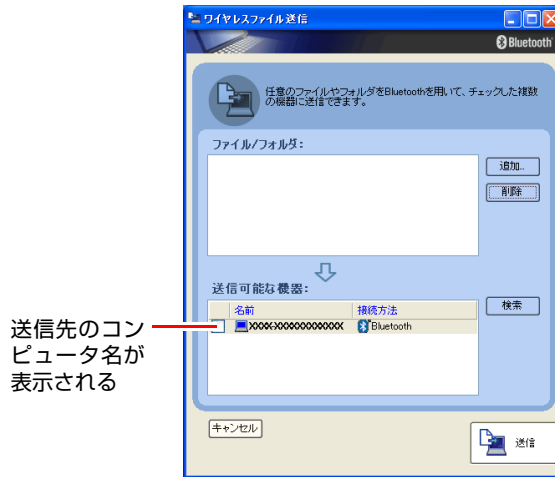
p.107 「通信可能な距離」

2　本機と送信先のコンピュータのBluetooth機能を「ON」にします。

p.108 「Bluetooth機能のON/OFF方法」

3 **通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリックして、「ワイヤレスファイル送信」を選択します。**

<Bluetoothアイコン>

送信先のコンピュータが自動的に検出され、「ワイヤレスファイル送信」画面の「送信可能な機器」に名前が表示されます。

<ワイヤレス送信画面>

4 **「送信可能な機器」から、送信先のコンピュータを選んで、チェックを付けます。**

5 **［追加］をクリックして、送信するファイルを指定します。**

6 **［送信］をクリックします。**

送信先のコンピュータで、受信確認メッセージが表示されます。表示内容は、送信先のコンピュータのBluetoothユーティリティソフトウェアにより異なります。

7 **「・・・転送が成功しました。」と表示されたら［OK］をクリックします。**

これでファイル転送は完了です。

データの受信

本機がBluetooth通信で受信したファイルは、次の場所に保存されます。

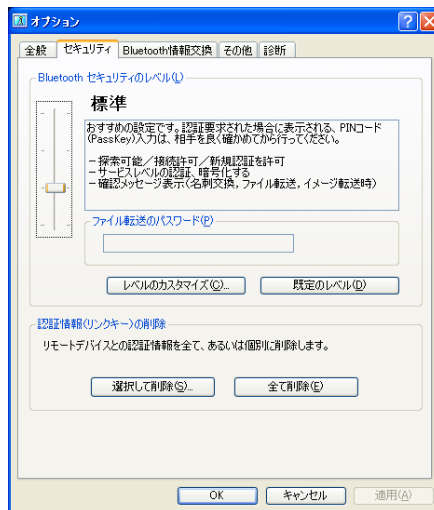
通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリックー「Bluetooth情報交換」

セキュリティを設定する

セキュリティの確保のために、本機をほかのBluetooth機器から検出されないようにしたり、通信内容を暗号化したりする設定ができます。
セキュリティに関する各種設定は、次の画面で行います。

通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリック－「オプション」－「セキュリティ」タブ

<Bluetoothアイコン>

セキュリティの設定を行う画面が表示されます。

Bluetoothユーティリティのセキュリティの詳細は、次をご覧ください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Bluetooth」－「ユーザーズガイド」－「Bluetoothユーティリティを使ってみよう」－「より高度な使い方」－「他のユーザから機器を検出不能にする」/「通信内容を暗号化する」

画面表示をする

ここでは、本機のLCDユニットでの画面表示について説明します。
本機では、LCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。

p.118「外付けディスプレイに表示する」

LCDユニットの仕様

本機では次のLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 13.3型　WXGA　　最大解像度　1280×800

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるものでは故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯または常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、全ドットの0.00026%以下に相当します。

＊「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

本機の副画素数

WXGAの場合　3,072,000個

▶LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

次の場所で調整することもできます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」－「ディスプレイの輝度を調整」

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯方法は、次のとおりです。

キー操作	状態
Fn ＋ F7 LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じると、本機は「スリープ状態」になります。

p.176 「省電力状態の種類」

LCDユニットを閉じたときの動作は、変更することができます。

p.177 「省電力状態に移行する方法」

▶表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度は次のとおりです。表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

解像度	13.3型WXGA
800×600	○
1024×768	○
1280×720*	○
1280×800*	○

*ワイド表示

ワイド表示以外の解像度を設定すると、画面が縦伸びまたは横伸びしたように見えます。この場合は、画面サイズを切り替えてください。

p.117「画面サイズを切り替える」

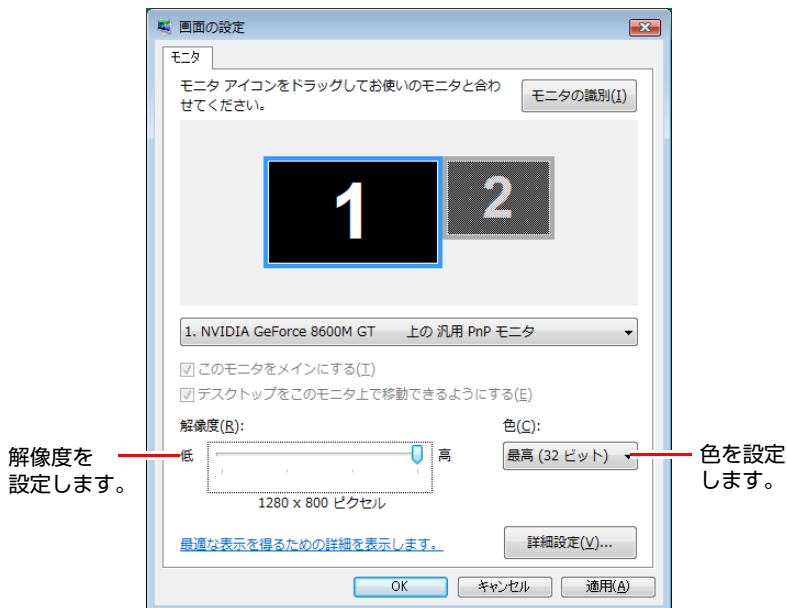
解像度や表示色が高いと、「WinDVD」でDVD VIDEOを再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

2

解像度や表示色の変更方法

解像度と表示色の変更方法は次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」をクリックします。

2 「解像度」、「色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3 項目を変更したら、［適用］をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

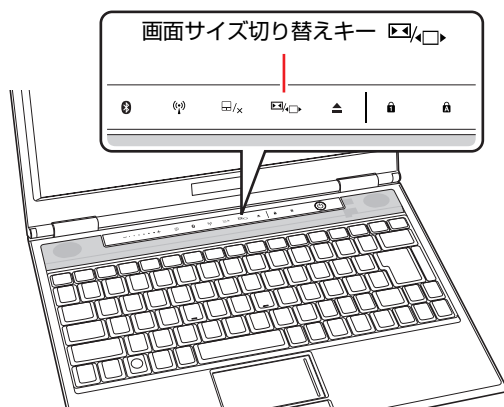
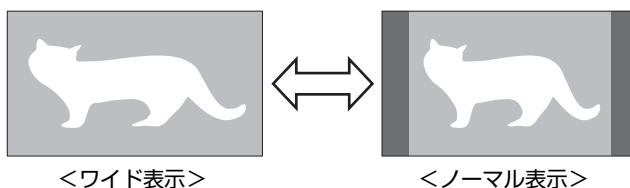
セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.263「セーフモードでの起動」

画面サイズを切り替える

本機はワイド液晶ディスプレイを搭載しているため、ワイド表示以外の解像度を設定すると、画面が縦伸びまたは横伸びしたように見えます。この場合は、画面サイズ切り替えキーで画面表示を切り替えることができます。

外付けディスプレイを接続している場合は、画面サイズの切り替えができないことがあります。

画面サイズ切り替えキーを押すたびに、ワイド表示とノーマル表示に切り替わります。購入時は、ワイド表示に設定されています。

画面サイズを切り替えると、自動的に解像度が次のとおり切り替わります。

画面表示	解像度
ワイド	1280×800
ノーマル（縦横比4：3）	1024×768

- 画面サイズ切り替えキーで画面サイズを切り替えたあと、上記の表以外の解像度に変更したいときは、手動で設定を変更してください。
  p.116「解像度や表示色の変更方法」
- Windowsを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーごとに画面表示の設定（ワイド/ノーマル）を保存することはできません。

外付けディスプレイに表示する

本機では、外付けディスプレイを接続して、画面を表示することができます。

▶ディスプレイの接続

接続できるディスプレイの種類

本機には、VGAコネクタとHDMIコネクタの2つのコネクタが搭載されており、外付けディスプレイを2台同時に接続することができます。
本機への外付けディスプレイの接続方法には、次の3つの方法があります。

接続方法	接続するコネクタ
アナログ接続	VGAコネクタ
HDMI接続	HDMIコネクタ
デジタル接続	HDMIコネクタ （DVI-HDMI変換アダプタ使用）

本機に外付けディスプレイを 2 台接続した場合でも、同時に表示できるのは本機も含めて 2 画面までです。

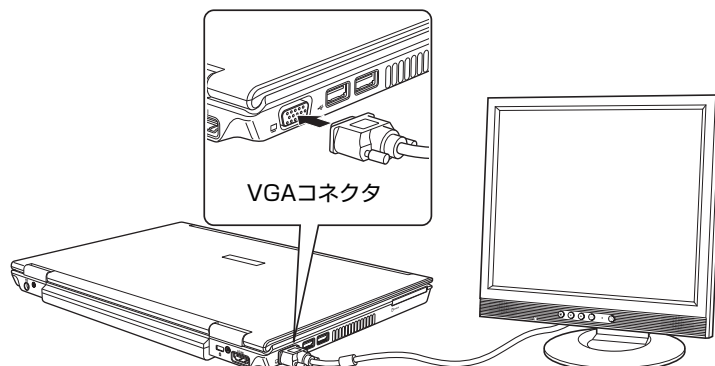
外付けディスプレイの接続

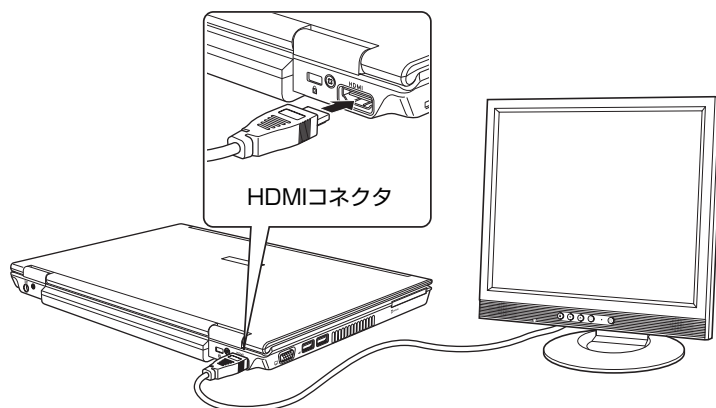
外付けディスプレイの接続方法は、次のとおりです。

1 **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**

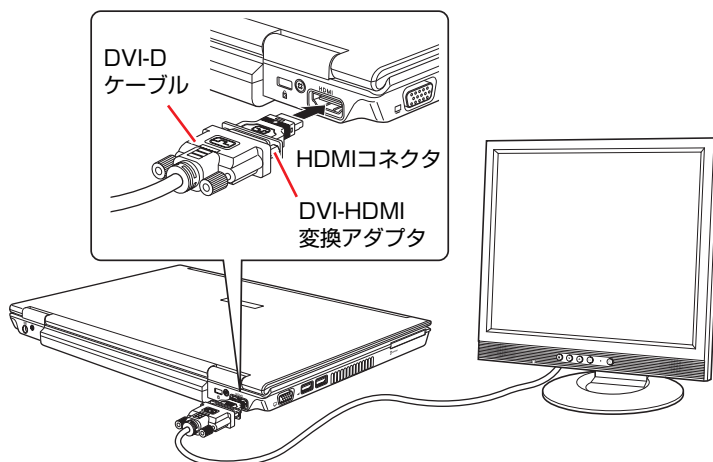
2 **接続するディスプレイの接続方法を確認し、ディスプレイの接続ケーブルを本機に接続します。**

＜アナログ接続の場合＞
外付けディスプレイのVGAケーブルを、本機左側面のVGAコネクタ（▭）に接続します。

<HDMI接続の場合>

外付けディスプレイのHDMIケーブルを、本機背面のHDMIコネクタ（HDMI）に接続します。

HDMIコネクタに接続すると、音声も出力されるので音声出力先を変更してください。変更方法は、p.129「音声出力先の設定」をご覧ください。

<デジタル接続の場合>

(1) 外付けディスプレイのDVI-Dケーブルのコネクタ（コンピュータに接続する側）に、DVI-HDMI変換アダプタを接続します。

(2) 本機背面のHDMIコネクタ（HDMI）に接続します。

3　外付けディスプレイと本機の電源を入れます。

Fn ＋ F8 （LCD/□）を押すと、表示装置の切り替えができます。

「画面の外観を選択してください」と表示された場合は、表示方法を選択し、［OK］をクリックします。

外付けディスプレイへの表示を終了する

外付けディスプレイへの表示が終了したら、Windowsを終了後に必ず接続ケーブルを取り外してください。外付けディスプレイの電源が入っていなくても、ケーブルを接続しているだけで自動認識され、信号が出力されます。

ビデオプロジェクタへの接続

ビデオプロジェクタはアナログディスプレイと同様に、本機のVGAコネクタに接続します。

プロジェクタによっては、ほかの方法で接続できる場合があります。

詳しくはプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

画面表示の種類

本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

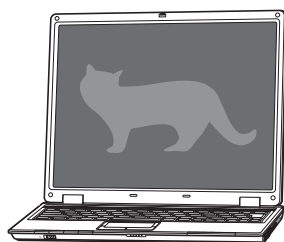
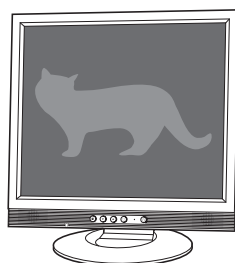
- シングルモード

  1つのディスプレイ（LCD画面のみまたは外付けディスプレイのみ）に表示します。

  外付けディスプレイが接続されていてもLCD画面のみで表示できます。

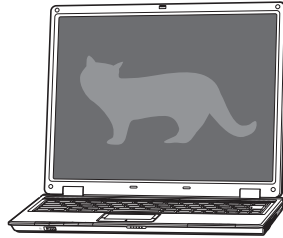
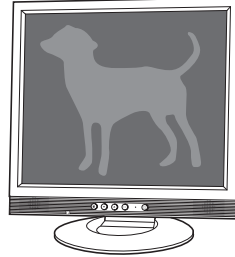
- クローンモード

  2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

<LCD画面>

<外付けディスプレイ>

● デュアルビューモード

それぞれのディスプレイに対して、個別に解像度を設定することができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。

<LCD画面>

<外付けディスプレイ>

画面表示を切り替えるには

表示画面の切り替え方法は、次の2とおりの方法があります。

● キーボードで操作する

キーボードで簡単にシングルモード、クローンモードの切り替えができます。

ただし、デュアルビューモードへの切り替えはできません。

● ユーティリティから操作する

すべての組み合わせの切り替えが可能です。

キーボードで操作する場合

Fn ＋ F8（LCD/□）を押すたびに表示画面が切り替わります。

表示は次の組み合わせで行うことができます。接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

組み合わせ	表示内容
LCD Only	LCD画面のみに表示
CRT Only	アナログディスプレイのみに表示
LCD+CRT	LCD画面とアナログディスプレイに表示（クローンモード）
HDMI Only*	HDMI接続のディスプレイのみに表示
LCD+HDMI*	LCD画面とHDMI接続のディスプレイに表示（クローンモード）
CRT+HDMI*	アナログディスプレイとHDMI接続のディスプレイに表示（クローンモード）

*DVI-HDMI変換アダプタ使用時は、デジタルディスプレイに表示

- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。
- クローンモードで表示する場合に、解像度の異なる2つの表示装置を選択したときは、低い方の解像度で表示されます。

ユーティリティから操作する場合

画面表示の切り替え方法は次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」－［詳細設定］をクリックします。**

2 **「（マルチモニタ）とNVIDIA GeForce 8600M GTのプロパティ」画面で「GeForce 8600M GT」タブ－［NVIDIA コントロールパネルの起動］をクリックします。**

3 **「NVIDIAコントロールパネルビューの選択」画面が表示された場合は、「標準設定」を選択して、［OK］をクリックします。**

この画面は初回起動時のみ表示されます。

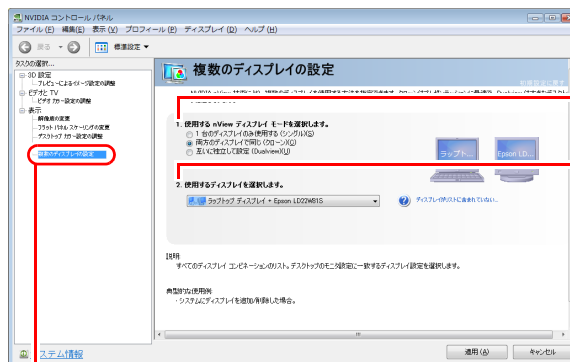
4 **「NVIDIAコントロールパネル」画面が表示されたら、次の設定を行います。**

(1) 左側の項目から「複数のディスプレイの設定」を選択します。

画面右側に「複数のディスプレイの設定」と表示されます。

(2)「1. 使用する nView ディスプレイモードを選択します。」項目から表示させたいモードを選択します。

p.120「画面表示の種類」

(3)「2. 使用するディスプレイを選択します。」項目から表示するディスプレイ（組み合わせ）を選択します。

（1）「複数のディスプレイの設定」を選択

5 **［適用］をクリックし、以降は画面の指示に従って設定を行ってください。**

デュアルビューモードから別の表示への切り替えは、キーボードでは行えません。「NVIDIAコントロールパネル」で一旦「クローンモード」に設定してから、キーボードで別の表示に切り替えてください。

▶外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。

● 解像度

解像度 ピクセル（横×縦）	アナログ接続	HDMI接続	デジタル接続 （DVI-HDMI変換アダプタ使用）
800×600	○	○	○
1024×768	○	○	○
1280×720*	○	○	○
1280×1024	○	○	○
1440×900*	○	○	○
1600×1200	○	−	○
1680×1050*	○	○	○
1920×1080*	○	○	○
1920×1200*	○	−	○

* ワイド表示

● 表示色

中（16ビット）/ 最高（32ビット）

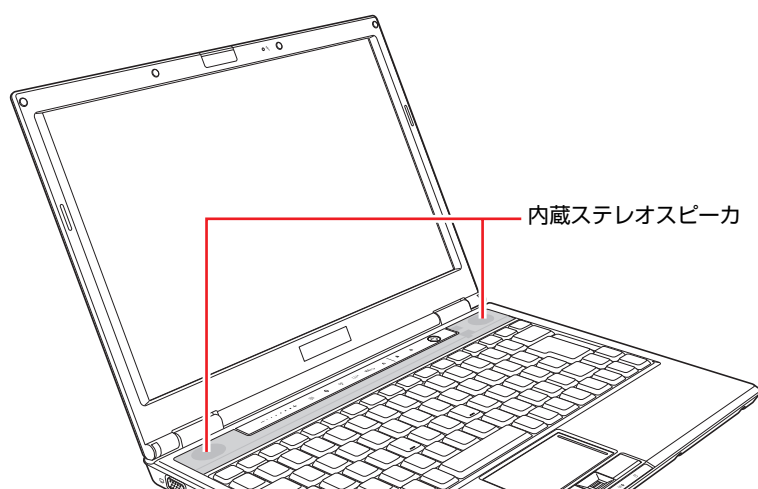
- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- クローンモードの場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピュータ側の最大解像度と外付けディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

サウンド機能を使う

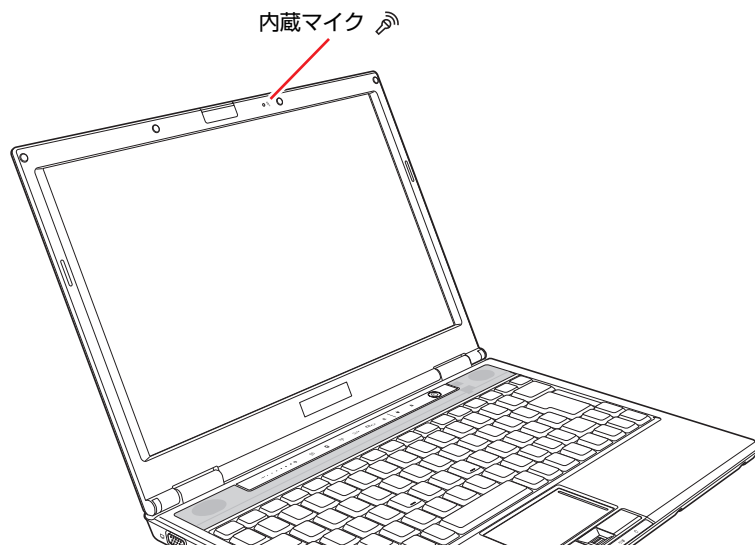
本機には、サウンド機能が搭載されています。

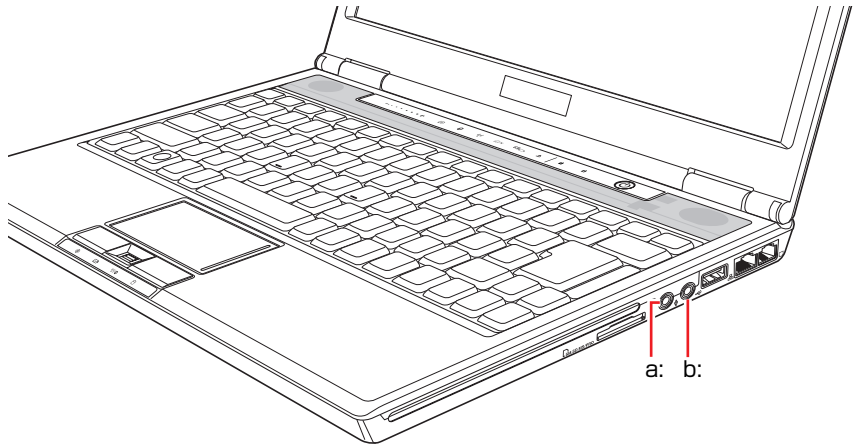
ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵ステレオスピーカ

本機は、内蔵ステレオスピーカを搭載し、音源からの音声を出力することができます。

内蔵マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。

 p.127「音声の再生・録音」

マイクなどの接続

本機右側面には、オーディオ機器やマイクなどを接続するためのコネクタが標準で搭載されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

a: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
ヘッドフォンやスピーカを接続した場合はヘッドフォンコネクタとして機能します。
MDデッキなどの光デジタルオーディオ機器と接続して設定を行うと、光デジタルオーディオ出力コネクタとして機能します。

 p.129 「音声出力先の設定」

b: マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力します。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

参考

ヘッドフォンやマイクの接続
ヘッドフォンやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

▶音量の調節

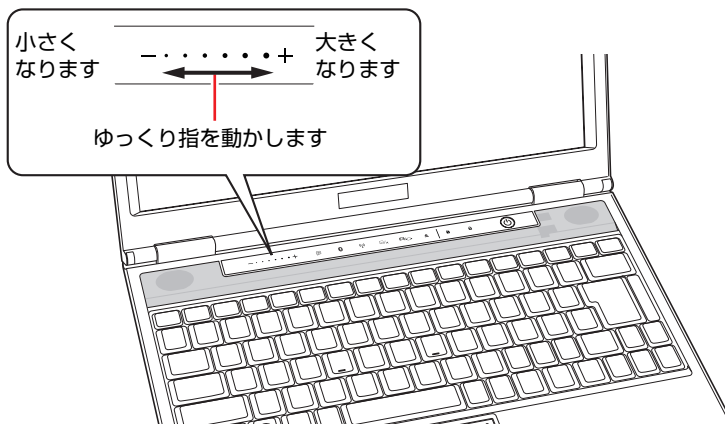
スピーカの音量は次の方法で調節できます。

● Fnキー操作で調節する

キー操作	状　態
Fn ＋ F10	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11 ▼	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12 ▲	音量が大きくなります。

● ボリュームコントロールで調整する

ボリュームコントロール上で指を動かして、音量を調節します。

p.82 「タッチセンサー」

● ソフトウェアによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
● タッチセンサーで音量を調節するときは、タッチセンサーをしっかりと押さえて、反応を見ながら、ゆっくり指を動かしてください。

音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは次の場所から起動します。

[スタート] －「すべてのプログラム」－「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

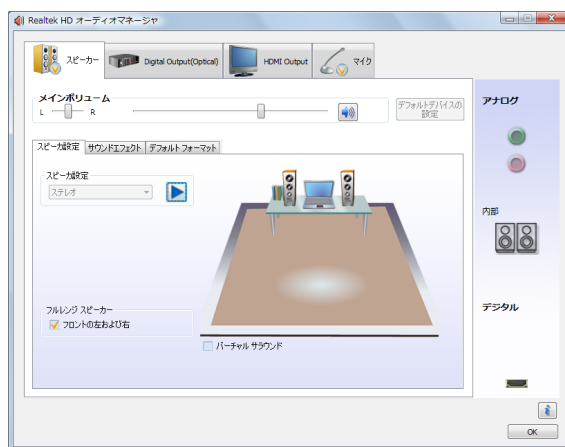
[スタート] －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「サウンドレコーダー」

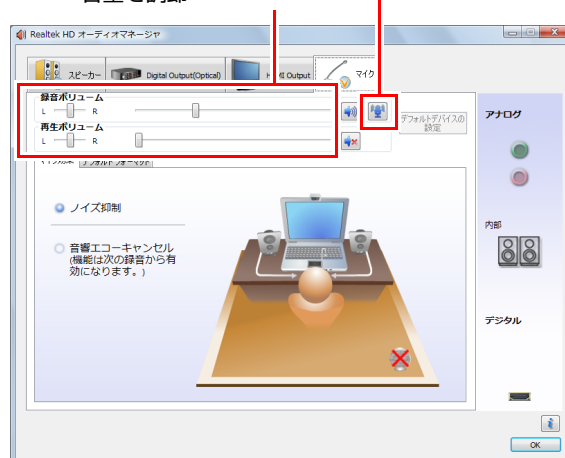
本機にマイクを接続して音声を録音する場合、音量の調節方法はp.128「マイク使用時の音量調節」をご覧ください。

サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。
サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。

＜サウンドユーティリティアイコン＞

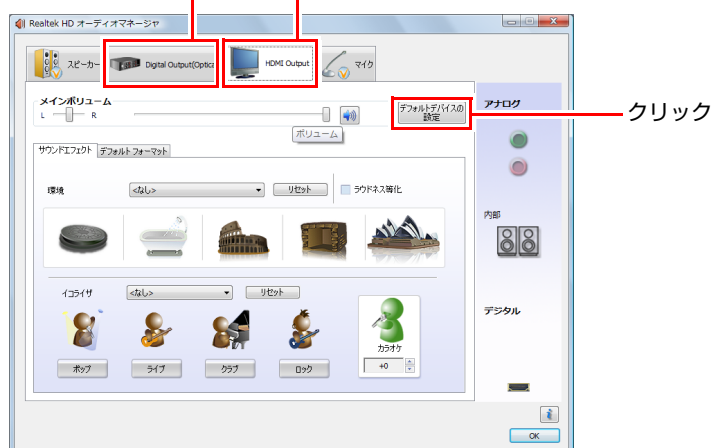
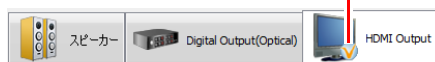
次の画面が表示されます。

マイク使用時の音量調節

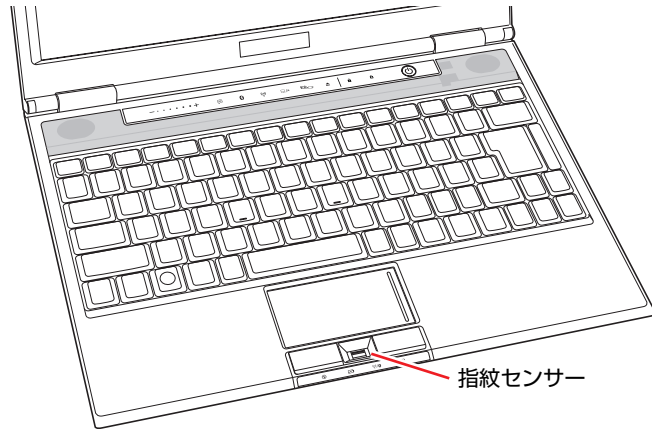
本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

音声出力先の設定

購入時、本機の音声出力先は内蔵スピーカに設定されています。次の場合は、サウンドユーティリティで音声の出力先を変更してください。

- HDMI機器を接続した場合
- 光デジタルオーディオ機器を接続した場合

音声出力先を変更するには、「Digital Output（Optical）」タブまたは「HDMI Output」タブをクリックし、［デフォルトデバイスの設定］をクリックします。

音声出力先に設定されるとタブにチェックが付きます。

指紋認証機能を使う

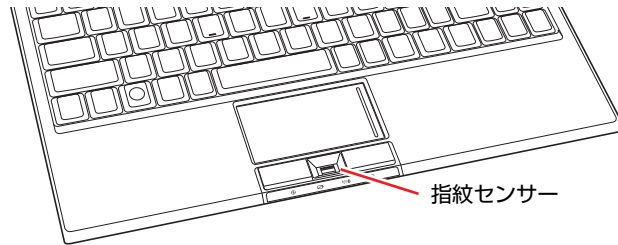
本機は指紋認証機能を搭載しています。この機能を使うと、パスワードの代わりに指紋でWindowsやWebページにログオンしたり、ソフトウェアを起動したりすることができます。

- 本機の指紋認証機能は、PBA機能（Windows起動前のBIOS認証機能）に対応していません。BIOSのパスワード入力の代わりを、指紋認証で行うことはできません。
- 一部のブラウザでは指紋認証機能が使用できないことがあります。
- 指紋認証機能は100%の完全な本人認証を保証するものではありません。
- 指紋認証機能を使用したことで発生したいかなる損害についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

▶指紋認証機能でできること

指紋認証機能では、次のようなことができます。

- Windows指紋ログオン
  アカウントやパスワードを入力する代わりに、指紋認証でWindowsにログオンできます。
- パスワードバンク（Password Bank）
  登録したWebページやダイアログにアクセスした際、ユーザーIDやパスワードを入力する代わりに、指紋認証でログオンできます。
- File Protection
  指紋認証を使用して、ファイルを暗号化してロックしたり、ファイルの暗号化を解除したりできます。

指紋センサー

指紋は、指紋センサーで読み取ります。指紋センサーを使用するときは、次の注意事項をよくお読みください。

指紋センサー使用時の注意

指紋センサー使用時は、次の注意事項を必ず守ってください。

- 指紋センサーの表面を、硬いものや先の尖ったもの、爪などで引っかかないでください。
  センサー表面にキズが付き、センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 汚れた指で指紋センサーを触らないでください。
  センサー表面に汚れが付き、センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

指紋読み取り時の注意

登録に使う指が次のような状態の場合、指紋の読み取りができないことがあります。その場合は、対処を行ってください。

- ぬれている
  水分を拭き取ってください。

- 非常に乾燥している
  ハンドクリームを塗るなどして保湿してください。

- 汚れている、泥・油などで着色している
  汚れや着色を洗い落としてください。

- シワが多い、ザラザラしている、傷がある、登録したときの指紋から著しく変化している
  違う指で再登録を行ってください。

対処を行っても、指紋情報が少ないなどの理由で指紋を登録できない場合があります。

お手入れ

次のような場合は、指紋センサーを、乾いた柔らかい布で拭いてください。

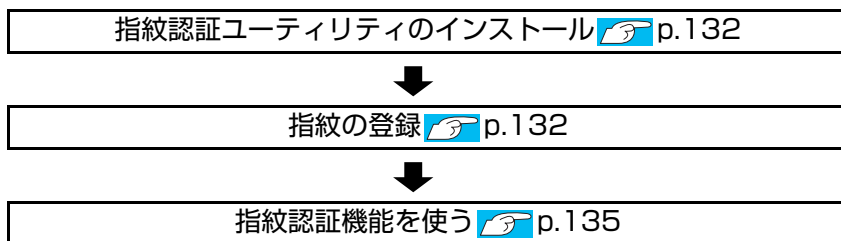
- 指紋センサー表面に汚れや着色、湿りがある
- 指紋の読み取りに頻繁に失敗する

▶指紋認証機能を使用できるようになるまでの流れ

指紋認証機能を使用できるようになるまでの流れは、次のとおりです。

指紋認証ユーティリティのインストール p.132

指紋の登録 p.132

指紋認証機能を使う p.135

▶指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能の設定には、「指紋認証ユーティリティ」を使用します。購入時、指紋認証ユーティリティはインストールされていません。指紋認証ユーティリティをインストールしてください。インストール方法は、p.232「指紋認証ユーティリティのインストール」をご覧ください。

▶指紋の登録

指紋の登録方法は、次のとおりです。指をけがした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に備えて、2本以上の指紋を登録してください。

1 **通知領域の「VitaKey」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「System Wizard」をクリックします。**

<VitaKeyアイコン>

2 **「ようこそ」画面が表示されたら、[Next] をクリックします。**

3 **画面が表示されたら、「新しいユーザーデータファイルの作成」にチェックが付いていることを確認して [Next] をクリックします。**

4 **パスワードを入力する画面が表示されたら、パスワードを入力します。**

このパスワードはWindowsログオン時や指紋認証ユーティリティの設定に使用するパスワードです。指をけがした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に使用します。絶対に忘れないようにしてください。

＜Windowsのパスワードを設定している場合＞

「コンピュータのパスワード」にWindowsにログオンするときのパスワードを入力して［Next］をクリックします。

＜Windowsのパスワードを設定していない場合＞

「新しいパスワードの入力」と「パスワードの確認」にパスワードを入力して［Next］をクリックします。このパスワードがWindowsのパスワードになります。

2

5 **指紋を登録します。「指紋の登録を行う指を選んでください」と表示されたら、 指紋を登録したい指をクリックして選択します。**

6 **「指紋認証デバイスで指紋入力を行ってください」と表示されたら、登録する指の指紋を、指紋センサーで読み取ります。**

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。

数回読み取りに成功して、指紋の特徴が十分認識されると、「指紋登録を続けますか又は登録された指紋を削除しますか」と表示されます。

※ をクリックすると、指紋センサーで指紋を読み取る方法を確認できます。

7 **引き続き別の指を選択して、手順5・6を繰り返して指紋を登録します。**

指をけがした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に備えて、2本以上の指紋を登録してください。

8 2本以上の指紋を登録したら［Next］をクリックします。

9 「ユーザーデータファイルのバックアップ」と表示されたら、ユーザーデータファイルの保存場所を指定して［Next］をクリックします。

パスワードバンクの設定をユーザーデータファイルにバックアップします。

10 「バックアップは正常に行われました。」と表示されたら［OK］をクリックします。

11 「System Wizardセットアップが完了します。」と表示されたら、［Finish］をクリックします。

これで指紋の登録は完了です。

指紋を登録すると、Windows起動時に指紋ログオンができるようになります。詳しくは、p.135 「Windows指紋ログオン」をご覧ください。

指紋の追加登録・削除

指紋の追加登録・削除方法は次のとおりです。必要に応じて作業を行ってください。

1 画面右下の通知領域の「VitaKey」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「System Settings」をクリックします。

2 「Authentication」画面が表示されたら、本人確認のために指紋センサーで登録済みの指紋を読み取ります。

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。

3 「System Settings」画面が表示されたら、画面左上の「Fingerprint Management」ボタンをクリックします。

4 「指紋登録を続けますか又は登録された指紋を削除しますか」と表示されたら、指紋を登録または削除したい指をクリックして選択します。

すでに登録されている指は赤く表示されます。

＜指紋を追加登録するとき＞

(1)「指紋認証デバイスで指紋入力を行ってください」と表示されたら、指紋を登録します。

p.132 「指紋の登録」手順6

＜登録した指紋を削除するとき＞

(1)「削除しますか」と表示されたら［Yes］をクリックします。

5 [OK]をクリックします。

これで、指紋の追加登録・削除は完了です。

▶指紋認証機能を使用する

指紋を登録すると、次の機能を使用できます。

Windows指紋ログオン

ユーザーアカウントやパスワードを入力する代わりに、指紋でWindowsにログオンできるようになります。
Windows指紋ログオンの手順は次のとおりです。

1　電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

2　Windowsログオン画面が表示されたら、指紋センサーで指紋を読み取ります。

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。認証に成功すると、Windowsが起動します。

パスワード入力でWindowsにログオンする

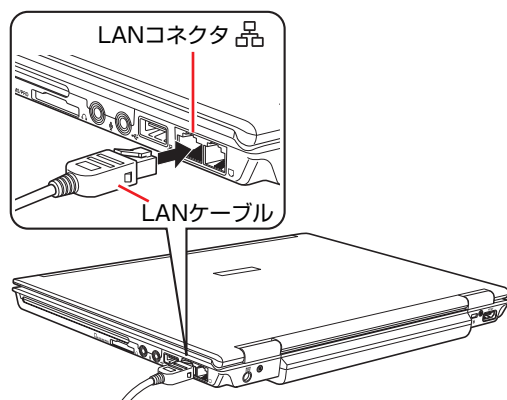
指紋が認証されにくい場合や、指にけがをした場合は、Windowsのパスワードを入力してWindowsにログオンしてください。

そのほかの機能

「パスワードバンク」や「File Protection」の使用方法は、指紋認証ユーティリティのヘルプをご覧ください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「VitaKey」－「AC5022」－「Online Help」

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機には、1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tに対応したネットワーク機能（有線LAN）が搭載されています。ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。
ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、本機右側背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。

▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築方法は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・再起動する
  ・省電力状態に移行しないように設定する
  p.177「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、p.154「インターネットに接続するには」をご覧ください。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時やスリープ状態、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

Wakeup On LANを使用する場合は、BIOSとWindowsでWakeup On LANを有効に設定する必要があります。

BIOSの設定

BIOSでWakeup On LANを有効にする設定は次のとおりです。

「Boot」メニュー画面－「Wake-Up On LAN」：Enabled（有効）

p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.209 「Bootメニュー画面」

購入時は、有効に設定されています。

ネットワークドライバの設定（Windowsの設定）

WindowsでWakeup On LANを有効にする方法は、次のとおりです。購入時、Wakeup On LANは有効に設定されています。Windowsを再インストールした場合は、設定を行ってください。

1. ［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「システム」－画面左側の「デバイスマネージャ」をクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。
3. 「デバイスマネージャ」画面が表示されたら、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、表示された一覧から「Realtek RTL8168C(P)/…」をダブルクリックします。
4. 「Realtek RTL8168C(P)/…のプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックします。
5. 「プロパティ」の「Wake-On-Lan Capabilities」をクリックし、「値」を「Magic Packet」に変更します。
6. 「電源の管理」タブをクリックし、「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

   これで設定は完了です。

▶リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsをインストールすることができます。

▶ネットワーク切替えツールを使う

会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、「ネットワーク切替えツール」を使って、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。

Bluetooth のネットワーク接続には対応していません。

プロファイルの登録

ネットワーク切替えツールでは、ネットワーク環境の設定をプロファイルとして管理します。複数のネットワーク環境をプロファイルに登録して使用します。
※ 複数の無線LAN環境設定を登録できますが、アクセスポイントの切り替えを行うことはできません。

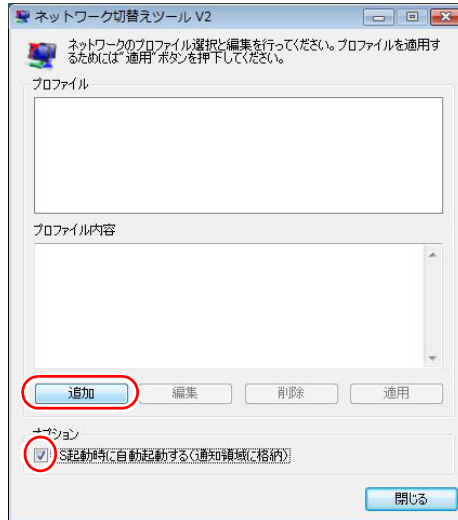
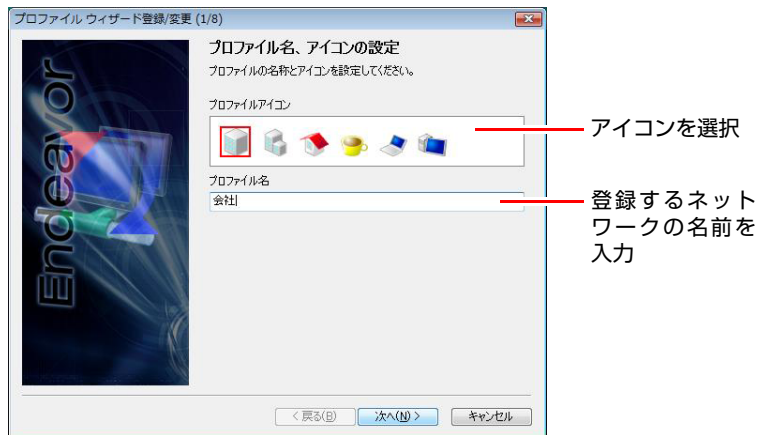
プロファイルを登録する手順は、次のとおりです。
プロファイルの登録は、登録するネットワークに接続した状態で行ってください。

1 **登録するネットワークに接続します。**

2 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックします。**

3 **「プロファイルが登録されていません。・・・」と表示された場合は、［OK］をクリックします。**
プロファイルがない場合にのみ表示されます。

4 **「ネットワーク切替えツール」画面が表示されたら、「OS起動時に自動起動する（通知領域に格納）」にチェックを付けて、［追加］をクリックします。**

チェックを付けると、次回起動時から通知領域にアイコンが常に表示されます。

5 **「プロファイルウィザード登録/変更」画面が表示されたら、登録するネットワークのアイコンを選択し、名前を入力して、［次へ］をクリックします。**

6 **以降は、表示される画面の指示に従って、登録するネットワークの情報を入力してください。**

プロファイルの切り替え

必要なプロファイルを登録した後は、ネットワークの接続先に応じて、「ネットワーク切替えツール」でプロファイルを切り替えます。
切り替え方法は、次の2つです。

● アイコンから切り替える
通知領域の「ネットワーク切替えツール」アイコンをクリックし、表示されたメニューから接続したネットワークのプロファイルをクリックします。

＜ネットワーク切替えツールアイコン＞

● スタートメニューから切り替える
［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「ネットワーク切替えツール」をクリックし、表示された画面で、接続したネットワークのプロファイルをクリックして、［適用］をクリックします。

プロファイル一括変更ツール

ネットワーク切替えツールに登録したプロファイルの情報を一括で変更することができます。
使用するときは、［スタート］－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「プロファイル一括変更ツール」をクリックします。

通知領域に「ネットワーク切替えツール」アイコンが表示された状態では、プロファイル一括変更ツールを使用できません。
「ネットワーク切替えツール」アイコンを右クリックし、「アプリケーションの終了」をクリックして、アイコンの表示を終了してください。

無線LANを使う（オプション）

無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。
購入時に無線LANをオプション選択された場合、本機には無線LANアダプタが内蔵されています。

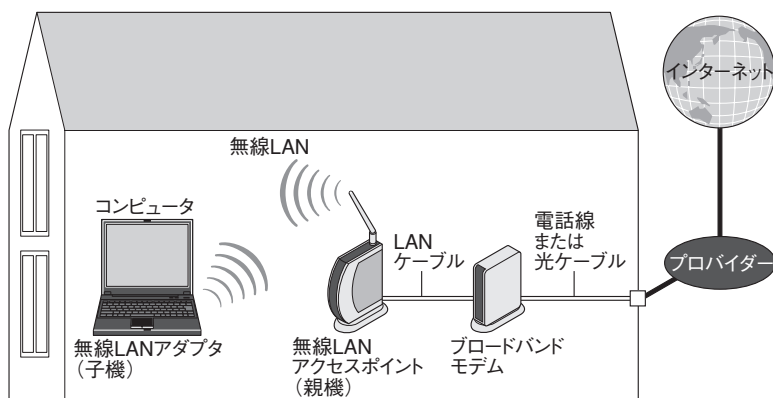
対応規格

本機に内蔵されている無線LANアダプタは、次の規格に対応しています。

- IEEE802.11a（W52/W53/W56/J52）/b/g
- IEEE802.11nドラフト2.0準拠*

*「IEEE802.11nドラフト2.0準拠」の表記は、他のIEEE802.11n対応製品との接続性を保証するものではありません。
IEEE802.11n対応のワイヤレスブロードバンドルータであっても、IEEE802.11nドラフト2.0規格での接続ができない場合があります。

無線LANの概要

無線LANの概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。

無線LANの用語一覧

無線LAN機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント	親機、ワイヤレスLANステーション、アクセスポイント、各社の製品名称
無線LANアダプタ	子機、ワイヤレスステーション、無線LAN端末、無線LANクライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠蔽、SSIDを見せない設定、SSIDマスクビーコン、SSIDステルス、ステルスAP、ステルス機能、ANY接続拒否
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限

無線LAN使用時の注意

無線LANを使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。

- 無線LAN機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線LAN機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する
  - ・省電力状態に移行しないように設定する
    p.177 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートには対応していません。

2

電波に関する注意

無線LANを使用する際は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- IEEE802.11a、IEEE802.11nドラフト2.0は、電波法の規定により屋外では使用できません。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機の裏面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

- IEEE802.11b/g、IEEE802.11nドラフト2.0を使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1. 構内無線局（免許を要する無線局）
    2. 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

▶無線LAN機能のON/OFF方法

無線LAN機能のON/OFF方法について説明します。

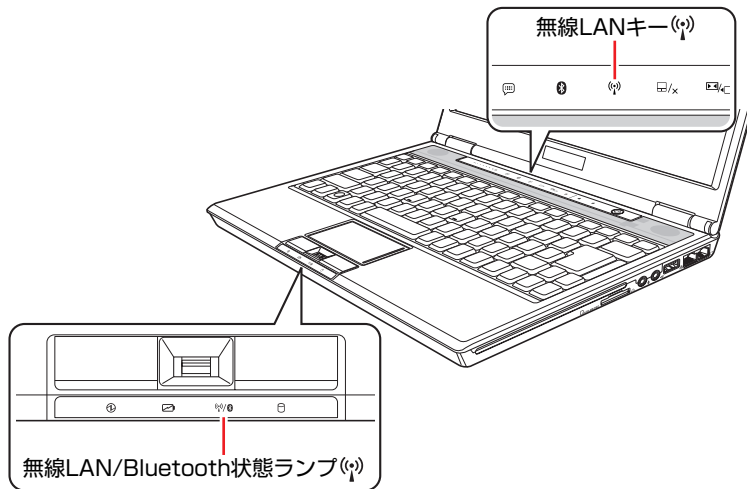
警告

無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

制限

- 有線LANを使用する場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。
- バッテリのみで本機を使用している場合、無線LAN機能がONになっていると、バッテリ駆動時間が短くなります。無線LANを使用しない場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。

無線LAN機能のON/OFF切り替え

無線LAN機能のON/OFF切り替えは、無線LANキー（(ᵢ)）で行います。無線LANキー（(ᵢ)）を押すたびに、ONとOFFが切り替わります。
購入時、無線LAN機能はOFFになっています。

無線LAN機能のON/OFFは、無線LANキーと無線LAN/Bluetooth状態ランプ（(ᵢ)/Bluetooth）で確認できます。

無線LAN機能	無線LANキー	無線LAN/Bluetooth状態ランプ
ON	点灯：輝度最大（青色）	点灯（青色）
OFF	点灯：輝度50%（青色）	消　灯

※ 無線LAN/Bluetooth状態ランプは、Bluetooth機能がONの場合も青色に点灯します。Bluetoothと無線LANを同時に使用した場合、接続に支障があるときは、いずれかの使用を中止してください。

▶無線LAN接続の設定をする

ここでは無線LANアクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線LAN接続方法）について説明します。
インターネットへの接続は、無線LAN接続完了後に、プロバイダから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

無線LAN接続の設定の流れは、次のとおりです。

無線LAN接続に必要な機器を用意する p.146

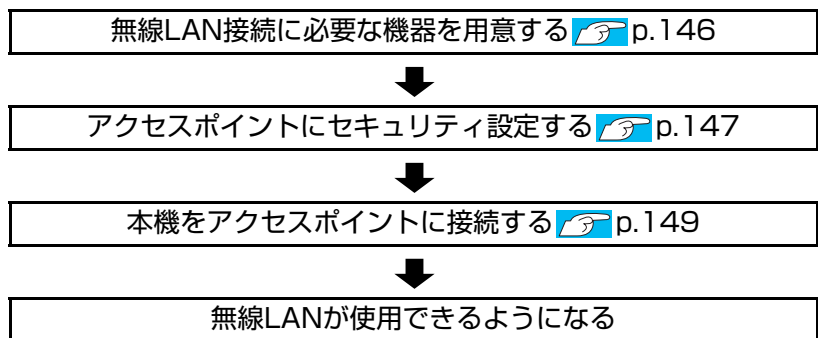
↓

アクセスポイントにセキュリティ設定する p.147

↓

本機をアクセスポイントに接続する p.149

↓

無線LANが使用できるようになる

アクセスポイントのマニュアルに従って接続する
アクセスポイントによっては、アクセスポイントに添付のマニュアルの記載に従って設定すると、簡単に無線LAN接続をすることができます。
まずは、アクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

無線LAN接続に必要な機器を用意する

無線LAN接続に必要な機器を用意します。

- **無線LANアクセスポイント**
  本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものを購入してください。
  アクセスポイントにはルータ付きとルータ無しがあります。接続するブロードバンドモデムにルータ機能がない場合は、ルータ付きを選択します。
- **ブロードバンドモデム（ADSL用や光ファイバー用の通信装置）**
  インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダと契約すると貸与されます。
- **LANケーブル**
  ブロードバンドモデムとアクセスポイント、アクセスポイントと本機を接続するのに使用します。

アクセスポイントにセキュリティ設定する

無線LANは電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、セキュリティ設定を行います。
セキュリティ設定はアクセスポイントのマニュアルを参照して行います。

1 **本機とアクセスポイントをLANケーブルでつなぎます。**

2 **すでにインターネットに接続している場合は、ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを一旦抜いておきます。**

次の手順でファイアウォールを無効にするため、セキュリティが確保されなくなります。インターネット接続している場合は、必ず電話線や光ケーブルを抜いてください。

3 **本機のファイアウォールを一旦無効に設定します。**

ファイアウォールが有効になっていると、無線LANの設定が正常に行えないことがあります。
設定方法は、p.162 「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』をご覧ください。

4 **アクセスポイントの電源を入れます。**

5 **アクセスポイントのマニュアルを参照し、本機でアクセスポイントの設定画面を開きます。**

無線LANアクセスポイント設定メニュー

メニュー		
ステータス	ＸＸＸＸ	ＸＸＸＸＸＸＸ
アドレス設定	ＸＸＸＸ	ＸＸＸＸＸＸ
高度な設定	ＸＸＸ	ＸＸＸ
MACフィルター	ＸＸＸ	ＸＸＸ
メンテナンス	ＸＸＸＸ	ＸＸＸＸ
パスワード	ＸＸＸ	ＸＸＸＸ
設定ウィザード	ＸＸＸ	ＸＸＸ
	ＸＸＸ	ＸＸＸ

<イメージ>

6　アクセスポイントのマニュアルに従って、次のセキュリティ設定を行います。

これは最低限行っていただきたいセキュリティ設定です。

- SSIDの変更
  誤って他人のアクセスポイントに本機を接続しないように、自分のアクセスポイントのSSID（名前）を自分だけがわかる名前に変更します。SSIDは他人にも見えていますので、個人名や会社名など、所有者が特定できるような名前は避けてください。
- 暗号化
  アクセスポイントと本機に同じ暗号化キーを設定すると、同じ暗号化キーを設定した機器同士のみが接続できるようになります。また、通信データが暗号化され、情報が傍受されにくくなります。
  暗号化にはいくつかの方式があります。

  一般家庭では次の方式を選択することをおすすめします。

  暗号化方式：WPA-PSK（パーソナル）

  アクセスポイントに「WPA」の機能がない場合は、「WEP」を選択してください。

  暗号化の種類：AES

  アクセスポイントに「AES」の機能がない場合は、「TKIP」を選択してください。

IEEE802.11n ドラフト 2.0 は WPA-PSK（AES）のみに対応しています。

暗号化方式のセキュリティレベル

暗号化方式のセキュリティレベルは次の表を参考にしてください。

レベル	暗号化方式	
高 ↑ 低	WPA	AES
		TKIP
	WEP	

7 **設定内容を下記の表に記入します。**

設定内容は本機側の設定時に使用します。

項目	設定内容
SSID （ネットワーク名）	
暗号化方式 （セキュリティの種類）	
暗号化の種類	
暗号化キー （セキュリティキー またはパスフレーズ）	

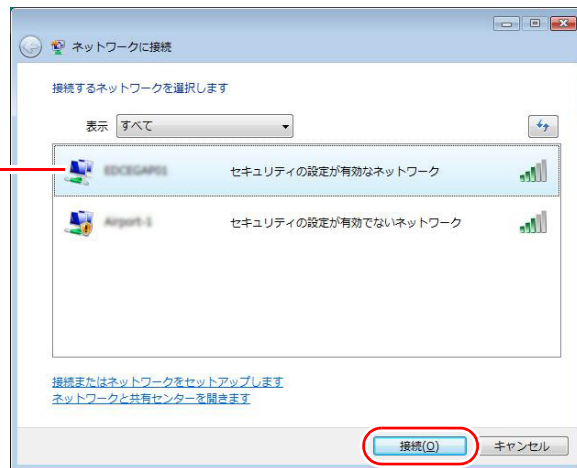
本機をアクセスポイントに接続する

アクセスポイント側に設定した暗号化キーを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。この作業ははじめて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windowsの再インストールをした場合にも行います。

1 **本機の無線LAN機能をONにします。**

p.145 「無線LAN機能のON/OFF方法」

2 **［スタート］－「接続先」をクリックします。**

3 **「ネットワークに接続」画面が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定したSSID）を選択し、［接続］をクリックします。**

<イメージ>

4 **「セキュリティキーまたはパスフレーズ」と表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、［接続］をクリックします。**

5 「…に正しく接続しました」と表示されたら、「このネットワークを保存します」と「この接続を自動的に開始します」にチェックが付いた状態で［閉じる］をクリックします。

6 本機のファイアウォールを有効に戻します。

p.162「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』

7 ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを抜いていた場合は、元に戻します。

8 本機とアクセスポイントをつないでいるLANケーブルを外します。

これで接続作業は完了です。

ネットワークプロファイル

ここで設定した無線LANは、「ネットワークプロファイル」として自動的に保存されます。ネットワークプロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線LANに接続することができます。

▶無線LANを使う

無線LAN接続の設定が完了すると、次回からは無線LAN機能をONにするだけで自動的にアクセスポイントに無線LAN接続することができます。

▶インターネット接続の設定

インターネットに接続する場合は、プロバイダから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

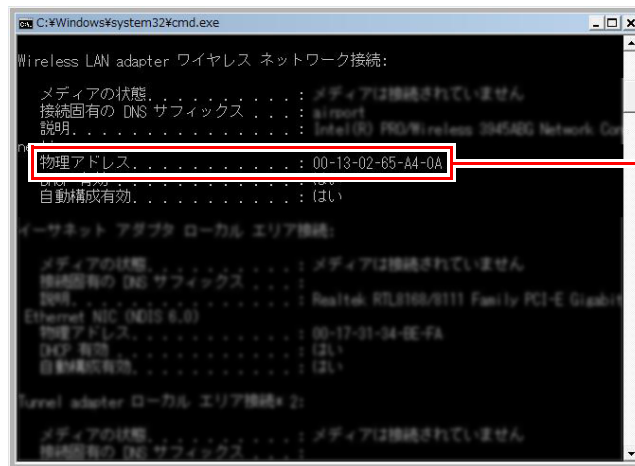
▶強固なセキュリティ設定をする

無線LANのセキュリティ機能には、ほかにも次のようなものがあります。

- MACアドレスフィルタリング
- SSID非通知

セキュリティをさらに強固にしたい場合は、必要に応じて設定を行ってください。
アクセスポイントによっては上記の機能に対応していないものもあります。詳しくはアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスとは、ネットワーク機器に割り当てられている固有の番号のことです。MACアドレスフィルタリングをすると、接続を許可したMACアドレスを持つコンピュータ以外はアクセスポイントに接続できないようになります。
MACアドレスフィルタリングの方法は、次のとおりです。

MACアドレスの確認

本機のMACアドレスを確認します。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。**

2 **コマンドプロンプトが表示されたら、「C:¥・・・>」のあとに次のとおり入力し、⏎を押します。**

ipconfig□/all（□はスペースを意味します）

3 **本機の無線LANアダプタのMACアドレス（物理アドレス）が表示されます。**

MACアドレスを下記の表に記入しておきましょう。
MACアドレスフィルタリングの設定時に使用します。

MACアドレス	

4 **☒をクリックして、コマンドプロンプトを閉じます。**

MACアドレスフィルタリングの設定

アクセスポイントでMACアドレスフィルタリングの設定をします。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、MACアドレスフィルタリングの設定をします。**

2 **p.149「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**

SSID非通知

SSID非通知の設定を行うと、コンピュータ側にSSIDが表示されなくなります。他人にアクセスポイント（SSID）が見えなくなるため、無断接続を防ぐことができます。
SSID非通知の設定方法は、次のとおりです。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、SSID非通知の設定をします。**

2 **p.149「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**
まだ接続ができない場合は、次の手順で接続してください。

SSID非通知の状態で本機をアクセスポイントに接続する

はじめて本機をアクセスポイントに接続するときにSSID非通知の設定がされていると、本機にアクセスポイント（SSID）が表示されないため、p.149「本機をアクセスポイントに接続する」の方法では接続ができません。次の方法で設定をすべて手動で入力して、ネットワークプロファイルを作成してください。

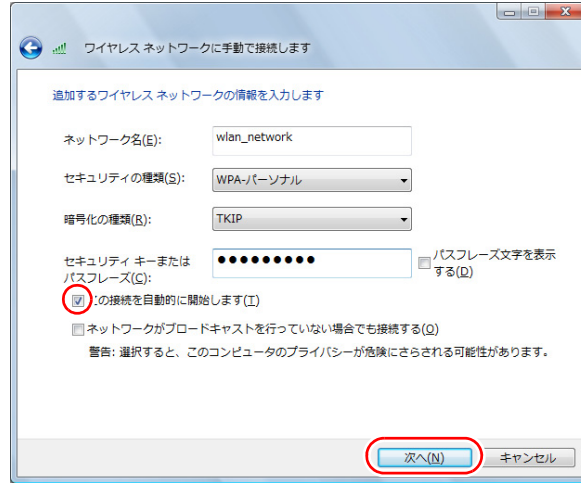
＜p.149「本機をアクセスポイントに接続する」手順3～5の読み替え＞

1 **「ネットワークに接続」画面が表示されたら、「ネットワークと共有センターを開きます」をクリックします。**

2 **「ネットワークと共有センター」が表示されたら、「ワイヤレスネットワークの管理」をクリックします。**

3 **「使用するワイヤレスネットワークを管理します」と表示されたら、「追加」をクリックします。**

4 **「どのような方法でネットワークを追加しますか？」と表示されたら、「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックします。**

5 「追加するワイヤレスネットワークの情報を入力します」と表示されたら、アクセスポイントに設定したセキュリティ情報を入力します。

(1) 「ネットワーク名」にSSIDを入力します。
(2) 「セキュリティの種類」で暗号化方式を選択します。
(3) （2）でWPAを選択した場合は、「暗号化の種類」で暗号化の種類を選択します。
(4) 「セキュリティキーまたはパスフレーズ」に暗号化キーを入力します。
(5) 「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

6 「正常に…を追加しました」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。

▶複数の無線LAN環境を登録する

複数の無線LAN環境（職場やホットスポットなど）の設定を事前に登録しておきたいときは、手動入力でネットワークプロファイルを作成します。
手動入力でネットワークプロファイルを作成する方法は、p.152 「SSID非通知の状態で本機をアクセスポイントに接続する」をご覧ください。

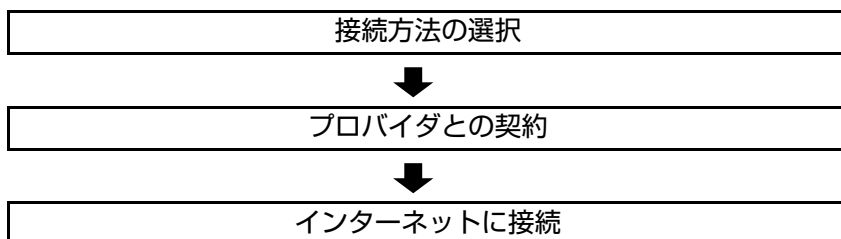
複数のネットワーク環境の設定を切り替えたい場合
会社や自宅など、複数のネットワーク環境（有線LAN・無線LAN）で本機をご使用の場合、接続するネットワークの設定を簡単に切り替えることができます。設定方法は、p.138「ネットワーク切替えツールを使う」をご覧ください。

2

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアなどについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー（FTTH）
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- ADSL
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- CATV
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- そのほかの接続方法（ナローバンド）
  アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

ダイヤルアップ接続
ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

2

インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法については、p.159「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Windowsメール

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Offic eをインストールしているときは

Officeをインストールしている場合は、電子メールソフトOutlookを使用します。Outlookの使用方法は、Outlookのヘルプをご覧ください。

Windowsメールの初期設定

Windowsメールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1　次のどちらかの方法でWindowsメールを起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windowsメール」
- Fn＋F3（✉）を押す

2　「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。

3　「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

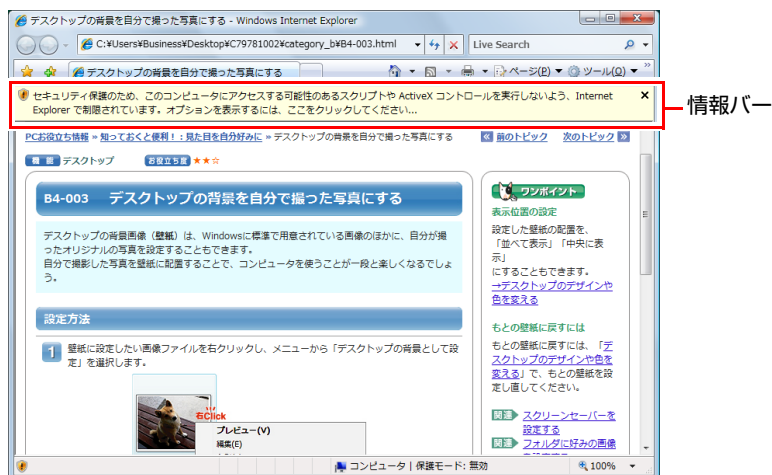
4　「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。

5　「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているユーザー名とパスワードを入力して［次へ］をクリックします。

6　「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

設定を変更する
一度行った設定は、次の場所から変更することができます。
「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「電子メールアカウント」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。

＜画面はイメージです＞

Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。購入時にはインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。

＜JWordアイコン＞

● gooスティック

「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールを行うと、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。
ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

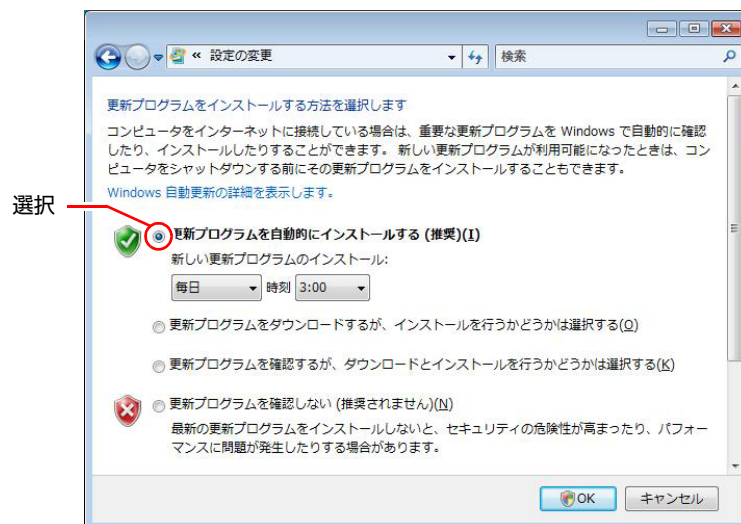
自動更新の設定

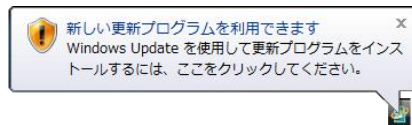
本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。
自動更新の設定がされていると、次の作業が自動で行われます。

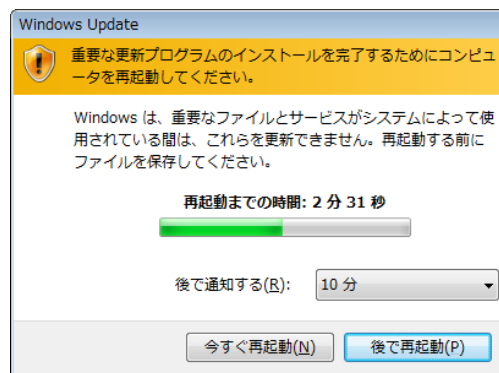
- 重要な更新プログラムのダウンロード（インターネット接続時）
- 重要な更新プログラムのインストール（設定した時刻または設定した時刻より前にシャットダウンする際）

Windowsのセットアップ時に「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」－「設定の変更」

「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されたら

重要な更新プログラムがダウンロードされると、画面右下に「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されます。すぐに重要な更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。

再起動を促す画面が表示されたら

重要な更新プログラムのインストールが行われると、再起動を促す画面が表示されることがあります。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。

セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺対策機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になります。そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

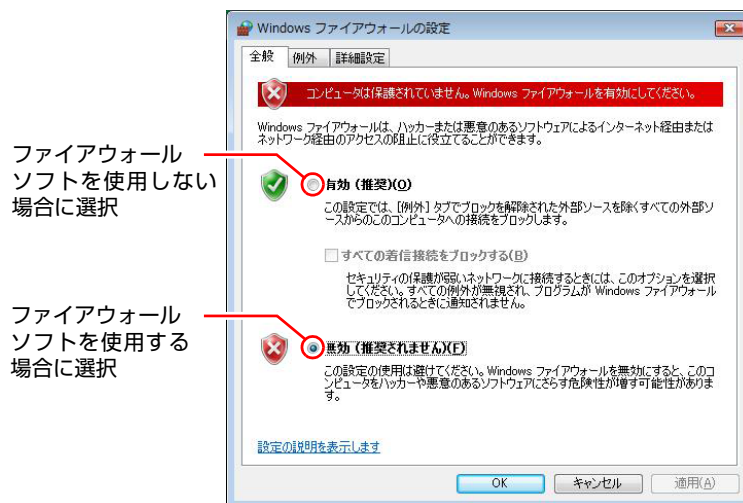
<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合>

ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合>

Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート]－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows ファイアウォール」－「設定の変更」

Windows Defender

Windows Vistaには、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。
「Norton Internet Security 90日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defenderが自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。
スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defenderを使用してください。

Windows Defenderは次の場所から起動します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows Defender」

2

▶フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報を搾取する詐欺のことです。
本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

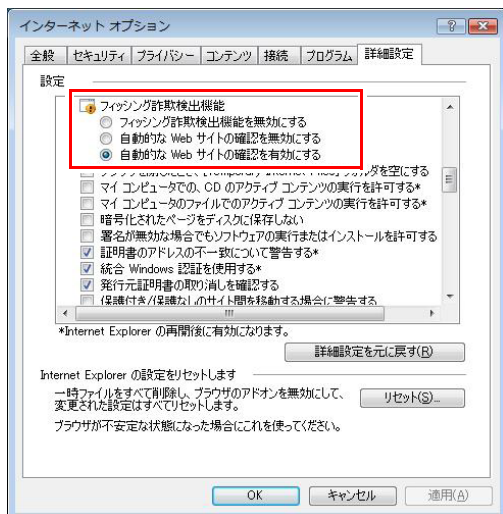
Norton Internet Security 90日版のフィッシング詐欺検出機能

本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。機能を「有効」にしてお使いください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」などのフィッシング詐欺検出機能を「有効」にしている場合は、機能が重複するため、Internet Explorerの機能が自動で「無効」に設定される場合があります。そのまま使用してください。
フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorerの機能を「有効」に設定してください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能の有効／無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorerの「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」

Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i－フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i－フィルター 30日版」が添付されています。
家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i－フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i－フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi－フィルター 30日版はインストールされていません。
インストール方法は、p.227 「i－フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i－フィルター 30日版はインストールしないでください。

i－フィルター 30日版の使用方法

i－フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとすると、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、使用者別に設定できます。必要に応じて、「設定メニュー」画面で設定を変更してください。
「設定メニュー」画面の表示方法は、次のとおりです。

1　通知領域の「i－フィルター」アイコンをクリックします。

＜i－フィルターアイコン＞

2 **「パスワード確認」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して［OK］をクリックします。**

「設定メニュー」画面が表示されます。
iーフィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は
セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「iーフィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。
この場合は、「iーフィルター 30日版」の使用を許可してください。

iーフィルター 30日版の利用期限

iーフィルター 30日版の利用期限は、セットアップ後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

＜継続して利用する場合＞
継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。
p.167 「iーフィルター 30日版のサポート」

本機に添付のｉーフィルター 30 日版は、「ｉーフィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

＜継続して利用しない場合＞

i－フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i－フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

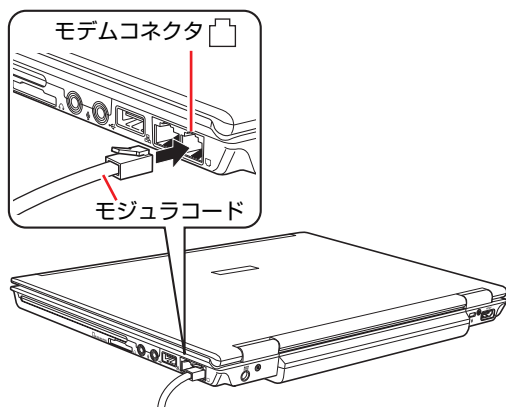
p.167 「i－フィルター 30日版のサポート」

i－フィルター 30日版のサポート

i－フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。
よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。
なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

FAXモデムを使う

ここでは、FAXモデムを使用し、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続するための設定について説明します。
本機には56Kbps（V.92/K56flex対応）の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されており、ナローバンドでの通信が可能です。
FAXモデムを使用する場合は、本機右側面のモデムコネクタと電話回線を、市販のモジュラコードで接続します。

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。
- ● 構内交換機（PBX）
- ● 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ● ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

▶お使いになる前に

使用回線の種類

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ● ダイヤル回線（パルス）
  回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- ● プッシュ回線（トーン）
  押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- **PBXやホームテレホン回線への接続**
本機のFAXモデムは、ホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線、ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックや構内交換機（PBX）に接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。
- **キャッチホンサービスについて**
NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92＊[1]およびK56flex＊[2]通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、48000bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
＊[1]V.92：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
＊[2]K56flex：Lucent Technologies社とRockwell International社が提唱する通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windowsの通信機能を使用する場合は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドについては、p.285 「ATコマンドの使用」をご覧ください。

▶ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2 **「所在地情報」画面が表示されたら、「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定して［OK］をクリックします。**

3 **「電話とモデムのオプション」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、［プロパティ］をクリックします。**

4 **「（モデムの名称）のプロパティ」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、「ダイヤルの管理」項目ー「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外し、［OK］をクリックします。**

これでダイヤル情報の設定は終了です。

インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定が必要です。

p.171「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

▶手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPPパスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ（POP3）
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ（SMTP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「接続先」をクリックします。

2 「接続またはネットワークをセットアップします」をクリックします。

3 「接続オプションを選択します」と表示されたら、「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択し、［次へ］をクリックします。

4 「インターネットサービスプロバイダ（ISP）の情報を入力します」と表示されたら、プロバイダからの資料をもとに、次の項目を入力します。

- ダイヤルアップの電話番号
- ユーザー名
- パスワード
- 接続名（アクセスポイント（プロバイダ）の名前）

5 ［接続］をクリックすると、インターネットへの接続が開始します。

6 「インターネットに接続されています」と表示されたら、接続完了です。[閉じる] をクリックして画面を閉じます。

7 「(接続先の名前) ネットワークの場所を選択します」と表示されたら、場所をクリックします。

8 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。

9 「ネットワーク設定が正しく設定されました」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

10 インターネット接続を終了する場合は、[スタート] −「接続先」−「(手順4で設定した接続名)」をクリックし、[切断] をクリックします。

DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合

プロバイダから、DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は、次の設定を行います。

1 [スタート] −「接続先」をクリックします。

2 「ネットワークに接続」画面が表示されたら、(接続名) を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「(接続名) のプロパティ」画面が表示されたら、次の設定を行います。

(1) 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」の [プロパティ] をクリックします。
(2) 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
(3) 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS (ネーム) サーバのアドレスを入力し、[OK] をクリックします。

4 「全般」タブ−「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて、[OK] をクリックします。

これでDNS（ネーム）サーバのアドレス設定は完了です。

▶接続に関する詳細設定

ダイヤルアップ接続の設定をしたら、接続に関する詳細設定を行います。

- **接続方法の設定**
  電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。
- **切断画面の設定**
  Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する詳細設定は、次の手順で行います。

1. **［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット」－「インターネットオプション」－「接続」タブをクリックします。**
2. **「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。**
   （接続方法の設定）
3. **［設定］－［詳細設定］をクリックします。**
4. **「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**（切断画面の設定）
5. **「（接続先の名前）の設定」画面で［OK］をクリックします。**
6. **「インターネットのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。**

電源設定を行う（省電力機能を使う）

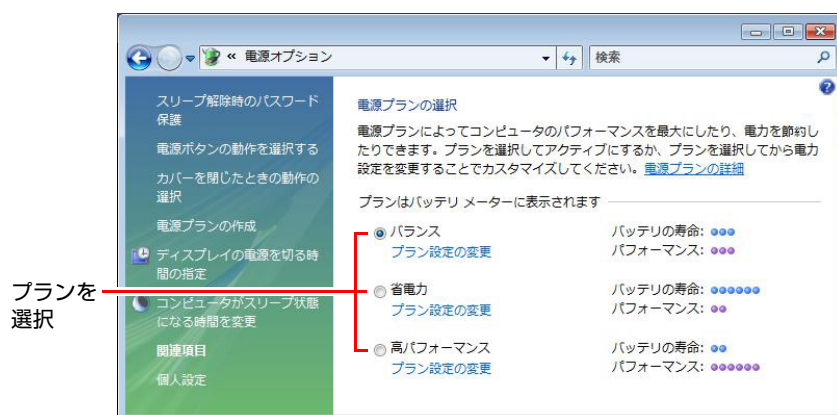
ここでは、本機の電源の設定について説明します。

▶電源プランの設定

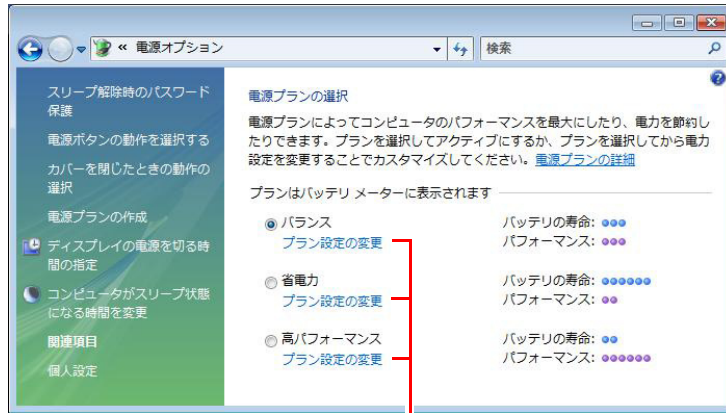
本機には、次の3つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。使い方にあわせた電源プランを選択して本機を使用してください。

- **バランス**
  パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。
- **省電力**
  コンピュータの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。
- **高パフォーマンス**
  電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」

購入時は「バランス」に設定されています。

電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定や、LCD画面の輝度の調整などを行うことができます。

p.177 「省電力状態に移行する方法」

▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。特にバッテリだけで使用している場合は、本機を省電力状態にしておくことで使用時間を延ばすことができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している

- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.177「時間経過で移行させない」
  - 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリカードなど外部接続記憶装置へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
  - FAXモデム、ネットワーク機能やBluetooth機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態でExpressカードや周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 再起動する
  - 省電力状態に移行しないように設定する
    p.177「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

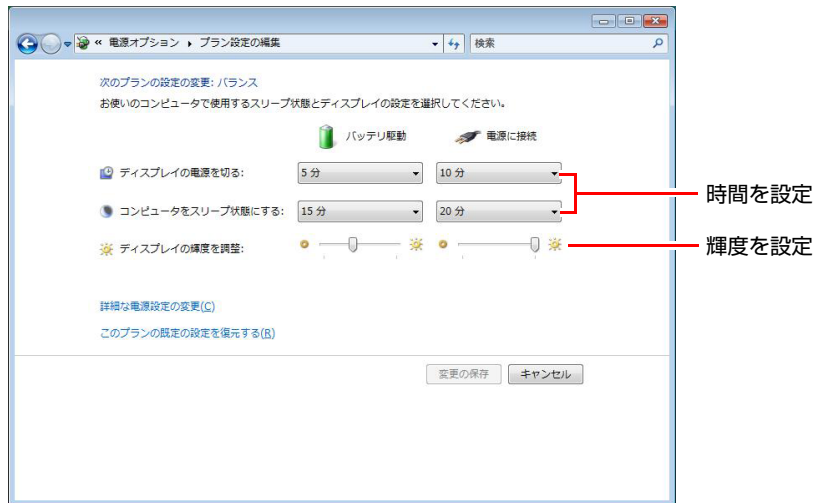
- **ディスプレイの電源を切る**
  省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- **スリープ状態**
  作業内容をメモリに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。スリープ状態で18時間経過した場合、またはバッテリ切れした場合は、自動的にメモリの内容がHDDに書き込まれ、本機は「休止状態」になります。
- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

▶省電力状態に移行する方法

本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピュータを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピュータがスリープ状態になります。
省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピュータをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所で変更することができます。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」

時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
［スタート］－［⏻］をクリックする	スリープ状態（初期値）
電源スイッチ（⏻）を押す	
Fn + F1 （☾ᶻᶻ）を押す	
LCDユニットを閉じる	
［スタート］－［▶］から項目を選択する	スリープ状態、休止状態、シャットダウン

各操作を行ったときに移行する省電力状態の種類は、次の場所で変更することができます。初期値はすべて「スリープ状態」に設定されています。

［スタート］－［コントロールパネル］－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源ボタンの動作を選択する」

バッテリ低下時に移行する

本機が「バッテリ低下」の状態になったとき、省電力状態に移行するように設定することもできます。

p.67「バッテリ低下時の設定変更」

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ（⏻）の点灯・点滅により確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯（青色）
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（青色）
スリープ状態	点滅（青色）
休止状態	消灯
電源切断時（シャットダウン時）	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（青色）	タッチパッドやキーボードを操作する
スリープ状態	点滅（青色）	・電源スイッチを押す ・キーボードを操作する
休止状態	消灯	電源スイッチを押す

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

▶SpeedStep（スピードステップ）機能

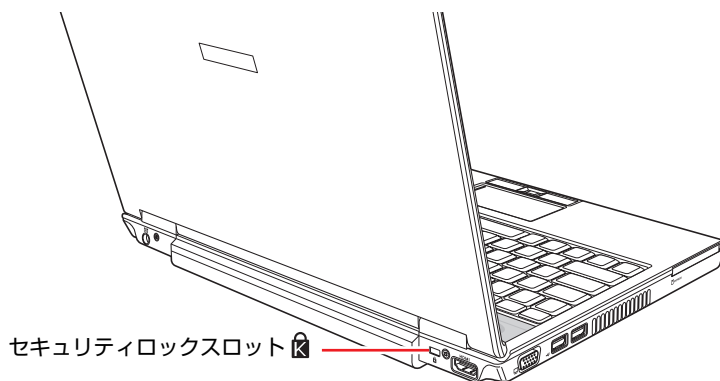
本機では、スピードステップ機能が働いています。スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせてCPUの処理速度を調整し、本機を省電力で動作させる機能です。

▶インテル・ターボ・メモリ（オプション）

本機購入時にインテル・ターボ・メモリをオプション選択された場合、本機にはあらかじめインテル・ターボ・メモリが搭載されています。
インテル・ターボ・メモリは、ReadyBoostとReadyDrive（Windowsの高速化）に対応しており、Windowsやソフトウェアの起動が高速化されます。

- インテル・ターボ・メモリを搭載している場合は、USBフラッシュメモリのReadyBoostは使用しないでください。
- インテル・ターボ・メモリを搭載している場合は、バックアップソフトを使用してのデータの保存や復元が正常にできない場合があります。

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。

当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

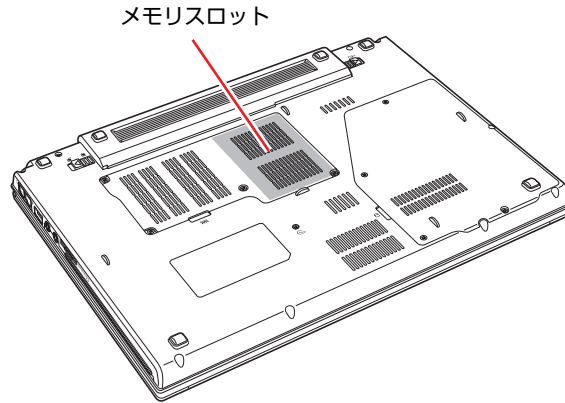
http://shop.epson.jp/

第3章
システムの拡張

アップグレードサービスや本機に接続できる装置について説明します。

「拡張できる装置」 182
「メモリの装着」 183
「外付け可能な周辺機器」 190

拡張できる装置

本機では、メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）を増設・交換して、機能を拡張することができます。

メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に2本用意されています。最大3GBのメモリを利用できます。

p.183 「メモリの装着」

本機は、メモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービス

当社ではコンピュータ本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。
本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ　：増設・交換
- 内蔵HDD　：交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、増設・交換方法について説明します。
本機底面にはメモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより拡張が可能です。

本機で合計 3GB を超えるメモリを搭載しても、システム上利用できるメモリの最大容量は約 3GB までです。

メモリの仕様

本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-5300 SODIMM（DDR2-667 SDRAM使用）
- メモリ容量　512MB、1GB、2GB
- Non ECC
- 200ピン
- CL＝5

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

メモリ装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。
メモリ装着の組み合わせとメモリの動作は、次のとおりです。

メモリ装着の組み合わせ	メモリの動作
同一容量のメモリ2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
容量の異なるメモリ2枚	部分的にデュアルチャネルで動作。 例：1GB＋2GBの組み合わせでメモリを装着すると、1GB＋1GB分だけデュアルチャネルで動作
メモリ1枚	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。

3

▶作業時の注意

メモリの増設・交換をする場合は、次の点に注意してください。

- メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造やマニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設・交換

メモリの増設・交換の手順は次のとおりです。

メモリの取り付け

メモリを取り付ける手順は次のとおりです。

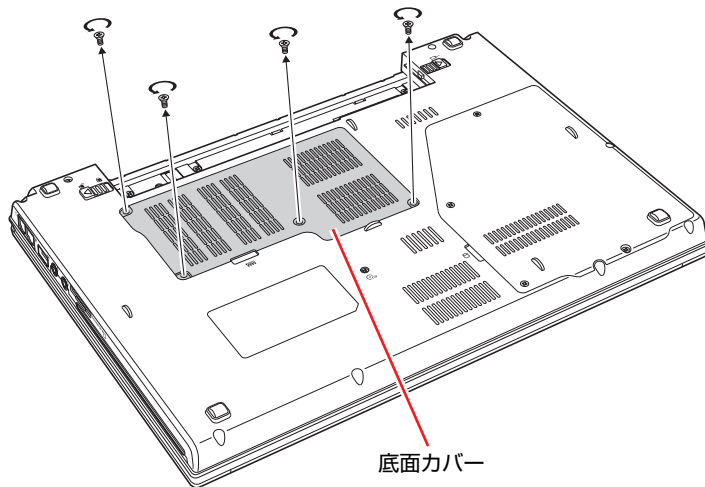
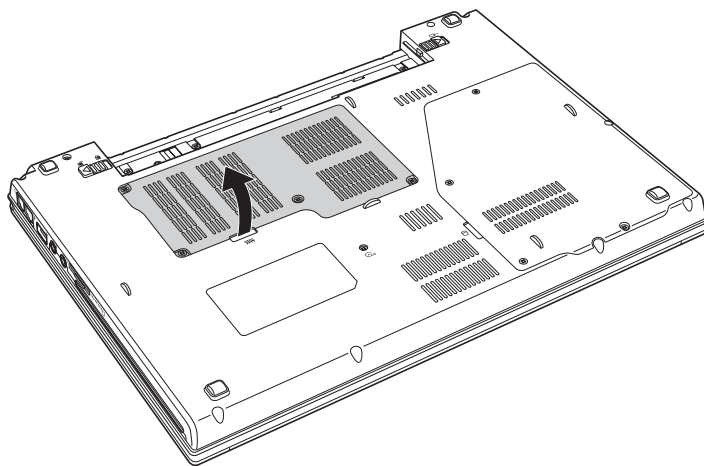
1 **コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。**

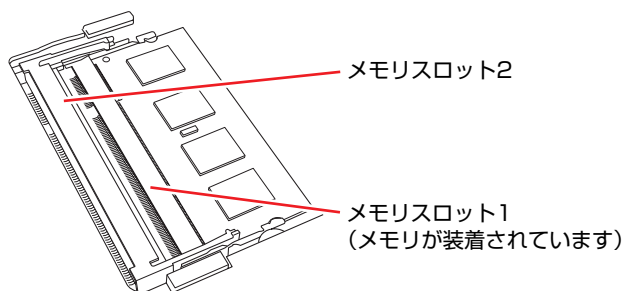
コンピュータ内部が冷えるまで、10分以上放置してください。

2 **コンピュータに接続しているケーブル類（ACアダプタなど）を、すべて外します。**

3 **本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

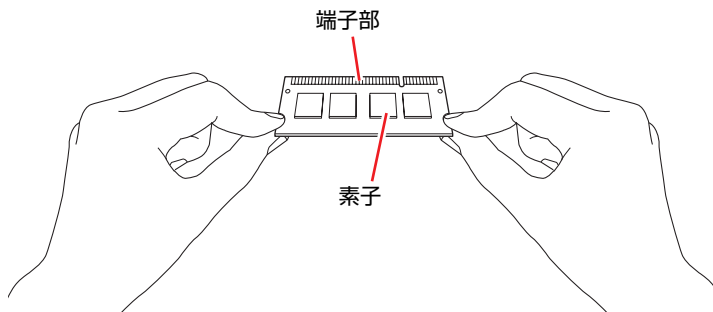
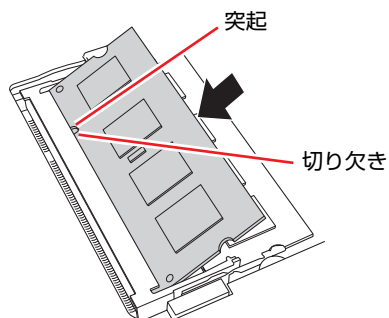
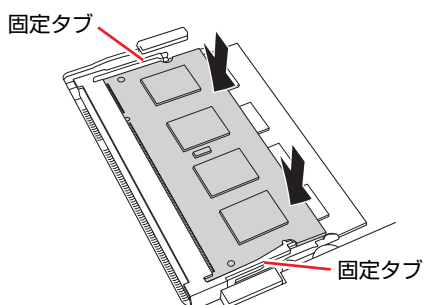
p.68 「バッテリの交換」

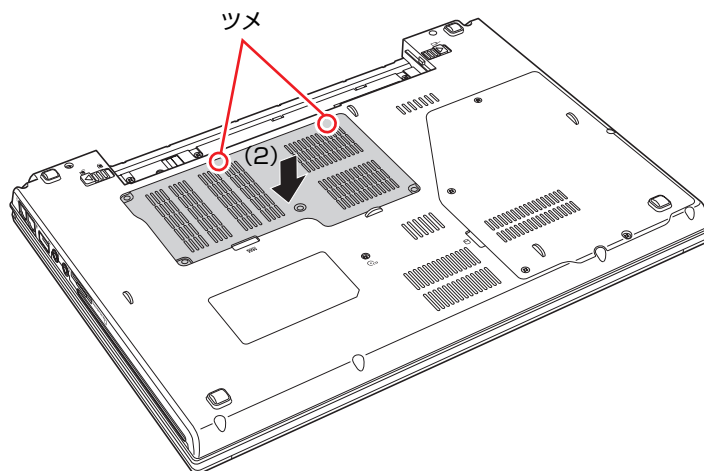
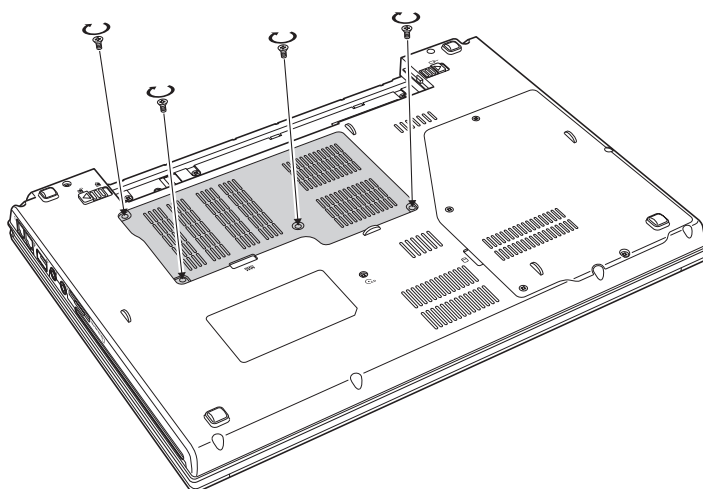
4 **底面カバーのネジ（4本）を外します。**

5 **底面カバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。**

6 **メモリスロット2の位置を確認します。**

ここではメモリスロット2にメモリを取り付ける手順を説明します。

メモリスロット1のメモリを交換する場合、メモリスロット2にメモリが装着されているときは、メモリスロット2のメモリを取り外してから作業を行ってください。

7 **メモリを取り付けます。**

(1) **メモリを静電防止袋から取り出します。**

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

(2) メモリを、メモリスロット2に差し込みます。
切り欠きを突起にあわせ、メモリを約30度の角度でメモリスロットに差し込みます。

(3) メモリを静かに倒します。
正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。

8 **底面カバーを取り付けます。**

(1) 底面カバーのバッテリ側2箇所のツメを本体に合わせます。
(2) 底面カバーを押し込みます。

9 底面カバーをネジ（4本）で固定します。

10 バッテリを取り付けます。

p.68「バッテリの交換」

11 本機の底面を下にして置きます。

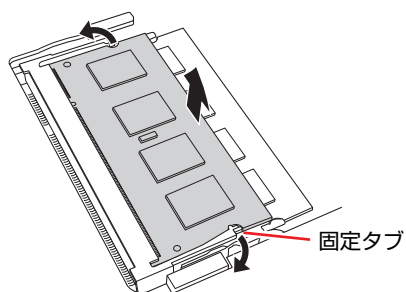
12 コンピュータを使用できるように、ケーブル類を元に戻します。

続いてp.189「メモリの増設・交換後の作業」を行います。

メモリの取り外し

メモリの取り外しは、p.185「メモリの取り付け」の手順6～7を次の手順に読み替えて行ってください。ここでは、メモリスロット2のメモリを取り外す手順を説明します。

1 メモリを両側で固定している固定タブを外側に広げます。

メモリが起き上がります。

2 起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。

取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れたら、F2を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.193 「BIOS Setupユーティリティの起動」

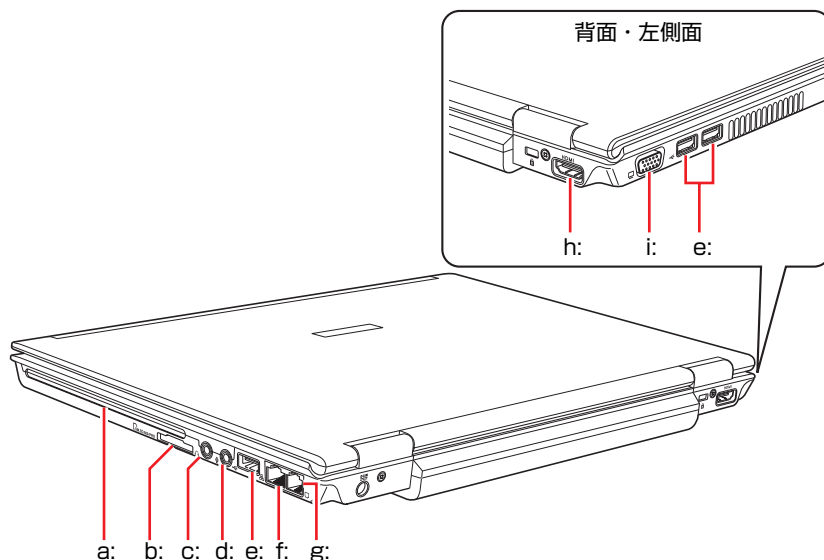
2 **「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。**

3 **F10を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。**

p.197 「BIOS Setupユーティリティの終了」

手順2で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

a: Expressカードスロット
- Expressカード

b: メモリカードスロット
- メモリースティック
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

c: ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン
- MDデッキ

d: マイク入力コネクタ
- マイク

e: USBコネクタ
- プリンタ
- スキャナ
- デジタルカメラ
- USB FDD（オプション）
- USBマウス（オプション）
- USB対応機器

f: LANコネクタ
- ネットワーク

g: モデムコネクタ
- 電話回線

h: HDMIコネクタ
- 外付けディスプレイ（HDMI接続／デジタル接続）

i: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ（アナログ接続）
- ビデオプロジェクタ

そのほかの接続可能な周辺機器

本機では、ケーブルを介さずに次の機器が接続できます。

- 無線LAN対応機器（無線LAN搭載時のみ機能）
- Bluetooth対応機器

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」 192
「BIOS Setupユーティリティの操作」 193
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」 205

BIOSの設定を始める前に

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給がまったくない場合、寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.210 「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す
  p.198 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。手順2では、すばやく F2 を押す必要があります。

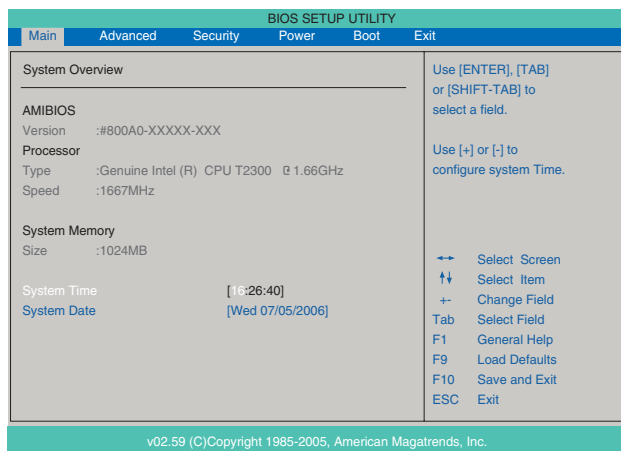
1 **本機の電源を入れます。**

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2 **本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**

＜BIOS Setupユーティリティ（イメージ）＞

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

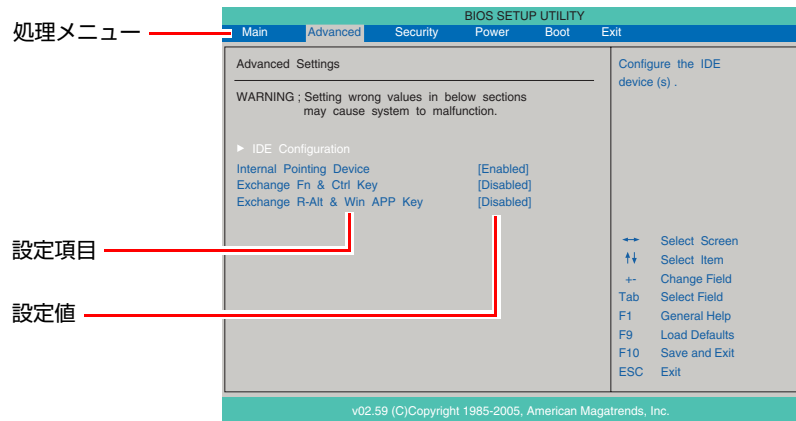
このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.197 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

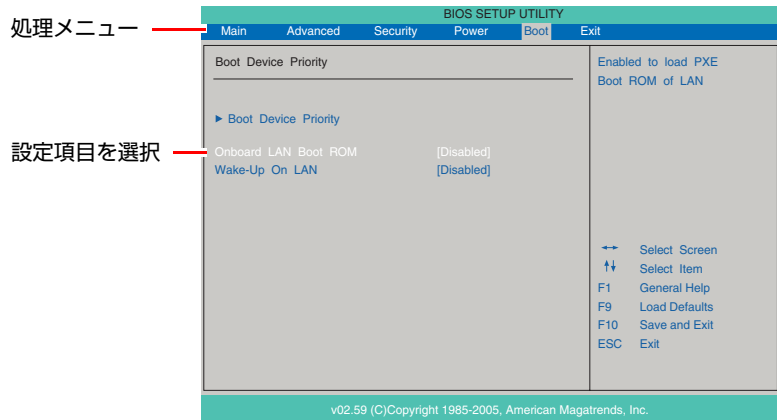
BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。

<メニュー画面>

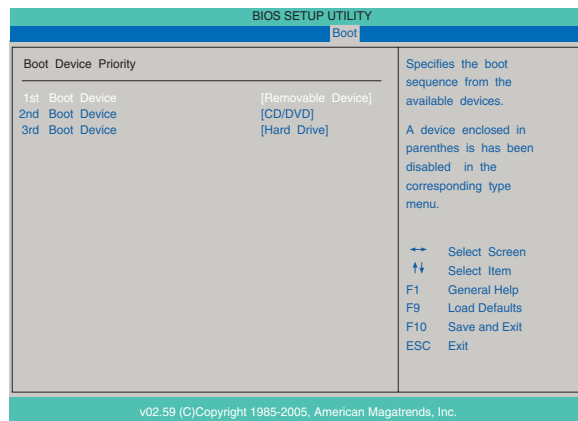
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は p.205 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法は、次のとおりです。

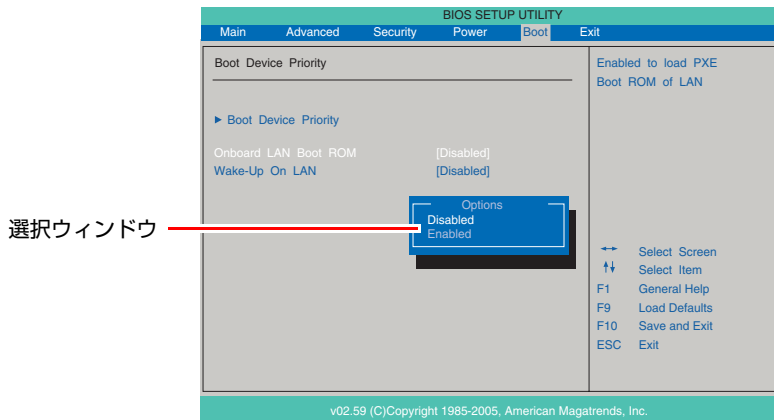
1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

【→】【←】でメニュー間を移動します。
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、【↵】を押すとサブメニュー画面が表示されます。
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜サブメニュー画面＞

サブメニュー画面から戻るには【Esc】を押します。

2 **設定値を変更します。**

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し、[↵]で決定します。

キー操作一覧

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-]([P せ]) [Fn]+[+]([+ れ])	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶の付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[F7]	変更した設定値を前回保存した設定値に変更します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に変更します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 Esc を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 **F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

Load Optimal Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Optimal Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を変更してください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Security」メニュー画面

「TPM Security」：Enabled

メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

p.197 「Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 **F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
  （HDDアクセス制限など）

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password（管理者パスワード）
  コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password（ユーザーパスワード）
  一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます（権限は、設定変更することができます）。
  p.200 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードを設定できるようになります。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter New Password

2 **パスワードを入力し、［↵］を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

4

3 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、[↵]を押します。**

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で[↵]を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

4 **「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で[↵]を押します。**

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

p.207 「Securityメニュー画面」－「User Access Level」

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

p.207 「Securityメニュー画面」－「Password Check」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。
管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

1 **「Change Supervisor Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter New Password

2 **何も入力せずに［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Password uninstalled.
［Ok］

3 **［Ok］が選択された状態で［↵］を押します。**

「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

1 **「Clear User Password」を選択して、［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択し、［↵］を押します。**

「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これで、ユーザーパスワードが削除されました。

4

HDDアクセス制限

HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。

- BIOSやWindows起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピュータに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難された場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。

HDDアクセス制限の設定方法

HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

1 管理者パスワードを設定します。

p.199 「パスワードの設定方法」

2 HDDアクセス制限の設定をします。

「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

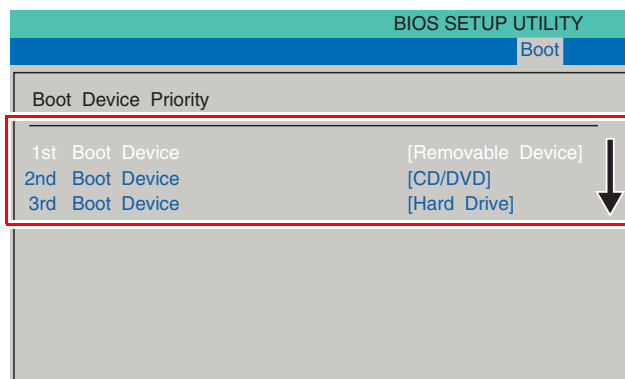
p.207 「Securityメニュー画面」

パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにFDがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。
このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（WindowsやOS）から起動します。
起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。

<イメージ>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- Removable Device（USB FDDやUSBフラッシュメモリ、USB HDDなど）
- CD/DVD（接続されている光ディスクドライブ）
- Hard Drive（接続されているHDD）
- Network（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

購入時は、Removable Deviceの順番がHDDより前に設定されているため、USB機器などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、光ディスクドライブ、HDD、リムーバブルディスクの順番に設定する方法を説明します。

1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して［↵］を押します。

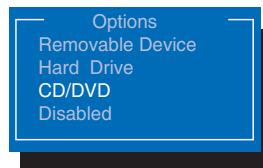
2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。

購入時は、リムーバブルディスク、光ディスクドライブ、HDDの順番に起動するように設定されています。

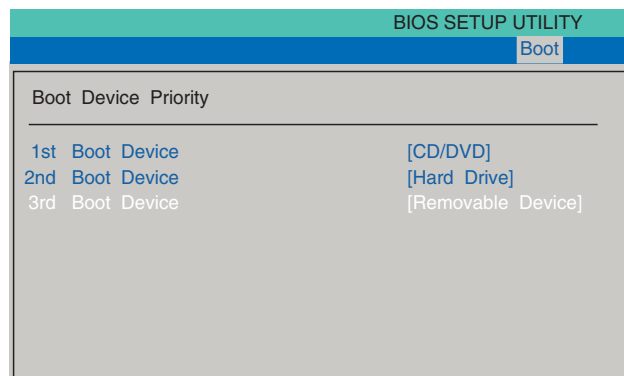
3 光ディスクドライブの順番を1番目に設定します。

(1) ［↑］［↓］で「1st Boot Device」(1番目)を選択し、［↵］を押します。

(2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、［↑］［↓］で「CD/DVD」を選択し、［↵］を押します。

光ディスクドライブの順番が1番目になります。

<選択ウィンドウ画面>

4 同様の方法で、HDDの順番を2番目に設定します。

「2nd Boot Device」（2番目）を「Hard Drive」に設定します。自動的に「3rd Boot Device」（3番目）が「Removable Device」に設定されます。

起動デバイスの順番が変更になり、リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できます。

5 ［F10］を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.197 「BIOS Setupユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

● Mainメニュー画面
　日付、時間などの設定を行います。

● Advancedメニュー画面
　IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。

● Securityメニュー画面
　パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。

● Bootメニュー画面
　システムの起動（Boot）に関する設定を行います。

● Exitメニュー画面
　BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

AMI BIOS	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Third IDE Master	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange L-Fn & L-Ctrl key		キーボードの左下側にある[Fn]と、その隣にある[Ctrl]の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：[Fn]と[Ctrl]の機能を入れ替えません。 Enabled：[Fn]と[Ctrl]の機能を入れ替えます。
Exchange R-Fn & R-Shift key		キーボードの右下側にある[Fn]と[Shift]の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：[Fn]と[Shift]の機能を入れ替えません。 Enabled：[Fn]と[Shift]の機能を入れ替えます。
Exchange R-Alt & Win App key		キーボードの右下側にある[Alt]と、その隣にある[≣]（アプリケーションキー）の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：[Alt]と[≣]の機能を入れ替えません。 Enabled：[Alt]と[≣]の機能を入れ替えます。
Fan Control		CPUファンの動作を設定します。 Cool：CPUファンの回転速度を上げて、本体の冷却効果を高めます。ただし、CPUの負荷状況によっては効果が少ない場合があります。 Silent：CPUファンは通常の回転速度で動作します。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.199 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

項目	説明
*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed：パスワードが設定されていません。 Installed：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。BIOS SetupユーティリティやWindows起動時にパスワード入力を要求します。 ↵を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーがBIOS Setupユーティリティにアクセスすることを4段階で制限します。 No Access：BIOS Setupユーティリティを起動することができません。 View Only：BIOS Setupユーティリティを閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited：BIOS Setupユーティリティを閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 ↵を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。 ↵を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup：BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always：BIOS SetupユーティリティやWindows起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。

4

項目		説明
Boot Sector Virus Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。 Disabled : 書き込みを許可します。 Enabled ：書き込みを禁止します。
TPM Security		セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。 Disabled : セキュリティチップを使用しません。 Enabled ：セキュリティチップを使用します。
TPM Security Clear		「TPM Security」を「Enabled」に設定し、一度BIOSを終了して再度BIOSを起動すると表示されます。セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化（消去）します。 * 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 ↵ を押すと初期化確認ウィンドウが表示されます。
I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。 「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	AUDIO/MODEM	FAXモデム機能およびサウンド機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：FAXモデム機能/サウンド機能の使用を可能にします。 LOCKED ：FAXモデム機能/サウンド機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED ：LAN 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN	無線LAN機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：無線LAN機能の使用を可能にします。 LOCKED ：無線LAN機能の使用を不可にします。
	Optical Disk Drive	光ディスクドライブ機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED ：光ディスクドライブ機能の使用を可能にします。 LOCKED ：光ディスクドライブ機能の使用を不可にします。
	USB Interface	USB 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。USB機能の使用を不可にすると、メモリカード、指紋認証機能やUSBタイプのExpressカードも使用できなくなります。 UNLOCKED ：USB機能の使用を可能にします。 LOCKED ：USB機能の使用を不可にします。
Hard Disk Protection		HDDへのアクセス制限の設定をします。「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。 アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。HDDにアクセスするには、BIOS Setupユーティリティ起動時、システム起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。 Disabled ：HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled ：HDDへのアクセスを制限します。

▶Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
起動の順番の変更方法については、p.203「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

項目		説明
Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Device」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「CD/DVD」です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Hard Drive」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定してから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。再度BIOSを起動すると表示されます。初期設定は「Network」です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled　: 有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		電源切断時やスリープ状態、休止時において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled　: 設定します。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。
設定項目は、次のとおりです。

項目	説明
Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

BIOS Setupユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange L-Fn & L-Ctrl key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Fn & R-Shift key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win App key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Fan Control	Cool	Silent	Cool	Silent

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
*User Access Level		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
*Password Check		Setup	Always	Setup	Always
*Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
TPM Security		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
*I/O Interface Security	AUDIO/MODEM	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Optical Disk Drive	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB Interface	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
*Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

*「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると表示されます。

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

第5章 ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」.. 212
「ソフトウェアの再インストールを行う」.. 214

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールしなくても、問題が解決する場合があります。
p.265 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。
『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i−フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。
この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。
詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

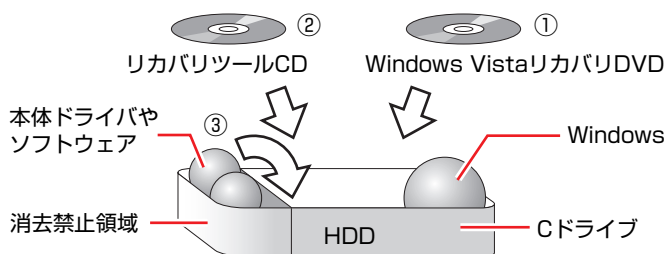
▶必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- **Windows VistaリカバリDVD**
  Windows Vistaが収録されているDVD-ROMです。
- **リカバリツールCD**
  本体ドライバやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されているCD-ROMです。
- **そのほか必要なメディア**
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に収録されています。
専用のメディアは添付されていません。
p.26「添付されているソフトウェア」

▶再インストールの概要

ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。

① **Windows VistaリカバリDVDから、Windowsをインストールします。**

② **リカバリツールCDから、リカバリツールをインストールします。**
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

③ **リカバリツールを使用して、本体ドライバやソフトウェアをインストールします。**

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。
★印が付いたソフトウェアは必ずインストールを行ってください。
購入時のインストール状態は、p.26「添付されているソフトウェア」で確認してください。

Windows ★
 p.218「Windowsのインストール」

↓

リカバリツール ★
 p.222「リカバリツールのインストール」

↓

本体ドライバ ★
 p.223「本体ドライバのインストール」

↓

Bluetoothドライバ
 p.225「Bluetoothドライバのインストール」

↓

Adobe Reader ★
 p.226「Adobe Readerのインストール」

↓

セキュリティソフトウェア ★
 p.227「セキュリティソフトウェアのインストール」

↓

Webフィルタリングソフトウェア
 p.227「Webフィルタリングソフトウェアのインストール」

↓

マニュアルびゅーわ ★
 p.228「マニュアルびゅーわのインストール」

↓

Nero 7 Essentials ★
 p.229「Nero 7 Essentialsのインストール」

↓

WinDVD ★
 p.229「WinDVDのインストール」

↓

JWord Plugin

 p.230「JWord Pluginのインストール」

↓

gooスティック

 p.230「gooスティックのインストール」

↓

マカフィー Site Advisor Plus 30日版

 p.231「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール」

↓

そのほかのインストール

 p.232「そのほかのインストール」

↓

再インストール後の作業

p.233「再インストール後の作業」

▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

管理者（Administrator）のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者（Administrator）のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：USB FDD（オプション）
Cドライブ　：HDD
Dドライブ　：光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

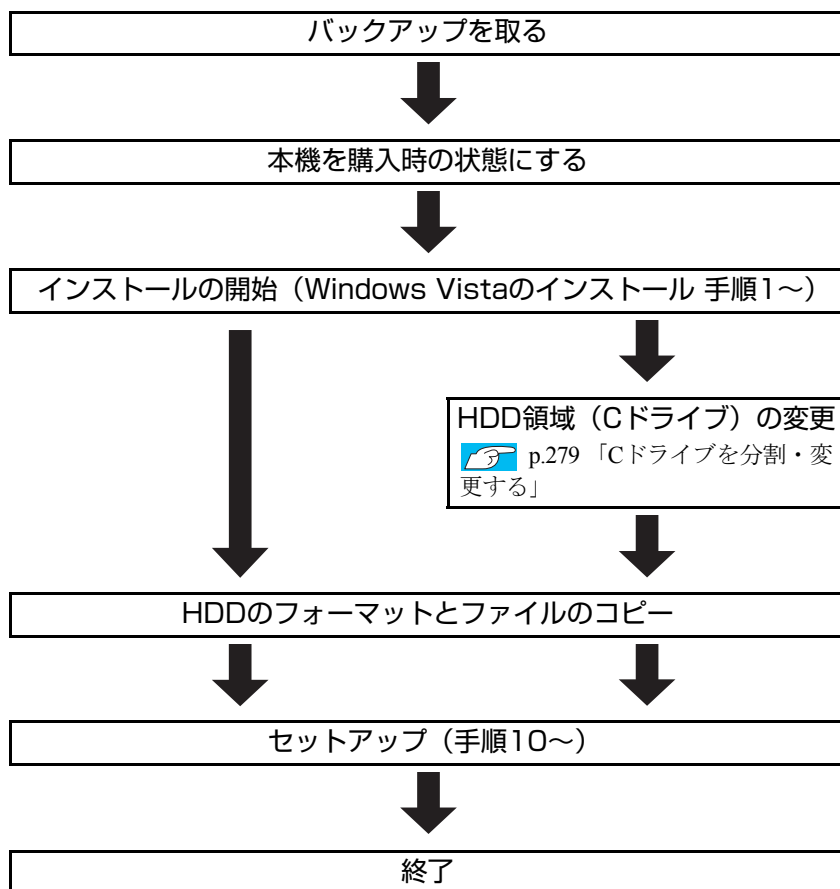
p.219 「バックアップを取る」

初期設定ツール

初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。
初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

▶Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.219「Windows Vistaをインストールする」以降の手順に従って行ってください。

HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割の詳しい説明は、p.276「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

Windows Vistaをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- **ネットワークやモデムの設定**
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」、Windowsメールの「連絡先」「メールデータ」**
  p.271「データのバックアップ」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **セキュリティチップユーティリティの設定**
  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。
  『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」
- **重要なデータ**
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータのバックアップすることをおすすめします。
  p.271「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vistaのインストール

Windows Vistaのインストール手順は、次のとおりです。

1　コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示されたら、[×]をクリックし、画面を閉じてください。
ここからはインストールを行いません。

2　「スタート」－［▶］－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。

5

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ]をクリックします。**

ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で[次へ]をクリックします。**

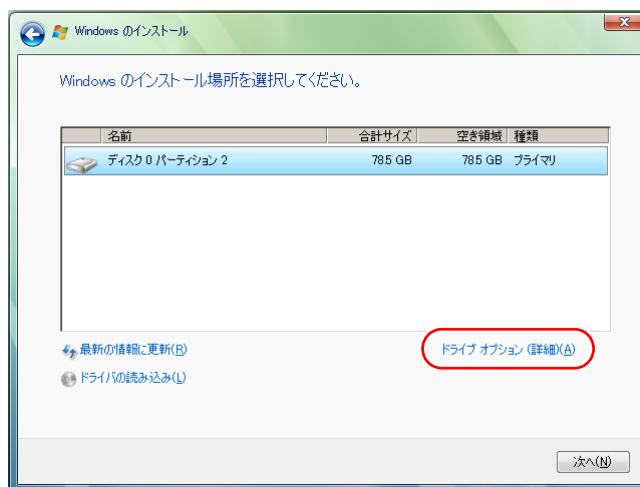
6 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。**

7 **「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、[再インストール]をクリックします。**

8 **「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。**

9 **「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

(1)「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。

(2) 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。

(3) 「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、［OK］をクリックします。

フォーマットが開始されます。

(4) フォーマットが終了すると、［次へ］がクリックできる状態になります。「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で［次へ］をクリックします。

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分〜40分かかります。手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

<領域変更を行う場合>

p.279 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

10 **「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、［次へ］をクリックします。**

p.44 「ユーザー名と画像の選択」

11 **「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、［次へ］をクリックします。**

p.44 「コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください」

12 **「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。**

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

13 **「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、［次へ］をクリックします。**

14 **ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

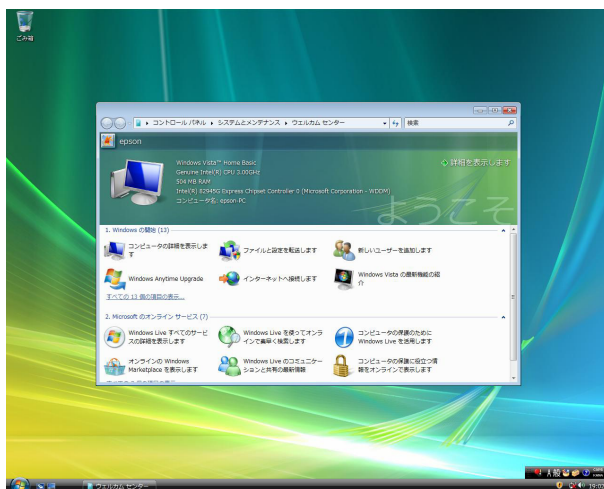
15 **「ありがとうございます」と表示されたら、［開始］をクリックします。**

設定が行われます。設定には約5分かかります。

16 **手順10でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、［↵］を押します。**

5

17 **Windows Vista のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、［スタート］－「コンピュータ」－「EPSON_DVD」を右クリック－「取り出し」をクリックして「Windows Vista リカバリDVD」を取り出します。**

本体ドライバをインストールするまでは、光ディスクドライブイジェクトキーが使用できません。
デスクトップの背景は、手順11で選択した背景が表示されます。

これでWindows Vistaのインストールは完了です。

18 **手順９で領域変更を行った場合は、「未割り当ての領域」に領域（パーティション）を作成します。**

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行っても構いません。

p.280 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exeの実行」をダブルクリックします。**

「自動再生」画面が表示されない場合は、［スタート］－「コンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

4　以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリツール」アイコンが表示されます。

5　［スタート］－「コンピュータ」－「EPSON_CD」を右クリック－「取り出し」をクリックして、「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出します。

本体ドライバをインストールするまでは、光ディスクドライブイジェクトキーが使用できません。

▶本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。
本体ドライバのインストールでインストールするドライバ類は次のとおりです。

- チップセットドライバ
- ビデオドライバ
- インスタントキーユーティリティ
- ネットワークドライバ
- タッチパッドドライバ
- インフォメーションメニュー
- 指紋認証ドライバ
- Java 2 Runtime Environment
- Intel Matrix Storage Manager
- インスタントキードライバ
- サウンドドライバ
- ネットワーク切替えツール
- メモリカードドライバ
- FAXモデムドライバ
- 無線LANドライバ（無線LAN搭載時のみ）
- インテル・ターボ・メモリドライバ
（インテル・ターボ・メモリ搭載時のみ）

インストール

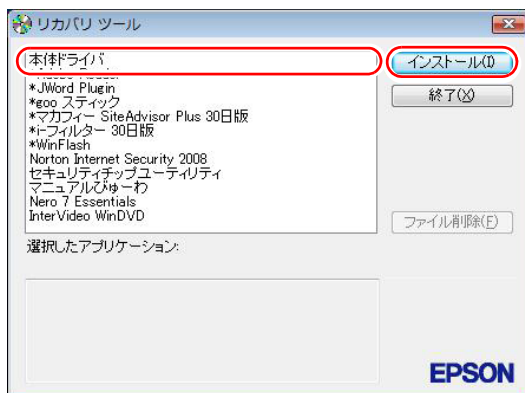
インストールの手順は次のとおりです。

1　デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2　「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。

3　「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

4　本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。

手順5の画面が表示されるまでには、数分かかります。

<イメージ>

5　「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。

6　「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには約10分かかります。

7　「インストールが完了しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。

8　「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して［PC再起動］をクリックします。

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。

9　「これらの変更を・・・コンピュータを再起動する必要があります。」と表示された場合は、［今すぐ再起動する］をクリックします。

Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

リカバリツールの［ファイル削除］の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で［ファイル削除］が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。［ファイル削除］をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

Bluetoothドライバのインストール

「Bluetoothドライバ」はBluetooth機能を使用するためのドライバです。
Bluetoothドライバのインストール手順は、次のとおりです。

Bluetoothドライバのインストールは、Bluetooth機能を有効にした状態で行ってください。
p.108 「Bluetooth 機能の ON/OFF 切り替え」

1 **Bluetooth機能がONになっているか確認します。**
無線LAN/Bluetooth状態ランプが消灯している場合は、Bluetoothキー（ ）を押してBluetooth機能をONにしてください。

p.108 「Bluetooth機能のON/OFF切り替え」
Bluetooth機能をONにしたときに、「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示された場合は、［キャンセル］をクリックします。

2 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

4 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

5 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Bluetoothドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**

6 **「Bluetooth・・・ウィザードへようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

7 **「使用許諾契約」と表示されたら、内容をよくお読みになり「使用許諾契約の条項に同意します。」にチェックを付け、［次へ］をクリックします。**

8 **「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**

9 **「Install Shieldウィザードを完了しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

10 **「Bluetooth Stack for Windows・・・」画面が表示されたら、内容を確認して、［はい］をクリックします。**
Windowsが再起動したら、Bluetoothドライバのインストールは完了です。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して[インストール]をクリックします。

5 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

6 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール]をクリックします。

インストールにはしばらく時間がかかります。

7 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。

続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。

2 「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。

3 「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。

同意する場合は、[同意する]をクリックします。[同意しない]を選択すると、Adobe Readerは使用できません。

4 「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。

内容を確認してください。

これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「iーフィルター 30日版」をインストールします。iーフィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。
市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

iーフィルター 30日版のインストール

iーフィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**
3. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
4. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「i ーフィルター 30日版」を選択して［インストール］をクリックします。**
5. **「iーフィルター・・・セットアップへようこそ」と表示されたら、[次へ］をクリックします。**
6. **「使用許諾契約」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり同意するかしないかを選択します。**
   同意する場合は［はい］をクリックします。［いいえ］を選択すると、iーフィルター 30日版は使用できません。
7. **「インストール先の選択」画面が表示されたら、[次へ］をクリックします。**
8. **「インストールを完了するためにはコンピュータの再起動が必要です。・・・」と表示されたら、［OK］をクリックします。**
   Windowsが再起動したら、iーフィルター 30日版のインストールは完了です。
   続いて、iーフィルター 30日版のセットアップを行います。

5

i－フィルター 30日版のセットアップ

1. Windowsが再起動して「i－フィルター･･･」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、［「i－フィルター」を使ってみる］をクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。
3. 「管理パスワードの設定」画面が表示されたら、「管理パスワード」と「管理パスワード（確認）」にパスワードを入力して［設定］をクリックします。
   このパスワードは、フィルター設定を変更する場合などに必要になります。
4. 「有害サイト遮断ソフト･･･へようこそ！」と表示されたら、画面の注意事項をよくお読みください。
   これで、i－フィルター 30日版のセットアップは完了です。

▶マニュアルびゅーわのインストール

「マニュアルびゅーわ」は、本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。
マニュアルびゅーわのインストール手順は次のとおりです。

1. デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。
3. 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。
4. 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して［インストール］をクリックします。
5. 「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。
6. 「インストール準備の完了」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。
7. 「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら、［完了］をクリックします。
   これでマニュアルびゅーわのインストールは完了です。

Nero 7 Essentialsのインストール

「Nero 7 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。
Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。
Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。

6 「Nero 7 Essentialsインストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

WinDVDのインストール

「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。
WinDVDのインストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して[インストール]をクリックします。**

5 **「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して[インストール]をクリックします。**

5 **「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

これで、gooスティックのインストールは完了です。

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」は、Webサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」を選択して［インストール］をクリックします。**

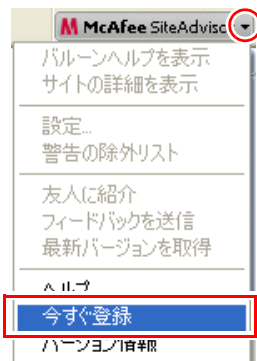
5 **「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

インストールが完了したら、続いてユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

1 **Internet Explorerを起動します。**

2 **Internet Explorerのツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。**

3 **表示された画面に従ってユーザー登録を行います。**

ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

指紋認証ユーティリティのインストール

「指紋認証ユーティリティ」をインストールすると、指紋認証機能を使用することができます。必要に応じてインストールを行ってください。
指紋認証ユーティリティのインストール手順は、次のとおりです。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**
3. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
4. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「指紋認証ユーティリティ」を選択して [インストール] をクリックします。**
5. **「VitaKey」画面が表示されたら [Install] をクリックします。**
6. **「ようこそ」と表示されたら、[Next] をクリックします。**
7. **「認証契約」画面が表示されたら、同意するかしないかを選択します。**
   同意する場合は「受け入れる」にチェックを付けて[Next]をクリックします。
8. **「対象フォルダパスの選択」と表示されたら [Next] をクリックします。**
9. **「インストールが成功しました。」と表示されたら「今すぐ再起動します。」にチェックが付いた状態で [Finish] をクリックします。**
   Windowsが再起動したら、指紋認証ユーティリティのインストールは完了です。

続いて、指紋を登録します。p.132 「指紋の登録」をご覧ください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

「セキュリティチップユーティリティ」は、セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.281「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

ネットワーク（有線LAN）や無線LANを使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.136「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.141「無線LANを使う（オプション）」

モデムの設定

モデムを使用してダイヤルアップ接続をする場合は、設定を行います。

p.170「ダイヤル情報の設定」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

p.271 「データのバックアップ」

- Internet Explorer、Windowsメールの設定の復元
- 重要なデータ

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windowsが最新の状態になります。

p.159 「Windows Update」

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

「トラブルが発生したら」 236
「困ったときに」 237
「システム診断ツールを使う」 262
「トラブル時に役立つ機能」 263
「警告メッセージ/警告音」 268

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

● 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

p.237 「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合が解消しない場合は
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

コンピュータ本体（起動時）.......... p.238
- 起動 p.238
- そのほか p.243

コンピュータ本体 p.244
- 省電力機能 p.244
- バッテリパック p.245
- セキュリティチップ（TPM） p.245
- そのほか p.246

メモリ p.247
- メモリ p.247

記憶装置 p.247
- HDD p.247
- 光ディスクドライブ p.248
- Expressカード p.251
- メモリカード p.251

入力装置 p.252
- キーボード p.252
- タッチパッド p.253

表示装置 p.254
- LCDユニット p.254

サウンド p.255
- 内蔵スピーカ p.255

ソフトウェア p.256
- ソフトウェア p.256
- インストール p.258

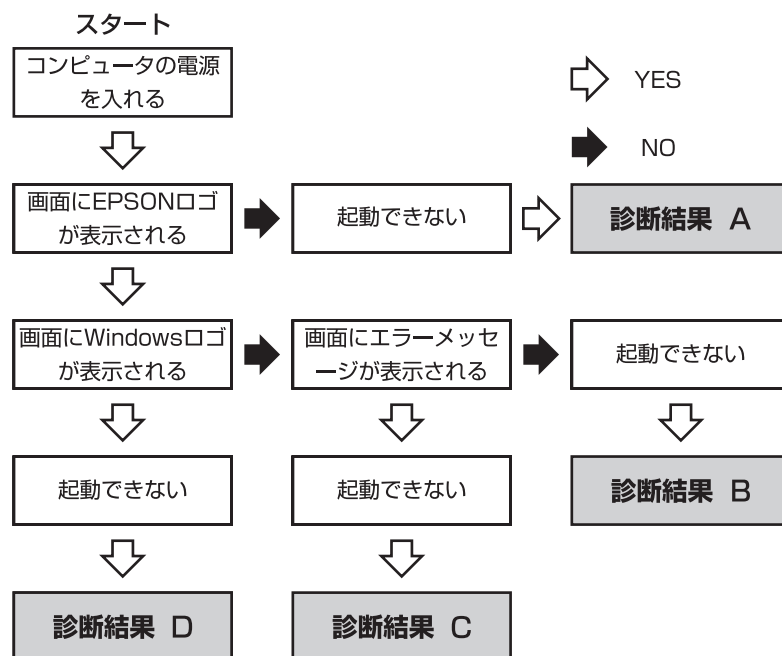
FAXモデム p.259
- FAXモデム p.259

ネットワーク、インターネット p.261

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータが起動できないときの対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。

診断結果　A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 外付けディスプレイの電源を入れる

外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。本機の電源を切ってから、コンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続して使用してください。

p.39「ACアダプタを接続する」

(3) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(4) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果　B

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.263 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.263 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認してください。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して「前回正常起動時の構成」 を選択し、↵ を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.198 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.211 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　C

まず、p.268 「警告メッセージ/警告音」をご覧になり、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧になり、対処を行ってください。

●「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

●「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」、「Reboot and Select proper Boot device･･･」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.203 「起動(Boot)デバイスの順番を変更する」

(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

p.193 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Advanced」メニュー画面－「IDE Configuration」－「Primary IDE Master」の表示を確認します。

HDDの型番が表示される場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記（4）（5）の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.198 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.211 「ソフトウェアの再インストール」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.203 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

6

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.198 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.211 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.263 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] －「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、[↵]を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
   常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因でなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.263 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、↵ を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.211 「ソフトウェアの再インストール」

起動時の不具合（そのほか）

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter Password:
```

```
Hard Drive locked, enter password:
```

確認と対処

● 「BIOS Setupユーティリティ」の「Security」メニュー画面でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。

p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.207 「Securityメニュー画面」

● パスワードを正しく入力しているか確認してください。NumLk の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

p.77 「キーボードを使う」

● パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

6

現象

Windowsが起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。

確認と対処

- Windowsに不具合が起きると、HDD内に設定されている「Windows回復環境(Windows RE)」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面はWindows REの画面です。Windows REの機能を使用して、不具合を修復してください。Windows REの概要は、p.265「Windows回復環境(Windows RE)を使う」をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合

コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

- バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態に移行した場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。

- 省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Deleteを押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 省電力状態でExpressカードやメモリカード、USB機器などを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Deleteを押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。

- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用可能時間が短い。

確認と対処

- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.68 「バッテリの交換」
  p.71 「使用済みバッテリの取り扱い」

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対処

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
  「Security」メニュー画面－「TPM Security Clear」で[↵]を押します。表示されたセキュリティチップ設定の初期化ウィンドウで[Ok]を選択し、「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。
  p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」

  初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化していたHDD内のデータも使用できなくなります（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です）。
  セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

● 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。
ソフトウェアを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押して電源を切ってください。
p.60 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

● 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

BitLockerでドライブを暗号化した状態でBIOSのアップデートやBootの順番の変更を行ったとき、BitLockerのパスワード入力やパスワードを保存してあるUSBフラッシュの挿入を求められた。
（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です。）

確認と対処

● パスワードを入力するか、パスワードを保存してあるUSBフラッシュを挿入してください。BIOSのアップデートやBootの順番の変更を行うときは、BitLockerのドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。

現象

終了処理をしても電源が切れない。

確認と対処

● Windows Vistaでは、［スタート］－［⏻］を押すと、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、［スタート］－［▶］－「シャットダウン」で電源を切ってください。

● 正しい処理を行っても電源が切れない場合は、電源スイッチを5秒以上押し続けてください。

メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

現象

表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

● メモリを増設・交換した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。
p.183「メモリの装着」

記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、少なく表示される。

確認と対処

● 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0〜9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

● BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
p.193「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.209「Bootメニュー画面」

6

現象

Windowsの再インストールをしたら、HDDの空き容量が大幅に減ってしまった。

確認と対処

- p.219 「Windows Vistaのインストール」手順9で、Cドライブのフォーマットを行わずにWindowsのインストールをしてしまうと、以前のWindowsのデータがWindows.oldフォルダに保存されるため、HDDの空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.oldフォルダが不要な場合は、削除してください。
  Windows.oldフォルダは［スタート］－「コンピュータ」－「Cドライブ」にあります。
  通常は、手順どおりにCドライブをフォーマットしてからWindowsのインストールをしてください。

光ディスクドライブの不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。
  p.126 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。

- メディアを挿入した直後は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はしばらく待って、もう一度アクセスしてください。

- メディアの表面にキズなどがないか確認してください。

- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。

- セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

● コンピュータの電源が入っているか、確認してください。

●［スタート］－「コンピュータ」－「DVD RWドライブ」アイコンを右クリック－「取り出し」をクリックして、メディアを取り出せるか確認してください。

● ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアへの書き込みができない。

確認と対処

● 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。

p.229 「Nero 7 Essentialsのインストール」

● メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。

「マニュアルびゅーわ」－『Neroユーザーズガイド』

● お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。対応メディアは光ディスクドライブのマニュアル（PDF）をご覧ください。

「マニュアルびゅーわ」

● データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。

p.91 「Nero 7 Essentialsの使い方」

● InCDで使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。

p.91 「Nero 7 Essentialsの使い方」

● InCDでフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。

p.91 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- Windowsが省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.177 「時間経過で移行させない」

- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。

- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。

- メディアの残量があるか、確認してください。

- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。

- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVD VIDEOの再生ができない。

確認と対処

- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。購入時にはWinDVDがインストールされています。
  DVD VIDEOの再生に関する不具合は、WinDVDのヘルプを参照してください。

- 解像度や色数を変更してみてください。
  p.116 「解像度や表示色の変更方法」

- 外付けディスプレイを接続して、「クローンモード」で表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、「シングルモード」に切り替えてください。
  p.121 「画面表示を切り替えるには」

Expressカードの不具合

現象

Expressカードを装着しても、使用できない。

確認と対処

● Expressカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。

p.100 「Expressカードを使う」

● Expressカードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、Expressカードに添付のマニュアルをご覧ください。

● 外部機器を追加するためにExpressカードを装着した場合、外部機器とExpressカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
詳しくは、Expressカードに添付のマニュアルをご覧ください。

● ExpressカードがExpressカードスロットの仕様に対応しているか確認してください。

p.100 「Expressカードを使う」

メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

● 本機で使用可能なメモリカードかどうか、メモリカードがスロットの仕様に対応しているか確認してください。

p.95 「本機で使用できるメモリカード」

● メモリカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。

p.96 「メモリカードのセットと取り外し」

入力装置の不具合

入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。

キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。
  p.60 「ハングアップしたときは」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。
  p.78 「文字を入力するには」

現象

Fn、Ctrl、Shift、Alt、(アプリケーションキー)などの機能キーが動作しない。

確認と対処

- 入力キーの機能が入れ替わっている可能性があります。BIOSの「Advanced」メニュー画面の設定を確認してください。

<キーボード左下のFnとCtrlが機能しない場合>
「Exchange L-Fn & L-Ctrl key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

<キーボード右下のAltと(アプリケーションキー)が機能しない場合>
「Exchange R-Alt & Win App key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

<キーボード右下のFnとShiftが機能しない場合>
「Exchange R-Fn & R-Shift key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

p.81 「入力キーの機能の入れ替え」
p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.206 「Advancedメニュー画面」

タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

- 手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしていると、動きが悪くなります。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

- タッチパッドがOFFになっていないか確認してください。タッチパッドキー（⊟/x）を押してみてください。
  p.82 「タッチセンサー」

- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。

- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。
  p.60 「ハングアップしたときは」

▶表示装置の不具合

表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

LCDユニットの不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

- 外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

- 画面の明るさを調節してください。Fn+F5/Fn+F6で調節できます。
  p.114 「LCDユニットの調整」

- バックライトが消灯していないか確認してください。Fn+F7を押してみてください。
  p.114 「バックライトの消灯」

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.179 「省電力状態からの復帰方法」

- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してそのまま放置すると、スリープ状態に移行します（購入時の設定）。ACアダプタを接続してから復帰してください。

● コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

● 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

p.268 「警告メッセージ/警告音」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

● LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が鳴らない。

確認と対処

● 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

p.126 「音量の調節」

● 音声出力先がスピーカに設定されているか確認してみてください。

p.129 「音声出力先の設定」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止（ハングアップ）する場合があります。

- 応答のないプログラムを強制終了してから、コンピュータを再起動してください。
  p.60「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションのUSB FDDから起動しようとしている場合は、ドライブやディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

● ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

● ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

●「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
p.228 「マニュアルびゅーわのインストール」

●「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。
ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。
p.274 「電子マニュアルのダウンロード」

現象

Internet Explorerの使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

● 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

WindowsメールでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

● メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
Windowsメールの［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
  p.162「ファイアウォール」
  詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- ソフトウェアやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。

- 安全なソフトウェアを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、ソフトウェアの製造元へお問い合わせください。

- 問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows VistaリカバリDVDを光ディスクドライブにセットして再起動しても、「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されない。

確認と対処

● 光ディスクドライブの起動の順番を HDD よりも後ろに設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。
p.203 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

FAXモデムの不具合

現象

「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処

●「モデムのプロパティ」で［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。
［スタート］ー「コントロールパネル」ー「ハードウェアとサウンド」ー「電話とモデムのオプション」ー「モデム」タブー［プロパティ］ー「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象

インターネットへ接続できない。

確認と対処

● モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認してください。

● 次の場所で電話番号や、設定を再確認してください。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認してください。
［スタート］ー「接続先」ー「接続名（任意の名前）」を右クリックー［プロパティ］ー「全般」タブー［ダイヤル情報］

- 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - 全角の文字を使用していないか（全角文字は使用できません）。
  - 大文字と小文字を区別しているか。
  - 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
  - 接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。
  - 接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

- DNS（ネーム）サーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認してください。正しくない場合は修正してください。

  次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認してください。

  (1)［スタート］－「接続先」－「接続名（任意の名前）」を右クリック－［プロパティ］をクリックします。
  (2)「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP）」－［プロパティ］でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認してください。

- 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

- 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

- 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
  - 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
  - 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
  - プロバイダのサーバが停止している。

現象

V.92、K56flex通信方式で通信できない。

確認と対処

- 回線状況によって、V.92、K56flex通信方式で接続できない場合があります。V.92、K56flex通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている最寄りの電話局の交換機から、プロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.92、K56flex通信方式で接続することができます。

- PBX 回線では、V.92、K56flex 通信方式では接続できません。V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。

現象

V.92、K56flex、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

- V.92、K56flex、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク（有線LAN、無線LAN）、インターネットの不具合に対する対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

6

システム診断ツールを使う

ここでは「システム診断ツール」について説明します。
システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。本機に添付の「リカバリツールCD」に収録されています。

▶システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

1 リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示された場合は、[×]をクリックして画面を閉じてください。

2 ［スタート］－［▶］－［再起動］をクリックして、本機を再起動します。

Windowsが起動できないときは、Ctrl+Alt+Deleteを押して、コンピュータを再起動します。

3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5 光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。

これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここでは、トラブルが発生した場合に役立つWindowsの機能について説明します。

セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **EPSONと表示され、消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **[スタート] ─「すべてのプログラム」─「アクセサリ」─「システムツール」─「システムの復元」を選択します。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、[次へ] をクリックします。**
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して［次へ］をクリックし、ポイントを選択して［次へ］をクリックします。

4 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。

5 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい] をクリックします。

コンピュータが再起動します。

6 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 [スタート] ー「すべてのプログラム」ー「アクセサリ」ー「システムツール」ー「システムの復元」を選択します。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。

4 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて [作成] をクリックします。

5 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、[作成] をクリックします。

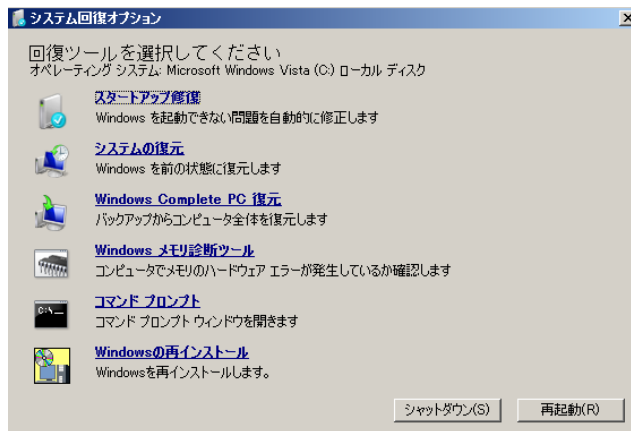
6 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

以上で復元ポイントの作成は完了です。

▶Windows回復環境（Windows RE）を使う

本機のHDD内の「消去禁止領域」には、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。

<イメージ>

● スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。

● システムの復元

コンピュータの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。

● Windows Complete PC復元

バックアップしてあったデータを使用してコンピュータ全体を復元します。Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basicには、Windows Complete PC復元のためのバックアップ機能はありません。

● Windowsメモリ診断ツール

メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

● コマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

6

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。
「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows REの項目を表示させ、対処を行います。

1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。

2 「回復オプションにアクセスするには・・・」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。

3 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

HDD内のWindows REを手動で起動する

HDD内のWindows REは、手動で起動することもできます。
手動で起動する方法は、次のとおりです。

1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。

2 「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。

F8 を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、↵ を押します。

4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。

5 「回復オプションにアクセスするには・・・」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。

6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

DVDのWindows REを使用する

Windows REは本機に添付の「Windows VistaリカバリDVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。
DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。**
「自動再生」画面が表示されたら[×]をクリックし、画面を閉じてください。

2 **［スタート］－［▶］－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、［次へ］をクリックします。**

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で［次へ］をクリックします。**

6 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

6

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、警告音（ビープ音）が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明と対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」－「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音（ビープ音）

警告音の回数	警告の内容	説明と対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

「お手入れ」 270
「データのバックアップ」 271
「バックアップCDの作成」 272
「電子マニュアルのダウンロード」 274
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」 275
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」 276
「リチウム電池の交換」 284
「ATコマンドの使用」 285
「コンピュータを廃棄するときは」 286
「機能仕様一覧」 288

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。

お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

- 本機をたたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく、安全に使おう！」項目の「Windowsシステム」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

バックアップCDの作成

HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDメディアにバックアップすることができます。
HDDが故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、インストール用データをCDメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

▶バックアップCDの作成方法

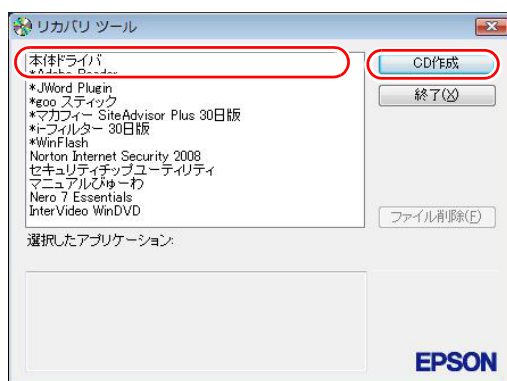
バックアップCDはリカバリツールを使用して作成します。
バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

1　デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2　「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3　「リカバリツール」画面が表示されたら、[CD作成] をクリックします。

4　本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して [CD作成] をクリックします。

バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順5の画面が表示されるまでに数分かかります。

＜イメージ＞

項目名の前に「＊」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

5　画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。
ここでは、本体ドライバのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

1 **作成した本体ドライバのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
クリックする記載内容は、「Setup.exeの実行」など、作成したバックアップCDによって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] ー「コンピュータ」ー「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。**
ソフトウェアによっては、[続行] をクリックします。

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
本体ドライバ以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップCDによって異なります。
以降の手順は、☞ p.214 「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを削除してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポート」－「ダウンロード」－「マニュアル」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポート」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ(TPM)によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティチップ（TPM）を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

TPM のセキュリティ機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。
忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティ機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティ機能使用前の準備

TPMのセキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

BIOSの設定値を次のように変更します。

「Security」メニュー画面

「TPM Security」：Enabled（有効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.193 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.207 「Securityメニュー画面」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

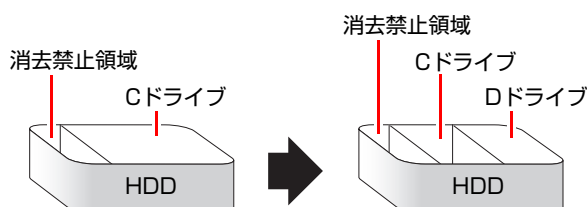
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

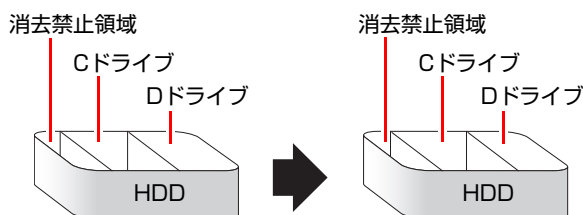
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割したひとつひとつを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

消去禁止領域
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。
この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

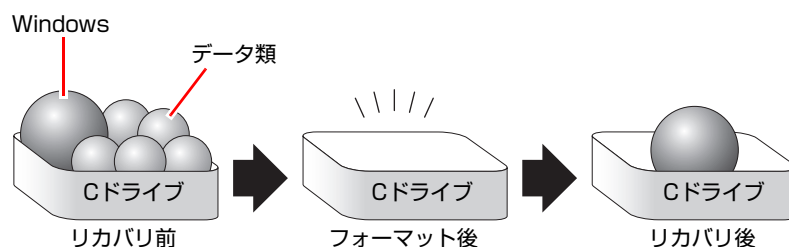
<ドライブのサイズを変更する>
例：Cドライブのサイズを大きくします。

この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

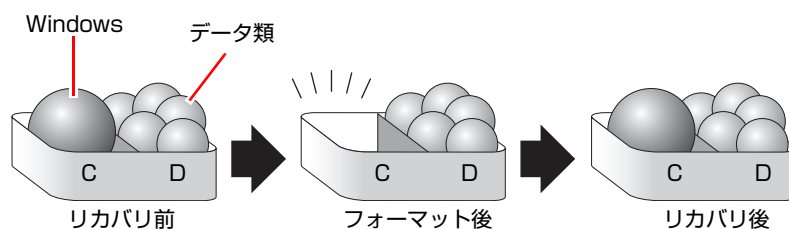
▶Cドライブを分割・変更する

Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

- メリット
  HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

＜HDD領域が1つの場合＞

リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

＜HDD領域を分割した場合＞

たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

HDD が分割されている状態でリカバリを行うときは、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

●デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。
Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.280「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。
p.271「データのバックアップ」

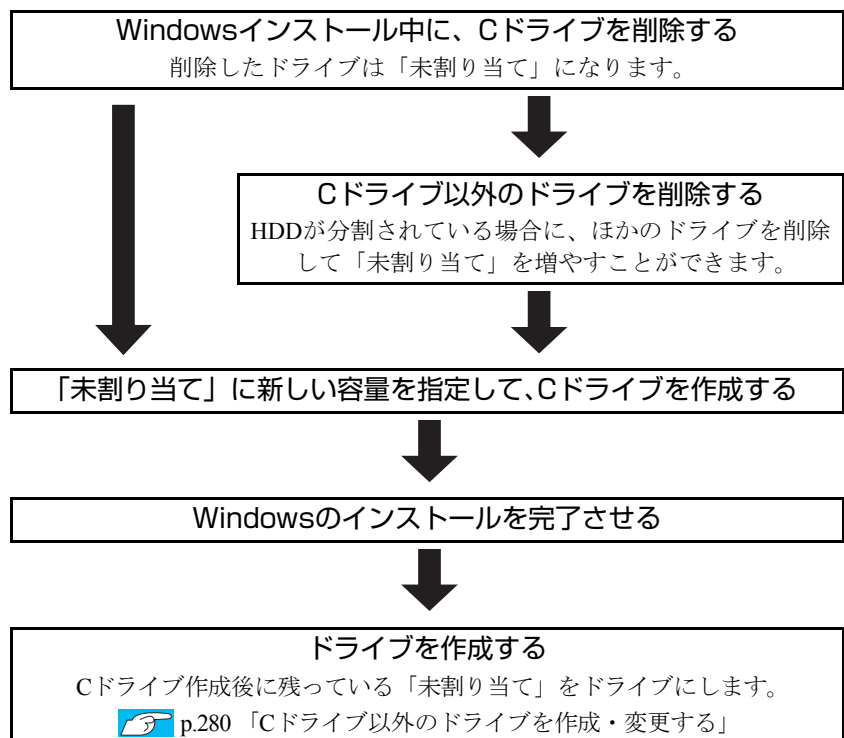
Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。
作業はp.279「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除する
削除したドライブは「未割り当て」になります。

Cドライブ以外のドライブを削除する
HDDが分割されている場合に、ほかのドライブを削除して「未割り当て」を増やすことができます。

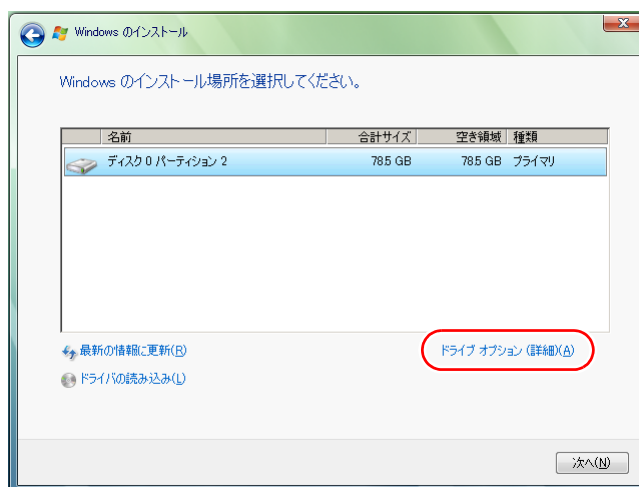
「未割り当て」に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

Windowsのインストールを完了させる

ドライブを作成する
Cドライブ作成後に残っている「未割り当て」をドライブにします。
p.280「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Ｃドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。
p.219 「Windows Vistaのインストール」の手順9を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

<p.219 「Windows Vistaのインストール」の手順9の読み替え>

1 「ドライブオプション（詳細)」をクリックします。

2 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「削除」をクリックします。

3 「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、［OK］をクリックします。

削除したパーティション（Cドライブ）が「未割り当て領域」となります。

4 次のとおり作業を続けます。

<Cドライブを分割する場合>

(1)「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やす場合>

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。
(2)「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5 **Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、[適用] をクリックします。**

Cドライブには、40GB程度（40000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分〜40分かかります。

続いてp.219 「Windows Vistaのインストール」手順10に進みます。

手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。

次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.277 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

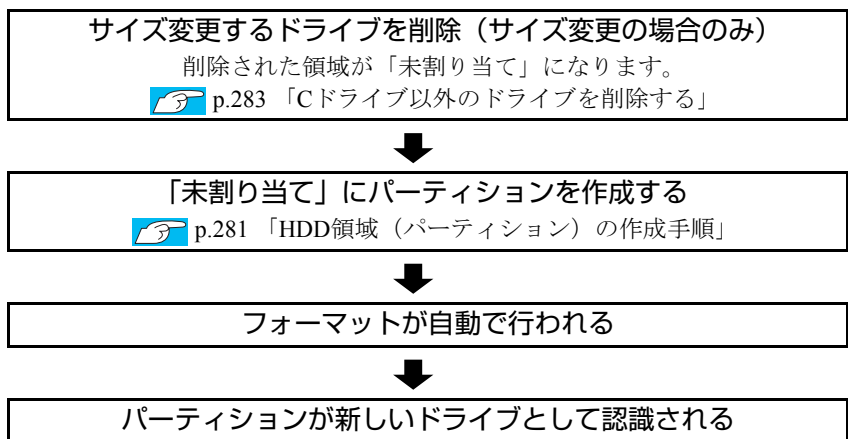
ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業はp.281「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。

サイズ変更するドライブを削除（サイズ変更の場合のみ）
削除された領域が「未割り当て」になります。
p.283 「Cドライブ以外のドライブを削除する」

「未割り当て」にパーティションを作成する
p.281 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

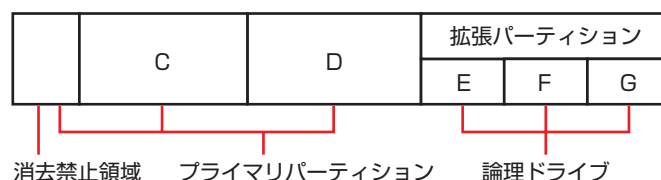
フォーマットが自動で行われる

パーティションが新しいドライブとして認識される

※HDD 内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。消去禁止領域もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

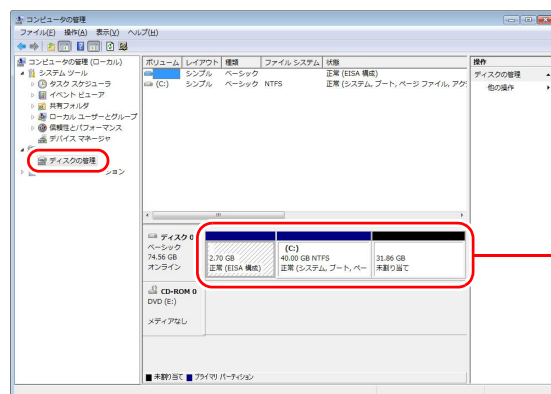
<パーティションの組み合わせの例>

HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。

<イメージ>

4 パーティションを作成したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。

5 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

6 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。

7 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。

8 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

9 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は完了です。

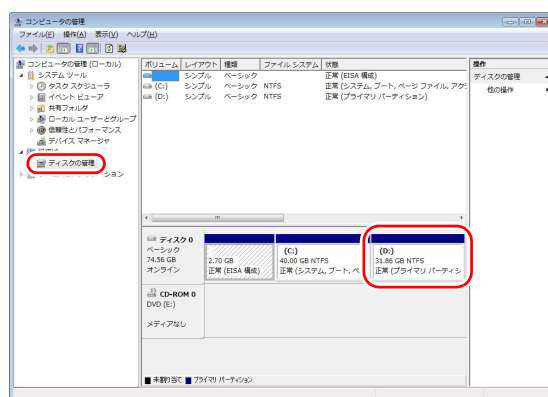
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。

<イメージ>

4 **削除したいドライブ（パーティション）を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。**

5 **「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。**

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.281 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給がまったくない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本機のモデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア（Internet ExplorerやWindowsメールなど）でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。
次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」の欄を表示させる方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］をクリックします。**

2 **「詳細設定」タブをクリックすると、「追加設定」欄が表示されます。**

<table>
<tr><th>現　象</th><th>AT コマンド</th></tr>
<tr><td>ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。</td><td>「ATM0」</td></tr>
<tr><td>ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。</td><td>「ATL0」</td></tr>
<tr><td>「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td><td>「ATX3」</td></tr>
<tr><td>モデムの設定を工場出荷時の状態にする。</td><td>「AT&F」</td></tr>
<tr><td>ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。</td><td>「ATP」</td></tr>
<tr><td>プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。</td><td>「ATT」</td></tr>
<tr><td>「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td><td rowspan="3">「AT+MS=34」（V34）
「AT+MS=92」（V92）
「AT+MS=K56FLEX」（K56flex）
使用したい通信方式に応じて設定。</td></tr>
<tr><td>接続が不安定（10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう）。</td></tr>
<tr><td>パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td></tr>
</table>

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときには『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
リカバリツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。
消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。
HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1 **本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。**
リカバリツールのインストール画面が表示された場合は、をクリックして画面を閉じてください。

2 **［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、本機を再起動します。**

3 **黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えたあと、「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。**
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 **Ctrl + C を押して診断を中止したあと、どれかキーを押します。**

5 **選択項目画面が表示されたら、↓ で「HD Erase」を選択して ↵ を押します。**

6 **選択項目画面が表示されたら、↓ で「Full　Erase」を選択して ↵ を押します。**

7 **選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して ↵ を押します。**
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、Esc を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 **キーボードで「Yes」と入力します。**

消去が始まります。

消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。

9 **「Erase of HDD :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。**

これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

項目		仕様
CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ
BIOS		AMI BIOS
チップセット		モバイル インテル PM965 Express Chipset + ICH8M
セキュリティチップ	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT12
メインメモリ		PC2-5300 SODIMM（DDR2-667 SDRAM）を使用して最大3GBまで搭載可能
ビデオ	コントローラ	NVIDIA GeForce 8600M GT
	ビデオメモリ	専用ビデオメモリ256MB 搭載しているメインメモリの容量により、メインメモリの一部（最大64MB～1279MB）をビデオメモリとして使用
画面表示	液晶タイプ	13.3型WXGA カラー液晶 1280×800ピクセル True Color （32ビット）*1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、1920 × 1200ピクセル（ワイドディスプレイ接続時のみ）True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		ハイ・デフィニション・オーディオ対応Realtek製ALC888S-GR
キーボード		日本語対応88キー（Windowsキー付き）、タッチセンサー 7個
ポインティングデバイス		タッチパッド
記憶装置	HDD	1台内蔵（2.5型シリアルATA HDD）
	光ディスクドライブ	1台内蔵
インタフェース	USB	3（USB2.0対応）
	LAN	1（RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T自動認識）
	FAXモデム	1（RJ-11 K56flex V.92対応）*2
	サウンド	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1またはS/P DIF×1
	ディスプレイ	VGAコネクタ（アナログ、ミニD-SUB 15ピン）×1
		HDMIコネクタ（HDMI 19ピン）×1 （添付のDVI-HDMI変換アダプタを使用してデジタルDVI-D 24ピンに変換）
Expressカードスロット		1（ExpressCard/34/54スロット）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード（SDHC対応）
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ（SADP-65KB）	入力AC100V～240V±10％*3、1.5A （50/60Hz）、出力19V、3.42A、65W　重量約320g（含電源コード）
	軽量バッテリ（BT4101-G）	容量 2000mAh　Li-ion 14.8V　駆動時間 約2.0時間*4　JEITA測定方法Ver1.0
	標準バッテリ（BT3202-G）	容量 5200mAh　Li-ion 11.1V　駆動時間 約4.2時間*4　JEITA測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80％（ただし、結露しないこと）
外形寸法		軽量バッテリ装着時：322（幅）× 230（奥行）× 25.5（高さ）mm 標準バッテリ装着時：322（幅）× 235（奥行）× 25.5～32.5（高さ）mm
質量		軽量バッテリ装着時：約1.78kg　標準バッテリ装着時：約1.91kg
消費電力		76.5W（最大）/1.3W（スリープ状態）/ 1.0W（電源オフ時）

*1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
*2 認定番号ラベルはコンピュータの底面に貼付されています。
*3 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
*4 システム構成や使用環境により異なります。

Bluetooth*[1]

準拠規格	Bluetooth標準規格 Ver2.0+EDR
通信距離（規格値）	10m*[2]
転送速度（規格値）	3Mbps

*1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：BT-183
認証番号　：003NY05095 0000
*2 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。推奨される通信距離は3m以内です。

無線LAN*[1]（オプション）

● IEEE802.11a/b/g

準拠規格	IEEE802.11a　：ARIB STD-T71（小電力データ通信システム規格） （J52/W52/W53/W56）5GHz　無線LAN標準プロトコル IEEE802.11b/g　：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
データ転送速度（規格値）*[2]	802.11a/g : 54Mbps 802.11b　: 11Mbps
伝送方式	OFDM方式（IEEE802.11a/g） DS-SS方式（IEEE802.11b）
伝送距離（理論値）	111Mbps：40m（IEEE802.11b） 54Mbps　：25m（IEEE802.11g）/12m（IEEE802.11a） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時*[3]
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応
認証	802.1x*[4]
使用無線チャンネル	IEEE802.11a：34/38/42/46ch（J52）、36/40/44/48ch（W52）、52/56/60/64ch（W53） 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch（W56） IEEE802.11b：1〜13ch IEEE802.11g：1〜13ch

● IEEE802.11n ドラフト2.0

準拠規格	IEEE802.11n ドラフト2.0
データ転送速度（規格値）*[2]	300Mbps
伝送方式	MIMO方式
セキュリティ	WPA、WPA2対応（AESのみ）
認証	802.1x*[4]

*1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：4965AGN MJP2
認証番号　：003WWA075020、003XWA075021、003YWA075022
*2 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*3 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。
*4 当社では、Windows Server 2003とのIEEE802.1x Radius Server（EAP-TLS対応認証サーバ）＋WPA（TKIP）の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

索　引

A

ACアダプタ
接続する 39
使う 62
ACアダプタコネクタ 33
Adobe Reader 27
インストール 226
セットアップ 226
ATコマンド 169, 285

B

BIOS 191
BIOS Setupユーティリティ 193
HDDアクセス制限 202
起動 193
起動(Boot)デバイスの順番を変更する 203
終了 197
設定項目 205
設定値 210
設定値を元に戻す 198
操作 194
パスワードの設定 199
BitLocker 85
Bluetoothキー 31, 82, 108
Bluetooth機能 104
ON/OFF方法 108
Bluetooth状態ランプ 32, 108
Bluetoothドライバ 27
インストール 225

C

Caps Lockランプ 31
CDメディア
読み込み・再生 89
COAラベル 25
Cドライブ 83
分割・変更する 277
Cドライブ以外のドライブ
削除する 283
作成・変更する 280

D

DVD VIDEO再生ソフト 89
DVDメディア
読み込み・再生 89
DVI-HDMI変換アダプタ 118

E

Expressカード
使う 100
不具合 251
Expressカードスロット 30, 190

F

FAXモデム 168
不具合 259
FAXモデムドライバ 26
File Protection 130
Fnキー 77, 80

G

gooスティック 28, 158
インストール 230

H

HDDアクセス制限 202
HDD設定変更サービス 84
HDD領域
分割・変更・作成 276
HDD(ハードディスクドライブ)
暗号化 85
使う 83

データを消去する......286
不具合......247
HDMIコネクタ......33, 190
HDMI接続......118

I

IEEE802.11a/b/g/n......141
InCD......91
Intel Matrix Storage Manager......26
Internet Explorer......156
情報バー......158
追加機能......158
iーフィルター 30日版......27, 165
インストール......227
管理パスワード......166, 228
セットアップ......228

J

Java2 Runtime Environment......27
JWord......158
JWord Plugin......28
インストール......230

L

LANケーブル......38, 136, 146
LANコネクタ......33, 190
接続......38
LCD画面......30
お手入れ......270
LCDユニット......30, 113
不具合......254

M

MACアドレスフィルタリング......151
MS-IME......78

N

Nero 7 Essentials......27
インストール......229
使い方......91
Norton Internet Security 90日版......27
インストール......227
ファイアウォール機能......162
NumLockランプ......31, 79

P

Password Bank（パスワードバンク）......130
PBX......169
PCお役立ち情報......49, 51, 271

S

S/P DIF（光デジタルオーディオ出力）
コネクタ......33, 125, 190
SODIMM（メモリ）......182
SpeedStep（スピードステップ）機能......180
SSID......148
SSID非通知......152
Supervisor Password（管理者パスワード）......199

T

TKIP......148
TPM（セキュリティチップ）......275
不具合......245

U

USB......93
USB機器......93
接続と取り外し......93
使う......93
USBコネクタ......30, 33, 190
USBマウス......76
User Password（ユーザーパスワード）......199

V

VGAコネクタ 30, 190

W

Wakeup On LAN 137
Webフィルタリング 165
Webフィルタリングソフトウェア 165
　　インストール 227
WEP 148
Windows
　　ロック 56
Windows Defender 163
Windows Media Player 127
Windows RE 52, 84, 265
Windows Update 159
Windows Vista
　　インストール 218, 219
　　セットアップ 44
　　ヘルプ 49
Windows VistaリカバリDVD 26, 214
Windows回復環境 52, 84, 265
Windows指紋ログオン 130, 135
Windowsの修復 52
Windowsメール
　　初期設定 157
WinDVD 27, 89
　　インストール 229
WPA 148

あ

アイコン 20
アクセスランプ 32
アップグレードサービス 182
アップデート
　　Windows 159
アナログ接続 118
アルファベットの入力 79
暗号化 148

い

インスタントキードライバ 26
インスタントキーユーティリティ 27
インストール
　　Adobe Reader 226
　　Bluetooth 225
　　gooスティック 230
　　i－フィルター 30日版 227
　　JWord Plugin 230
　　Nero 7 Essentials 229
　　Norton Internet Security 90日版 227
　　Webフィルタリングソフトウェア 227
　　Windows Vista 218, 219
　　WinDVD 229
　　指紋認証ユーティリティ 232
　　セキュリティソフトウェア 227
　　セキュリティチップユーティリティ 232, 275
　　本体ドライバ 223
　　マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 231
　　マニュアルびゅーわ 228
　　リカバリツール 222
インストール時の不具合 258
インターネット
　　接続 154
インターネットエクスプローラ
　（Internet Explorer） 156
インテル・ターボ・メモリ 180
インテル・ターボ・メモリドライバ 27
インフォメーションキー 31, 82
インフォメーションメニュー 27, 50

う

ウイルス対策機能 161

え

液晶ディスプレイ 113

お

オーディオ機器の接続 125
お手入れ 270
お問い合わせ情報シール 25
オペレーティングシステム（OS） 19
音声出力先の設定 129
音量の調節 126

か

解像度の変更 116
書き込み
　光ディスクメディア 90
拡張パーティション 281
各部の名称と働き 30
カスタマイズ 22
カテゴリの表示 53
かな入力 78
画面サイズ切り替えキー 31, 82
画面サイズの切り替え 117
画面表示 113
管理者 55, 216
管理者パスワード 199
管理パスワード
　i－フィルター 30日版 166, 228

き

キーボード 32, 77
　不具合 252
記憶装置
　不具合 247
起動時の不具合 238
起動順位の変更 203
機能キー 77
機能仕様一覧 288
休止状態 176
記録メディア 9

く

クラシック表示 53
クリックボタン 32
クローンモード 120

け

警告音 268
警告メッセージ 268
軽量バッテリ 62, 65
検索
　JWord 158

こ

コピーコントロールCD 86
コントロールパネルの表示 53
コンピュータウイルス 156, 161
コンピュータの廃棄 286
コンピュータ本体の不具合 238, 244
コンピュータ名 44

さ

再インストール 212
　必要なメディア 214
再起動 59
再生
　音声 127
サウンド機能 124
　不具合 255
サウンドドライバ 26
サウンドユーティリティ 128
サポート情報検索 52
サポート・サービスのご案内 25

し

「システム回復オプション」画面 266
システム診断ツール 28, 262
　　システム診断の実行............................. 262
システムの拡張 181
システムの復元 263
自動更新 159
指紋センサー 32, 131
指紋認証機能 130
指紋認証ドライバ 27
指紋認証ユーティリティ 27, 132
　　インストール 232
指紋の登録 132
シャットダウン 56
終了 57
　　電源を切る 58
仕様 288
消去禁止領域 26, 84, 276
　　バックアップ 272
省電力機能 53, 174
　　不具合... 244
省電力状態
　　移行しない設定 177
　　移行方法.. 177
　　復帰方法.. 179
情報バー 158
使用・保管時の注意 8
初期設定ツール 46
シリアルATA... 83
シングルチャネル 183
シングルモード 120

す

数値キー 77
数値の入力 79
スクロール 73
スタートボタン 20
スタートメニュー 20
ステータス表示ランプ 31
ステレオスピーカ 32
スピードステップ機能 180
スリープ状態 56, 176

せ

制御キー 77
セーフモード 116, 263
セキュリティ機能 275
セキュリティソフトウェア 161
　　インストール.. 227
セキュリティチップユーティリティ 28
　　インストール................................ 232, 275
　　設定 219
セキュリティチップ（TPM） 275
　　不具合 245
セキュリティロックスロット 33, 180
接続と取り外し
　　USB機器.. 93
設定値を元に戻す 198
セットアップ
　　Adobe Reader 226
　　i−フィルター 30日版 228
　　Windows..................................... 41, 44
セットアップ完了後の作業 48
セットと取り外し
　　Expressカード 100
　　メモリカード.. 96

そ

外付けディスプレイ 118
　　解像度と表示色...................................... 123
　　接続 118
　　表示の終了.. 120

ソフトウェア
強制終了 60
不具合 256

た

ダイヤルアップ接続 171
タスクバー 20
タッチセンサー 77, 82
タッチパッド 32, 72
不具合 253
タッチパッドキー 31, 82
タッチパッドドライバ 26
タブ 20
ダブルクリック 73

ち

チップセットドライバ 26
直接入力モード 78

つ

通知領域 20
通風孔 30, 34

て

ディスクの管理 233, 281
ディスプレイ（LCD） 113
不具合 254
データの暗号化 275
デジタル接続 118
デスクトップ画面 20
デュアルチャネル 183
デュアルビューモード 121
電源スイッチ 31
電源設定 174
電源の入れ方 43
電源プラン 174
電源ランプ 32
電源を切る 58
強制終了 60
シャットダウン 58
添付されているソフトウェア 26
電話回線に接続する 38

と

ドラッグアンドドロップ 73
トラブルが解決しなかったら 52
「取り外し」アイコン 94

な

内蔵ステレオスピーカ 32, 124
内蔵スピーカ
不具合 255
内蔵マイク 30, 124

に

日本語入力システム 78
日本語入力モード 78
入力装置
不具合 252

ね

ネットワーク切替えツール 26
ネットワークドライバ 26
ネットワークプロファイル 150
ネットワーク（有線LAN） 136

の

ノーマル表示 117

は

パーティション 281

ハードディスクドライブ(HDD)
　暗号化 85
　使う 83
　データを消去する 286
　不具合 247
廃棄(コンピュータ) 286
パスワード 199
パスワードの設定 199
パスワードバンク(Password Bank) 130
バックアップ 219, 271
バックアップCD
　インストール 273
　作成 272
バックライト 114
バッテリ残量低下
　省電力状態に移行 177
　通知 66
バッテリ充電ランプ 32
バッテリパック 34
　交換 68
　装着する 36
　使う 62
　不具合 245
ハングアップ 60

ひ

光ディスクドライブ 33
　使う 86
　不具合 248
光ディスクドライブイジェクトキー 31, 82
光ディスクメディア
　書き込み 90
　読み込み・再生 89
光デジタルオーディオ出力(S/P DIF)
　コネクタ 33, 125, 190
ビデオドライバ 26
ビデオプロジェクタ 120
表示色の変更 116
表示装置
　不具合 254
標準バッテリ 62, 65
標準ユーザー 55

ふ

ファイアウォール 162
ファイル削除
　リカバリツール 224
フィッシング詐欺検出機能 164
フォルダメニュー 54
不具合
　メモリ 247
復元ポイントを手動で作成する 264
プライマリパーティション 281
ブロードバンドモデム 146
プロファイル 107
　ネットワーク切替えツール 138

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 33, 125, 190

ほ

ホームテレホン回線 169
ボタン 20
ボリュームコントロール 31, 82
本機の終了方法 56
本体ドライバのインストール 223

ま

マイクなどの接続 125
マイク入力コネクタ 33, 125, 190
マウスの接続 76
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 27

インストール……231
マニュアルダウンロード……274
マニュアルびゅーわ……27, 51
インストール……228

む

無線LAN
ON/OFF方法……145
接続の設定……146
使う……141
無線LAN/Bluetooth状態ランプ……32
無線LANアクセスポイント……146
無線LANキー……31, 82, 145
無線LAN状態ランプ……145
無線LANドライバ……26

め

メモリ
不具合……247
メモリカード……95
不具合……251
メモリカードスロット……33, 190
メモリカードドライバ……26

も

文字キー……77
モジュラコード……38
文字を入力するには……78
モデム……168
設定……170, 233
不具合……259
モデムコネクタ……33, 190

ゆ

ユーザーアカウント……54
ユーザーアカウント制御画面……55
ユーザーサポート……52
ユーザーパスワード……199

ら

ライセンス認証……45
ライティングソフト……90

り

リカバリ……212
リカバリツール……26
インストール……222
バックアップCDの作成……272
ファイル削除……224
リカバリツールCD……26, 214
リチウム電池の交換……284
リモートブート……138
領域の作成……233

ろ

ローマ字入力……78
ロック……56
論理ドライブ……281

わ

ワイド表示……117

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://shop.epson.jp/pcrecycle/

Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、米国特許（Nos. 5,315,448 and 6,836,549）および知的財産権により保護されています。Macrovision Corporationの許可なしに、この技術を使用することはできません。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

*Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、ActiveX、BitLocker、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- MultiMedia Card™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。
- SDロゴは商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。